

国文学演習（2） a・b

久保朝孝

【授業の概要】

平安時代を範囲とし、おもに物語・日記文学を対象とする。中古文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。

作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成したい。

【授業計画】

毎回、以下の手順に従って『土佐日記』を精読する。

- (1) 担当者の報告・発表
- (2) 質疑応答
- (3) 批判討論
- (4) 助言

【評価方法】

出席状況、上記(1)(2)(3)及び期末レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

影印本 土佐日記（萩谷朴編 新典社 800円 税別）

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学演習（3） a・b

岩下紀之

【授業の概要】

雨夜の記の講読。

【授業計画】

出席者に調査発表を課する。

【評価方法】

日常の研究成果による。

【テキスト】

教員が用意する。

国文学演習（4） a・b

山下宏明

【授業の概要】

『平治物語』を読む。この作業を通して、物語テキストの読み方を訓練する。

【授業計画】

始めに研究史を展望し、課題の所在を確認する。

第一類本と第四類本の比較に、いくさ物語生成の実態把握につとめ、その表現としての「語り」を文体の課題としてとらえ、解読の方法を指導する。

【評価方法】

各期のレポートにより判定する。

【テキスト】

新日本古典文学大系 保元・平治物語・承久記（岩波書店）
日本古典文学大系 保元物語・平治物語（岩波書店）

国文学演習（5） a・b

阿部一彦

【授業の概要】

井原西鶴の『世間胸算用』を影印本で解読し、鑑賞して行く。

【授業計画】

- 第1回 西鶴の文学生涯について。
- 第2回 以下、受講者の分担により読んで行く。
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回 『世間胸算用』の研究史と論点

【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

【テキスト】

影印本『世間胸算用』（興津要編著 おうふう）

国文学演習（6） a・b

小倉 斉

【授業の概要】

＜短篇小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—＞
日本の近・現代を代表する短篇小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

【授業計画】

＜前期＞

- 1 『にごりえ』（2回）
- 2 『夢十夜』（2回）
- 3 『半日』（2回）
- 4 『サラサーテの盤』（2回）
- 5 『焼跡のイエス』（2回）
- 6 『百萬圓煎餅』（2回）
- 7 『風流夢譚』（2回）

＜後期＞

- 1 『だらだら坂』（2回）
- 2 『摩天楼』（2回）
- 3 『陽気な夜回り』（2回）
- 4 『幼児狩り』（2回）
- 5 『木の箱』（2回）
- 6 『しんとく問答』（2回）
- 7 『レキシントンの幽霊』（2回）

【評価方法】

レポート、授業への参加状況、レジュメの内容、発表の様子などによる。

【テキスト】

＜前期＞：にごりえ・たけくらべ（樋口一葉 角川文庫）、文鳥・夢十夜（夏目漱石 新潮文庫）、半日（森鷗外 プリント）、東京日記（内田百閒 岩波文庫）、焼跡のイエス（石川淳 プリント）、百萬圓煎餅（三島由紀夫 プリント）、風流夢譚（深沢七郎 プリント）
＜後期＞：横しぐれ（丸谷オー 講談社文芸文庫）、夢の中での日常（島尾敏雄 角川文庫）、木犀の日（古井由吉 講談社文芸文庫）、幼児狩り（河野多恵子 プリント）、ピクニック、その他の短編（金井美恵子 講談社文芸文庫）、戦後短篇小説再発見6 変貌する都市（講談社文芸文庫）

国文学演習（8） a・b

増井典夫

【授業の概要】

近代日本語研究のありかたを考える。まずは安田敏朗の著作を読み、考える所から始める。

【授業計画】

講義及び出席者の調査発表で進める。

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

脱「日本語」への視座（安田敏朗 三元社）
その他は授業時の指示による。

国文学演習（7） a・b

都築久義

【授業の概要】

近代作家の著名な作品を毎回とりあげて講義する。

【評価方法】

平常の学習態度

【テキスト】

毎時決める

国文学特講（2） a・b

久保朝孝

【授業の概要】

平安時代を範囲とし、おもに物語・日記文学を対象とする。中古文学研究の基本的姿勢・方法を実践的に理解・体得することを目的とする。

作品の「読み」の方法を確立し、問題発見・調査・整理・批判・考察の過程を経て、自らの見解をまとめあげる力を養成したい。

【授業計画】

毎回、以下の手順に従って『とりかへばや物語』を精読する。

- (1) 担当者の報告・発表
- (2) 質疑応答
- (3) 批判討論
- (4) 助言

【評価方法】

出席状況、上記(1)(2)(3)及び期末レポート等を総合して評価する。

【テキスト】

特に指定しない。各自使いやすいテキストを用意すること。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

国文学特講（3） a・b

岩下紀之

【授業の概要】

書院部蔵賦物連歌の講読。

【授業計画】

出席者に調査発表を課する。

【評価方法】

日常の研究成果による。

【テキスト】

教員が用意する。

国文学特講（4） a・b

山下宏明

【授業の概要】

（文学研究と批評）作品批評のために、時代やジャンルを越えて研究の方法を検討する。

入学者は、各自の専攻を有し、論文をも執筆している。それぞれの成果が、現在の学会において、いかなる位置を占め、いかなる意味があるかを考えるべきで、たえず批評史の課題として相対化しなければならない。

そのための研究や批評の錬磨に努め、歴史的な展望が必要である。必要に応じて批評史の展望をも概説し参考を提供する予定である。

【授業計画】

前期には、まず各自の、これまでの研究経過の報告を求め、あわせて、その研究史上の位置や意味を考えさせる。必要に応じて、批評の方法を指導する。

後期には、各分野の注目すべき論文や著書を紹介し、読解を行うことを課す。時に、具体的な作品を取り上げ、その解説をも平行して行う。

【評価方法】

出席状況と、各期のレポートにより判定する。

【テキスト】

最低の必読文献として、次のものがある。

文学とは何か（T・イーグルトン 岩波書店）

新文学入門（大橋洋一 岩波書店）

新しい文学のために（大江健三郎 岩波新書）

物語のデイスコース（ジェラルド・ジュネット 風の薔薇社）

その他、各種学会誌の論文コピー

国文学特講（5） a・b

阿部一彦

【授業の概要】

『連句文芸の流れ』を使用し、以下の授業計画に従って、「連句文芸」の変遷と本質について学んで行く。

【授業計画】

第1回 連歌の発生

第2回 短連歌から長連歌へ

第3回 初期の長連歌

第4回 地下の連歌

第5回 つくば集から新撰つくば集へ

第6回 室町俳諧

第7回 連歌の固定

第8回 貞門俳諧

第9回 守武流の流行

第10回 漢詩文調の流行と芭蕉

第11回 蕉風俳諧と元禄俳壇

第12回 雑俳の成立と展開

【評価方法】

出席・発表とレポートによる。

【テキスト】

連句文芸の流れ（櫻井武次郎著 和泉書院）

国文学特講（6） a・b

小倉 斉

【授業の概要】

＜近・現代小説の方法と課題—作品をどう読むか—＞

「小説を読む」とはどのような行為なのかという課題について、日本の近・現代を代表する小説の精読および方法意識の検討を通して考察し、言語表現としての文学を研究する方法を身につける。「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法を習得することが目標である。

【授業計画】

＜前期＞：澁澤龍彦を読む

1＜再話＞という方法（2回）

2『ねむり姫』精読（6回）

3『高丘親王航海記』精読（6回）

＜後期＞：中上健次を読む

1＜物語＞の復権（1回）

2『化粧』精読（8回）

3『千年の愉楽』（6回）

【評価方法】

授業への参加状況、発表およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

＜前期＞

ねむり姫（澁澤龍彦 河出文庫）

高丘親王航海記（澁澤龍彦 文春文庫）

類推の山（R・ドーマル 河出文庫）

＜後期＞

化粧（中上健次 講談社文芸文庫）

千年の愉楽（中上健次 河出文庫）

国文学特講（7） a・b

都築久義

【授業の概要】

近代作家の著名な作品を毎回とりあげて講義する。

【授業計画】

作家・作品ごとに発表者を決め、発表をもとに討議する。

【評価方法】

平素の学習態度を中心に評価する。

【テキスト】

特に定めず。

特殊研究（2）日本古典書誌学 I a・b

藤井 隆

【授業の概要】

日本の古典を研究する者で、古典の原資料（近世やそれ以前の写本、刊本など）を調査し、研究や発表をしない者は少ないであろう。その場合、原資料の紙質、装訂、文字筆跡、印刷などに関する知識が必要不可欠となる。しかるに担当者の不足によってか、歴史分野の古文書学に比して、大学や院での開講が少なく、殆ど個人個人の自己努力で補っている場合が多い。勿論その深い到達は個々の努力となるものであるが、本講義においては、その基礎を会得してもらおうとするものである。

【授業計画】

- 近世史での書誌学的作業と研究
- 書籍の料紙
 - ・書籍の起源と材料の変遷
 - ・原料による紙の種類、年代
 - ・加工による紙の種類、年代
 - 染色、加工漉造、切紙、金銀、雲母、胡粉、その他の加工紙。
- 書籍の形状
 - ・装訂の種類。
 - ・書籍の大きさ。
 - ・書籍の形状に関する部分名称。
- 書籍の内容
 - ・書籍の内容に関する種類と用語。
 - ・写本の内容に関する種類と用語。
- 刊本
 - ・刊本の種類と名称。
 - ・刊本の歴史。

以上、テキストにより講義を進めるが、殆ど実物を手にさせて理解できるようにする。出来れば装訂の糸綴や修理の実習もやりたい。これは少人数の院でないとは不可能であるから。

【評価方法】

学生の希望も参考にして、レポート、テスト、その他決定する。

【テキスト】

日本古典書誌学総説（藤井隆著 和泉書院）

国文学特講（8） a・b

増井典夫

【授業の概要】

日本語研究のありかたを考える。まずは、子安宣邦の著作を読み、考えることから始める。

【授業計画】

講義及び出席者の調査発表を進める。

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

漢字論（子安宣邦 岩波書店）
その他は授業時の指示による。

特殊研究（4）中国文学 I a・b

寺尾 剛

【授業の概要】

受講生と相談の上、決定したい。漢文読解能力と資料調査能力の向上を主たる目的としたい。ちなみに平成十五年度は『三国志』『楊太真外伝』を読んだ。

【授業計画】

『史記』『漢書』『白氏文集』『蒙求』など、あるいは日本漢文（『菅家文草』『本朝文粹』『和漢朗詠集』など）でもよい。

【評価方法】

平常点及びレポート

【テキスト】

プリント及び授業中に指示

特殊研究（5）中国文学Ⅱ a・b

寺尾 剛

【授業の概要】

1. 国文学研究に必要な漢文知識を養う。
2. 日中比較の視点を養う。
3. 中国文献の取り扱い方を養う。

【授業計画】

受講者の希望に沿う。

平成十三、十四年度は『和漢朗詠集』所収の白居易の作品を輪読した。平成十五年度は『三国志』『史記』などを読んだ。

【評価方法】

平常点及びレポート。

【テキスト】

未定。

比較文学研究 a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

比較文学の定義と本質

日本における *The Waste Land* の受容

T.S.エリオットと立原正秋

共同体と個性の文学

T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

T.S.エリオットとベルグソン

形而上詩人のアルス・ポエティカ

芸術作品の創造と伝統の継承

Spectrum に見る西脇詩の原型

T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。

受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 2,200円）

翻訳論（英語論文作法） a・b

EASLEY, Keith

【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

英文学演習Ⅱ a・b

大野光子

【授業の概要】

アイルランド文学・文化研究。「複眼で見るケルト文化」をテーマに、ブリテン島の中でも、特にアイルランドとイングランド間の「ケルト」に対する見方、語り方の差異を検証する。ヴィクトリア朝時代以後現代までの、ケルト人や文化に関するそれぞれの地域の文学やメディア表現を分析し、比較する作業を通して、「ケルト」受容・評価の相違点/類似点/変遷を明らかにする。

【授業計画】

前期には、「ケルト」研究のテキスト講読とともに、ブリテン島の文化・社会史を概観する。

後期には、「ケルト」の「リサイクル」の具体例として、ヴィクトリア朝時代以後現代までの文学や絵画、ポピュラー・メディア表現の作品等を吟味し、比較検討する作業を中心に置く予定である。

【評価方法】

出席と平常点およびレポートによる。

【テキスト】

テキストは教室にて指示する他、プリント使用。

英文学演習Ⅲ a・b

柳原佳枝

【授業の概要】

キリスト教の信仰や伝統に目を向けず、英文学の理解を深めることは不可能なことと思う。この演習では、特に英文学とキリスト教文化の関わりに視点をおいて、作品研究を進める。

【授業計画】

〈前期〉

G. Herbert, H. Vaughan, W. Blake, C. Rossetti, G. M. Hopkinsなどの信仰詩を読む。

〈後期〉

小説及び随筆を取り上げ、輪読、ディスカッションを基に研究を行う。

【評価方法】

平常の授業における活動とレポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

Christian Literature: An Anthology (Alister E. McGrath, ed., Blackwell) 及びプリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義中に紹介。又は、抜刷を配布する。

英米文学演習 a・b

太田直子

【授業の概要】

1920年代30年代のアメリカ小説を読む。

【授業計画】

1920年代、30年代のアメリカの社会、時代背景を知ることによって、作品を分析する。

1. Dreiser と Fitzgerald
2. Hemingway と Faulkner
3. Caldwell と Steinbeck

【評価方法】

各学期末のレポート

【テキスト】

プリントを配布

米文学演習 I a・b

池谷敏忠

【Course Content】

Wallace Stevensの*Opus Posthumous*を用い、そのうち“Adagia”を輪読し、imaginationとrealityの特質その他を考察します。

【Schedule】

一年を通して英文詩論を輪読しますので、受講者は前期・後期とも受講することを希望します。

【Assessment】

レポートまたはテストに各自の出席状況を加味して評価します。

【Textbooks】

研究室の原書を貸与します。

米文学演習Ⅱ a・b

唐澤 格

【授業の概要】

多様な文学理論が展開されつつある現在、英米文学研究の領域においても、これらの理論についての理解を深めることが要請される。この演習では、現代文学理論の解説文献を基礎テキストとして、現代文学理論について考察していく。前期には、ニュー・クリティシズム以降の、現代文学理論のいわゆる前史的な諸形態について検討し、後期には、ポスト・コロニアル批評や文化研究を含むカレントな動向を検討する。ナラトロジーの展開についても考察したい。

【授業計画】

授業は、学生のテキスト内容についての発表および問題点の指摘、教師による解説・情報提供、ディスカッション、という順序で進める。テキストに欠けている情報も随時補う。諸理論家・批評家の原著についての報告も求める予定。

【評価方法】

平常の発表とレポートによる。

【テキスト】

プリントを使用。

英語学演習Ⅲ a・b

大室剛志

【授業の概要】

現代英語の統語論・意味論についての理論言語学の研究書を精読し、言語理論の今後向かうべき方向について検討する。本年度は、Ray S. Jackendoffの*Foundations of Language* (Oxford University Press, 2002)を教科書として使用する。演習を中心に行う。

【授業計画】

毎時間、上記テキストを数ページずつ精読することで英語学的乱取り稽古を行う。

【評価方法】

毎回の授業時での読みの正確さで判断する。

【テキスト】

Foundations of Language.
(Ray S. Jackendoff (2002) Oxford: Oxford University Press.)

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する。

英文学特講 (1) a・b

久野幸子

【授業の概要】

英国18世紀後半から19世紀前半期を生きた女性作家ジェイン・オースティンの作品を中心に、女性文学と当時の社会との関係を広く考察する。

【授業計画】

授業は前後期とも輪読形式で行なう。

【評価方法】

平常点(出席、受講態度)とレポートで、総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英米文学特講 a・b

山田幹郎

【授業の概要】

英国ルネサンス文芸批評研究。

【授業計画】

英国における文芸批評の源流をなすルネサンス期テキストの講読演習。
aではThomas Wilsonのレトリック論、bではPhilip Sidneyの詩論を主に扱う。

【評価方法】

平常点とレポートによる。

【テキスト】

プリントによる。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

英語学特講 (1) a・b

樗木勇作

【授業の概要】

英語統語論 (English Syntax)

生成文法による英語の統語分析について基本的知識を得ることを目的とする。この授業では、Noam Chomskyのミニマリストプログラムに重点を置き、初期ミニマリストプログラムやChomsky (1995)の枠組みを中心にして様々な英語の構文の分析を概観する。

英語統語論 (English Syntax)

生成文法による英語の統語分析について基本的知識を得ることを目的とする。この授業では、Noam Chomskyのミニマリストプログラムに重点を置く。特にChomsky (1995)の枠組みからPhaseによる派生までを様々な英語の構文の分析を通じて概観する。

【授業計画】

1. Categories
2. Structure
3. Empty Categories
4. Head Movement
5. Operator Movement
6. Subjects
7. A-movement
8. VP Shells
9. Agreement Projections
10. Special Topics
11. Derivation by Phase

【評価方法】

レポート+平常点

【テキスト】

未定

英文学研究 a・b

久野幸子

【授業の概要】

18、19世紀の英文学全般に渡り、受講者の専攻との関連で内容を定める。

【授業計画】

上記による。

【評価方法】

出席状況と期末のレポートによる。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

英語学特講 (3) a・b

中野弘三

【授業の概要】

英語の法性 (modality)、法表現 (modal expression) の考察。この分野の研究の歴史を辿るとともに、新しい研究の知見を活用し、英語の法表現の分析を行う。また、法表現と丁寧さ (politeness)、法表現のぼかし言葉 (hedge) の用法など、法表現の語用論的側面も考察する。

【授業計画】

前期は、法性とは何かについての伝統的な定義、法性の伝統的な分析、および様相論理学 (modal logic) の様相の概念を利用した理論的な法性分析を紹介したあと、新しい言語理論に基づく分析法により英語の法表現の意味論的、統語論的分析を行う。

後期は法表現の語用論上の問題を扱い、法表現のコミュニケーションの場での様々な用法を語用論的に考察する。

【評価方法】

学年末にレポートを提出してもらい、それを基本としながら、平常点を加味して評価する。

【テキスト】

論文のコピーを使用する。

【参考文献・資料】

- Logic in Linguistics* (1977) (J. Allwood et al. Cambridge Univ. Press)
Mood and Modality (1986) (F.R. Palmer Cambridge Univ. Press)
Modality and the English Modals (2nd Edition) (1990) (F.R. Palmer Longman)
英語法助動詞の意味論 (1993) (中野弘三 英潮社)
Semantics (2000) (K. Kearns Macmillan)

英語学研究 a・b

樗木勇作

【授業の概要】

修士論文作成の指導

【授業計画】

先行研究の分析・批判、研究テーマの設定、データ収集、考察の展開法などについて指導する。

【評価方法】

論文の内容その他、総合的に評価する

【テキスト】

未定

比較文学研究 a・b

池谷敏忠

【授業の概要】

比較文学は国際間の（国と国との間の）文学的関係の歴史を調べ研究する学問です。この授業はT.S.エリオットの詩と菊村到の小説など日英米仏文学の影響関係を具体的に考察します。さらにエリオットの詩論と芭蕉俳論などの対比研究も試みます。

【授業計画】

前期は次の事項を予定しています。

- 比較文学の定義と本質
- 日本における *The Waste Land* の受容
- T.S.エリオットと立原正秋
- 共同体と個性の文学
- T.S.エリオットと小林秀雄

後期は次の事項を予定しています。

- T.S.エリオットとベルグソン
- 形而上詩人のアルス・ポエティカ
- 芸術作品の創造と伝統の継承
- Spectrum* に見る西脇詩の原型
- T.S.エリオットと西田幾多郎

テキストを用いて講義・解説します。

受講生は必ずテキストを持参して下さい。

【評価方法】

レポートまたはテストと各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

比較文学論集（池谷敏忠 晃学出版 2,200円）

翻訳論（英語論文作法） a・b

EASLEY, Keith

【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

情報学特講 (1) a・b野添篤毅 岡澤和世 西荒井学 林博司 三和義秀
山崎茂明 山本進 菅野育子 村主朋英**【授業の概要】**

図書館情報学の基礎に関する講義や基礎文献の講読の他に、複数の教員による集団指導により、学術雑誌掲載論文の抄読会およびミニレビューなどを、全院生出席の下に行う。質疑応答や討論を通じて、当該分野の論文・総説等を評価し、研究の進め方および論理的な思考方法や表現方法を学び、修士論文の作成に反映させる。

【授業計画】

発表者がレジюмеを作成、配布、発表し、それにもとづいて参加者全員で討論する。

【評価方法】

レジюмеの発表と討論への参加度

情報学演習 (1) a・b野添篤毅 岡澤和世 西荒井学 林博司 三和義秀
山崎茂明 山本進 菅野育子 村主朋英**【授業の概要】**

院生各自の研究計画・内容の発表、研究の進捗状況の報告と討議、および修士論文の中間発表会の開催、さらには関連学会・討論会等の発表内容の検討など、院生の研究活動を複数の教員が集団指導し、修士論文の完成を支援する。

【授業計画】

発表者がレジюмеを作成配布。

【評価方法】

研究発表と討論への参加度

情報学特講 (2) a・b

林博司

【授業の概要】

生物の情報処理機構に関する基礎的知識の講義、及び関連分野の進歩などをまとめた比較的新しい総説(英文を含む)の輪読を行う。一連の学習により、遺伝情報の複製、暗号化、復元などの過程を理解する。さらに感覚情報の伝達過程、情報変換過程等遺伝情報以外の情報が、生物の体中でどのように扱われているかを理解することにより、情報に関する理解を深める一助としたい。

【授業計画】

セミナー形式で行うため、構成メンバーに最適な計画を弾力的に立案する。

【評価方法】

慣例に従う

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

その都度配布

情報学特講 (3) a・b

野添篤毅

【授業の概要】

自然科学分野、とくに生物医学分野での研究過程における情報、知識、メディアなどの諸問題について多面的に考察する。

【授業計画】

関連分野の最新の学術論文を読み、討論を行なう。

【評価方法】

レジюмеによる発表と討論への参加度

【テキスト】

その都度、指示する。

情報学特講 (7) a・b

西荒井学

【授業の概要】

情報資源の管理・運営システムを構築するのに必要なシステム分析からシステム設計に至る範囲内の問題を追及する。特に、コンピュータ処理を実現するのに最も重要であると思われるプログラム設計部分、言い換えればアルゴリズムの問題を中心に考えていく。

【授業計画】

- 1) 要求定義 (機能設計、情報設計) の問題
- 2) システム設計技法の問題
- 3) プログラム設計技法の問題
- 4) プログラミング技法の問題

各種システムの構築に関わる問題を探究していくための題材として、『システム設計に関する学習プログラム』の作成を課題として与えることとする。受講者は、担当部分のモジュールの特性を考慮した上で、適切なアルゴリズムの展開を図り、最終的にコンピュータ処理段階まで移行させていくことによって、種々の問題点を互いに検討していく。

なお受講者は、ある程度のコンピュータ利用経験、特にプログラミング経験を持つことを希望する。

【評価方法】

課題の進捗状況、報告内容、ならびに最終レポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

情報学特講 (9) a・b

山崎茂明

【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察していく。特に、研究活動、論文作成、口頭発表、投稿、編集、論文審査、出版倫理、科学研究の不正行為といった側面から検討する。

【授業計画】

「生命科学論文投稿ガイド」(1996年)、「科学者の不正行為」(2002年)、「論文投稿のインフォマティクス」(2003年)などを参考にして、そこで扱われたテーマをさらに深め、参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。最初の1-2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジメを提出すること。また、テーマ発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。

【評価方法】

発表レポート

【参考文献・資料】

生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明 中外医学社)

科学者の不正行為 (山崎茂明 丸善)

論文投稿のインフォマティクス (山崎茂明 中外医学社)

情報学特講 (8) a・b

山本 進

【授業の概要】

図書館サービスの内容が利用者にとって受けとめられ利用されているのかを、アンケート調査し、調査結果を分析して、各種調査と比較検討し、研究をすすめる。

【授業計画】

<前期>

県立図書館・名古屋市鶴舞中央図書館を訪問し、現場職員とアンケート内容について打ち合わせを行い、実施時期を決める。

8月、9月中にアンケートを実施する。

<後期>

前期に行ったアンケートを集計し、結果の分析を行う。

【テキスト】

図書館サービスの測定と評価 (森耕一編 日本図書館協会)

情報学特講 (10) a・b

菅野育子

【授業の概要】

図書館と博物館における「情報源 (所蔵資料) に関する情報」について、その識別機能及び記述方法の観点から講義する。特に、両者の資料識別情報 (メタ・データ) を相互に運用する可能性 (インターオペラビリティ) について論ずる。

【授業計画】

授業は次の2点を中心に行なう。

(1) 概念モデル間の比較と検討

以下の、図書館と博物館の情報源を対象としたデータベース構築のための概念モデルが提案された。以下の2つの概念モデルを比較・検討することから、両者の資料識別に対する立場の違いについて議論する。

IFLA/FRBR (International Federation of Library Associations. Functional Requirements for Bibliographic Records)

ICOM/CIDOC CRM (The International Committee for Documentation of the International Council of Museums. Conceptual Reference Model)

(2) 記述データ項目間のマッピング

Getty Research Instituteが作成したCrosswalk of Metadata Element Sets for Art, Architecture, and Cultural Heritage Information and Online Resourcesを対象に、マッピングされた記述データ項目間の関連性について、実際に図書館資料及び博物館資料の記述データを用いて、以下の記述データ群を中心にマッピングとその評価を行なう。

・米国議会図書館のMARC21

・Getty財団のCDWA (Categories for the Description of Works of Art)

【評価方法】

最終レポートで評価する

【参考文献・資料】

IFLA Study Group on the Functional Requirements for Bibliographic Records. Functional Requirements for Bibliographic Records: final report. Munchen, K.G.Saur, 1998, 136p

情報学特講 (11) a・b

三和義秀

【授業の概要】

前期 (a) では、Webを中心とするコンピュータネットワークに関する技術を習得した上で、人間の感性に関わる実験調査用のデータ収集を行うためのWebアンケート・システムをサーバサイド・プログラミング (ASP:Active Server PagesまたはJSP:Java Server Pages)によって構築し、そのシステムをインターネット上に公開しながらデータ収集を実施する。

後期 (b) では、Webアンケート・システムによって収集したデータを対象にした統計解析 (因子分析、多次元尺度構成法、クラスタ分析等)の方法について解説する。なお、受講者はC言語、またはJavaプログラミングの基礎知識を修得していることが望ましい。

【授業計画】

- (1) Webアンケート・システムの構築に必要なネットワーク技術
- (2) サーバサイド・プログラミングの方法
- (3) 人間の感性の分類方法と情報検索システムの設計方法
- (4) 統計解析の方法

【評価方法】

各受講者が実験調査のテーマを決めてWebアンケートシステムを構築し、その収集データを対象にした統計解析のレポートにて評価する。

【テキスト】

第1回の講義にて指示する。

【参考文献・資料】

第1回の講義にて指示する。

情報学特講 (12) a・b

村主朋英

【授業の概要】

情報史に関する講義および文献講読を行なう。とくに、<情報学基礎論と情報史の歴史像との交差>という問題を強く意識して進める。

なお、情報史は幅広い領域であるため、情報学/図書館情報学の分野史、情報サービスの歴史、情報技術の歴史、コミュニケーション史/メディア史、科学史など、関連歴史概念の中から、動静や受講者の意向を見ながら内容を絞り込む。

また、受講者による発表・報告の回を適宜含める。

【授業計画】

a (前期) : 講義を中心に進める。

- (1) 情報史研究の現状と情報学の境位
- (2) 情報学における「情報」に関する観点
図書館情報学、情報科学、メディア論
社会情報学、吉田民人、北川敏男

b (後期) : 以下の内容を予定している。詳細は受講者と相談して決定する。

- (1) 情報史のトピック群
- (2) その他、受講者の関心事項

【評価方法】

平常点とレポートに基づいて行う。

【テキスト】

使用せず。

情報学演習 (5) a・b

太田 裕

【授業の概要】

数値あるいは非数値からなる資料・データがもつ潜在構造を探究し、所与の情報を抽出するための資料・データ処理技法について、実践力の涵養を目標に学習を進める。

したがって、授業形態は関連知見の理解 (講義) と資料・データ処理の体得 (実習) とを交互的に行うこととする。サンプリングの計画数値・1変量～2変量解析、多変量解析、数値～非数値処理・解析等々が主要学習項目である。

【授業計画】

前期

1. 基礎事項の習得
2. データ処理シミュレーション
3. 演習題の自力解決

後期

1. 小課題の提示と課題解決法の探索
2. 実 (資料・データ) の構造解析
3. 数値～非数値データの統合処理

【テキスト】

随時、必要な文献・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

情報学演習 (6) a・b

岡澤和世

【授業の概要】

この4分の一世紀の間に情報社会が到来し、世界の経済、文化が大きく変化し始めた。情報テクノロジーの発達は我々の生活、仕事、教育に大きな影響を及ぼしている。中でもこの電子環境社会でどうやって情報を見つけたらいいのかとまどっている。本講義の目的は大きく変化している情報環境にどう対応していくのかを考える。

【授業計画】

1. 情報と情報行動
2. 情報行動と情報環境
3. 情報行動研究とその枠組み
4. 情報行動のインフラストラクチャー
5. 情報行動モデル
6. 情報行動研究の例
7. 人中心の情報システム設計
8. 情報行動の発展—電子環境への対応
9. 将来の方向と展望

【評価方法】

レポート

【テキスト】

New Review of Information Behaviour Research, Volum 1.
(Wilson, T. D & D. K. A ed. Taylor Graham, 2000.)

【参考文献・資料】

From Print to Electronic
(Susan Crawford, Julie M. Hurd and Ann C. Weller ASIS. 1996)
情報学講義ノート〈3〉(岡澤和世著 敬文堂 1989.)
インフォ・リッチ: インフォ・プア
(Trevor Heywood, 岡澤和世訳 敬文堂 1997.)
Technology in action. (Heath, C. & P. Luff. Cambridge U. Pr. 2000.)
Social Demensions of Information Technology.
(Garson, G. David Idea Group Pub. 2000.)

情報学特講 (13) a・b

細野公男

【授業の概要】

情報検索にかかわる基本的な考え方、現在脚光を浴びているアプローチ、技術、サービスを取り上げて、その特徴や問題点を理解する。主として電子図書館における検索と情報利用行動・探索行動に、焦点をあてる。

【授業計画】

履修者各自が順番に、指定された論文を読み、発表する。さらに、その発表に基づいてディスカッションを行う。

【評価方法】

発表にあたっての準備の度合、発表方法とディスカッションへの貢献度で評価する。

【テキスト】

未定。

翻訳論 (英語論文作法) a・b

EASLEY, Keith

【Course Content】

The course should further develop the ability to write academic papers through critical engagement with individually chosen materials.

Work includes note-taking, the use of sources, understanding and use of academic conventions and language, and the development and presentation of argument. Along with individual tuition there will be class and pair discussion of work in progress and the elements of academic writing.

【Schedule】

The Schedule will be decided according to students' needs.

【Assessment】

A written paper of an agreed length is to be submitted. Evaluation will be based on this.

【Textbooks】

None

国文学特殊研究Ⅱ（中古）

久保朝孝

【授業の概要】

中古文学の独創的研究。
博士論文の作成指導。

【授業計画】

各自の専攻テーマに関する研究発表とその相互批判及び助言を毎回行う。

【評価方法】

論文の活字化もしくは学会等における口頭発表の有無とその内容。

【テキスト】

なし。

国文学特殊研究Ⅲ（中世1）

岩下紀之

【授業の概要】

受講者の希望する作品を題材とする。

国文学特殊研究Ⅳ（中世2）

山下宏明

【授業の概要】

〈文学研究と批評 課題に向けて〉と題して進める。

後期課程の学生は、すでに各自の研究課題を持ち、学位請求論文執筆に向けて研究を続けている。学位取得を目的に、年間、少なくとも2本の論文は作成しなければならない。その積み重ねが学位請求論文になるはずである。

たえず学界の状況を把握した上で、方向性を考え続けねばならない。学界の動きを知るために、国内にとどまらない、国外の論文にも目を配り、批評に耐えうる成果を生み出すよう志すべきである。一方で、独自の基本的な調査を行うことも必要である。その成果を確認しつつ、論文の執筆を行わせる。必要に応じて、学内外の学会や研究会への報告を促すこともある。

【授業計画】

はじめに、これまでの経過（修士論文など）の報告を行わせる。その際に、特に専攻分野の研究状況の報告を求め、その中での各自の成果の位置づけ、意味を重視するよう求める。講義としては、能、狂言、説話のテキストに即しその研究方法をとりあげる。

【評価方法】

出席状況とレポート、もしくは論文提出による。諸種学会への報告実績も勘案する。

【テキスト】

主要な学会誌のなかから注目すべき論文を選択し、コピーをとって使用する。必読の文献は、前期課程の学生に指示したので、参照されたい。

国文学特殊研究Ⅴ（近世）

阿部一彦

【授業の概要】

近世文学全般にわたり、受講者の専攻との関連で内容を決める。

【授業計画】

上記による。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

国文学特殊研究VI (近代1)

小倉 斉

【授業の概要】

<短篇小説の方法—作品をどう読み、どう論ずるか—>
日本の近・現代を代表する短篇小説の精読を通して、「小説を読む」という行為を意識化し、多様な読みを生み出す分析方法や文学研究の方法を実践的に身につける。

【授業計画】

<前期>

- 1 『にごりえ』(2回)
- 2 『夢十夜』(2回)
- 3 『半日』(2回)
- 4 『サラサーテの盤』(2回)
- 5 『焼跡のイエス』(2回)
- 6 『百萬圓煎餅』(2回)
- 7 『風流夢譚』(2回)

<後期>

- 1 『だらだら坂』(2回)
- 2 『摩天楼』(2回)
- 3 『陽気な夜回り』(2回)
- 4 『幼児狩り』(2回)
- 5 『木の箱』(2回)
- 6 『しんとく問答』(2回)
- 7 『レキシントンの幽霊』(2回)

【評価方法】

授業への参加状況、発表およびレポートの内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

<前期>：にごりえ・たけくらべ(樋口一葉 角川文庫)、文鳥・夢十夜(夏目漱石 新潮文庫)、半日(森鷗外 プリント)、東京日記(内田百閒 岩波文庫)、焼跡のイエス(石川淳 プリント)、百萬圓煎餅(三島由紀夫 プリント)、風流夢譚(深沢七郎 プリント)
<後期>：横しぐれ(丸谷才一 講談社文芸文庫)、夢の中の日常(鳥尾敏雄 角川文庫)、木犀の日(古井由吉 講談社文芸文庫)、幼児狩り(河野多恵子 プリント)、ピクニック、その他の短編(金井美恵子 講談社文芸文庫)、戦後短篇小説再発見6 変貌する都市(講談社文芸文庫)

国文学特殊研究VIII (国語学)

増井典夫

【授業の概要】

受講者の論文テーマ、あるいは希望する作品に応じて、国語学の観点から指導する。

【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

授業時に指示する。

国文学特殊研究VII (近代2)

都築久義

【授業の概要】

学生の論文テーマに応じて指導する。

【授業計画】

随時、必要に応じて指導する。

【評価方法】

平素の学習態度。

【テキスト】

なし。

中国文学特講

寺尾 剛

【授業の概要】

後期の院生の高度な漢文読解力の向上を目指す。

【授業計画】

受講生の需要に合わせて決定する。

【評価方法】

平常点及びレポート

【テキスト】

未定。

英文学特殊研究 I

山田幹郎

【授業の概要】

英国ルネサンス演劇研究（シェイクスピア）。
受講者の博士論文作成を指導する。

【授業計画】

各自の専攻テーマについて研究発表とその批評を旨として進める。

【評価方法】

研究発表と論文による。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

随時指示する。

英文学特殊研究 II

大野光子

【授業の概要】

アイルランド文学・文化研究。「複眼で見るケルト文化」をテーマに、ブリテン島の中でも、特にアイルランドとイングランド間の「ケルト」に対する見方、語り方の差異を検証する。ヴィクトリア朝時代以後現代までの、ケルト人や文化に関するそれぞれの地域の文学やメディア表現を分析し、比較する作業を通して、「ケルト」受容・評価の相違点/類似点/変遷を明らかにする。

【授業計画】

前期には、「ケルト」研究のテキスト講読とともに、ブリテン島の文化・社会史を概観する。

後期には、「ケルト」の「リサイクル」の具体例として、ヴィクトリア朝時代以後現代までの文学や絵画、ポピュラー・メディア表現の作品等を吟味し、比較検討する作業を中心に置く予定である。

【評価方法】

出席と平常点およびレポートによる。

【テキスト】

テキストは教室にて指示する他、プリント使用。

米文学特殊研究 I

池谷敏忠

【授業の概要】

Contemporary American Literary Theory (1997) および *Introducing Literary Theories* (2001) を用いて、最新の文学理論を研究します。

【授業計画】

一年を通して上記の本を輪読しますので、受講者は前期・後期とも受講することを希望します。

【評価方法】

レポートまたはテストに各自の出席状況を加味して評価します。

【テキスト】

研究室の原書を貸与します。

米文学特殊研究 II

唐澤 恪

【授業の概要】

この特殊研究では、最近のアメリカン・ルネサンス論について検討する。F. O. Matthiessen の *American Renaissance* (1941) 以後おびただしい数のアメリカン・ルネサンス論が書かれてきたが、この特殊研究では、特に1980年代以後のものを検討していく。その過程で、それ以前の主要な論考についても、レビューする。後期には最近のPoe論やトランセンデンタリズム論についての考察を織りこむ予定。

【授業計画】

授業は、割り当て部分についての、学生の内容発表および問題点の指摘、教師による解説・情報提供、ディスカッション、という順序で進めるが、適時に学生に課題を与え、報告を求める予定である。

【評価方法】

平常の発表とレポートによる。

【テキスト】

プリント配布。

【授業の概要】

応用言語学 (英語教育)

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

情報学特殊研究II (知識情報処理)

野添篤毅

【授業の概要】

自然科学分野における研究・開発過程での種々の知的情報処理について考察する。

【授業計画】

知的情報処理分野の最新の学術文献(雑誌論文、モノグラフ)を受講者が選択し、それについて発表と討論を行う。

【評価方法】

研究発表と討論への参加度

【テキスト】

その都度、指示する。

情報学特殊研究IV

林博司

【授業の概要】

学位論文の作成
生命情報・遺伝情報の現状分析と可能性
組織器官の分化研究の現状と21世紀に於ける発展(国際的観点より)
生殖生物学の発展とそれが及ぼす社会的影響(国際的観点より)
遺伝情報の破壊と修復と変化の予測
文献検索、調査
統計処理
予測の設定と確実性
論文の形式
文章の設定
図書館情報学に於いて占める位置

【授業計画】

多くの関係教官と連絡を保ちながら、自分のペースで進める。必要な場合には他大学で研究する。常時、論文の内容、進行状況について発表を行う。

【評価方法】

論文評価と学術論文出版による。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

学術雑誌を常に参考とする

情報学特殊研究V (情報関連行動論)

岡澤和世

【授業の概要】

情報システムは人の役に立つためにある。設計されたシステムは人が組み立てたものであり、人が利用するためにある。人々の現実の情報要求をうまく満たすことができればそのシステムは成功したといえる。その意味で、人間の要求を満たすことができないシステム設計はナンセンスである。本講義ではこの様な人間の情報行動と情報システムの関係に注目する。人はなぜ情報を必要とするのか?人は情報システムから何を得られると期待しているのか?情報システム設計者はこれらの情報行動はどうやって対処するのか?

【授業計画】

1. ヒューマン・オーガニゼーション (Human organization)
2. 人間中心の情報システム
3. システムの評価: 単純さ/感性/キャシュ・フロー分析/利用度/評価法
4. 管理とコントロール
5. 人的要因 (Human factors)
6. 人間-機械の相互作用 (HCI) の問題: 概説/HCIの特性/HCIとシステム設計の関係/要約
7. 利用者の参画: 利用者とは何か/従来の情報システム/なぜ利用者を中心に据えるべきか/コミュニケーションの難しさ/利用者参画型アプローチ
8. 実行: プランニング/利用者参画と訓練/マニュアル作成/システム・テスト手順の変更/実行後評価/メンテナンス

【評価方法】

レポート

【テキスト】

インフォ・リッチ: インフォ・プア
(Trevor Heywood, 岡澤和世訳 敬文堂 1997)
Looking for Information Donald O.Case. Academic R Press. 2002.
(Clarke, S & B. Lehaney Indea Group Pub. 2000)

情報学特殊研究VI (科学情報メディア)

山崎茂明

【授業の概要】

科学コミュニケーションの世界を対象に、研究情報とメディアに着目して考察する。海外の研究論文や文献レビューなどから、近年の研究動向や課題を整理していく。特に、科学政策、研究動向、業績評価などのための分析能力の開発を目標に、調査データの収集と考察を試みる。また、AuthorshipやResearch Integrityをめぐる研究倫理について展開をはかる。

アメリカ、イギリス、ヨーロッパ、日本における主要な科学研究・政策についての主要な調査を分析し、日本の科学研究や科学コミュニケーションの課題や問題を検討する。発表をめぐる出版倫理については、デジタル情報資源も活用し、最近の動向を整理していく。参加者の興味ある視点から発展させてもらいたい。

【授業計画】

最初の1-2回は概要を説明した後、参加者による発表形式で行う。発表者はA4版レポート用紙で4枚程度のレジメを提出すること。また、文献レビュー紹介や調査発表を行う上でどのように関連文献を検索したかについても述べる。講義に関係する資料は随時配付する。

【評価方法】

発表レポート

【テキスト】

Science and Engineering Indicators (NSF)、他

情報学特殊研究Ⅶ（図書館情報システム）

山本 進

【授業の概要】

図書館の利用状況を調査・分析し、従来から用いられてきた評価基準値を、現実の利用状況の分析結果と比較検討して、新しい評価基準を作成し、検討を重ねる。

【テキスト】

図書館サービスの評価（ランカスター 中村・三輪共訳 丸善）

情報学特殊研究Ⅷ（異資料情報処理）

太田 裕

【授業の概要】

受講予定者は既に修士論文を終え、博士論文作成に挑戦中の諸君であることに鑑み、情報処理科学の観点から多様かつ異質な資料から所与の情報を抽出する（＝研究支援技法）の習得と実際活用能力の涵養に努めることとする。したがって、授業形態は必然セミナー形式となるが、博士論文の枠組み・内容に関わって受講者毎に個別のカリキュラムを組むこととなる。

【授業計画】

前期

1. 基礎知見学習
2. 受講者別カリキュラムの組立
3. 関連演習課題の実施

後期

1. 課題解決のための個別プログラムの作成
2. 関連実資料の解析支援
3. 課題適合高度解析法の探索

【テキスト】

特になし。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

生体情報心理学特講 1・2 (脳と記号情報処理)

杉本助男

【授業の概要】

老化と脳との関連についての英文文献を講読すると同時に、以下の研究課題について講義形式の授業を行う。

前期は、「The Neuropsychology of Aging. D.S. Woodruff-Park」の中の1章を輪読しながら、脳の基礎について学習し、同時に英語読解のウォーミング・アップをする。また、その中の1文献を読み、後期に発表する。

後期は、以下のテーマについて講義形式の授業を行う。また、各自1回の発表をする。

1. 刺激希求の個人差と脳誘発電位
2. 刺激欠乏環境
3. 短期感覚遮断のポジティブ効果
4. 香りの心理効果 (脳波研究)
5. サーカディアンリズム
6. ウルトラディアンリズム

【授業計画】

前期は英文論文を輪読しながら、情動と脳との関連について講義し、討論する。

後期は、上記課題について講義形式の授業を行うと同時に、それぞれのテーマについて討論を行う。

また、前期の論文の中から1文献を選び、発表、討論を行う。

【評価方法】

文献読解理解力、討論内容等から評価する。

【テキスト】

資料を配付する。

生体情報心理学特講 5・6 (認知神経心理学)

吉崎一人

【授業の概要】

まず心理学研究法の基礎を学び、さらに認知心理学、認知神経心理学に関連する研究論文の精読する。これらを通じて、実験パラダイム並びにその理論的背景について学習する。

【授業計画】

前期

レポーター形式で行う。

「エンサイクロペディア心理学研究方法論」を読み、心理学研究法の基礎を学ぶ。

『心理学研究』、『教育心理学研究』、『認知科学』、『神経心理学』、『基礎心理学研究』等の和文誌から、論文を選び、紹介する。特に、研究で用いられているパラダイムやその理論的背景を重点的に調べ紹介する。

後期

Psychological Science, Trends in Cognitive Sciences等の欧文誌を輪読する。

【評価方法】

レポーターの内容、授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

前期使用：エンサイクロペディア心理学研究方法論 (W.J.レイ著 北大路書房)

後期は使用せず。

生体情報心理学特講 3・4 (感情の精神生理学)

清水 遵

【授業の概要】

生体が感覚刺激として受容する外界情報やそれらを処理する過程で派生する内部情報は様々な生理・心理的反応を惹起する。これら生体内外の情報のコミュニケーション過程で生じる情動のプロセスを精神生理学的観点から検討していく。

【授業計画】

前期は神経系の機能や生理指標に関する欧文書を講読、解説を加え、精神生理学の基礎的知識の習熟をめざす。

後期は、これまでになされてきた情動プロセスの精神生理学的研究に関する欧文書を輪読することで神経活動、内分泌系活動および免疫系活動との関連性についての知見を深める。

【評価方法】

授業への積極的参加度、文献内容理解力により評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜テーマに関連する文献を紹介する。

生体情報心理学演習 1・2

杉本助男

【授業の概要】

下記の研究領域について文献を講読し、発表し、討論する。また、その過程で修士論文の研究テーマを決定し、実験計画を立てる。

1. 個体のさまざまな状態変数または特性変数に関する脳波研究、またはポリグラフ研究
2. 感情の顔面表出における脳波および筋電図研究
3. 脳障害者または痴呆性老人を対象とした臨床神経心理学研究
4. 感覚刺激の適正範囲と個人差に関する生理心理学的研究
5. 生体リズムと行動との関連に関する生理心理学的研究

【授業計画】

各自が選んだ研究テーマについての文献の発表を行い、討論する。また実験計画を立て、研究を遂行する。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

生体情報心理学演習 3・4

清水 遵

【授業の概要】

環境の快適性や情動ストレスとその精神生理学的及び神経化学的測定法に関する内外の文献を講読し、発表討論を行う中で各人のテーマ決定の方向づけを行う。

【授業計画】

1. 環境の快適性に関する研究
2. 高齢者感情コントロールに関する研究
3. パーソナリティとストレスの関連性に関する研究
4. 唾液中感情関連物質の同定
4. その他

【評価方法】

発表討論内容、研究活動の報告レポートなどにより評価する。

【テキスト】

使用しない。

社会心理学特講 1・2 (コミュニティ心理学)

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティに内在する諸問題を、福祉臨床社会心理学ともいえる視点から扱うコミュニティ心理学は、一つには従来の個人臨床心理学の限界を補完ないし打開するものとして、また個人を取り巻く各種組織や小社会のシステムの実践的変革を目指す心理学として期待されている。ただ、わが国においてはまだなじみが薄く、研究実績的にも乏しいという現状に鑑みて、当面は、この新しい心理科学の実際を紹介することを課題と目標とする。

上記の理由から、啓蒙の意味を込めて、コミュニティ心理学の全体的概要を紹介することから始める。コミュニティ心理学の成立に至る背景・歴史、研究理念・目標、独特の研究手法、過去を中心テーマであった精神保健問題、今日の解決課題・テーマなど、主にアメリカのデータに基づきながら進めるが、これはまた日本の現在および近未来の姿でもあろう。

【授業計画】

J. オーフオード著・山本和郎監訳『コミュニティ心理学』(ミネルヴァ書房)をテキストに、受講者に分担してもらいながら、また引用文献の紹介も分担してもらいながら討論を含めて進める。前後期とも継続で進行する。

また、山本和郎著『コミュニティ心理学』(東京大学出版会)、Duffy & Wong 著・植村勝彦監訳『コミュニティ心理学』(ナカニシヤ出版)、山本和郎他編『臨床・コミュニティ心理学』(ミネルヴァ書房)、などの参考書を随時資料としながら補足する。

【評価方法】

前期、後期にそれぞれ課すレポートと、分担発表の成績により評価する。

【テキスト】

コミュニティ心理学

(J. オーフオード著・山本和郎監訳 ミネルヴァ書房)

社会心理学特講 3・4 (対人行動論)

斎藤和志

【授業の概要】

他者に対する関心や反応性、社会的事象に対する態度の研究を中心に検討する。他者に対する関心の程度はある種の認知スタイルとして位置づけることもでき、対人的態度や社会的態度を形成する際に影響を与えていると考えられる。最近では、社会に対する志向性までを含める必要があると考えている。授業では、まず、広い意味での対人行動を研究していくための研究法と社会心理学における基本的な理論を取り上げる。そして、私たちが対人行動を理解する際の思考や態度の問題、人間や社会を考えようとする姿勢の重要性、社会心理学的な知見や考え方を現実社会の中に取り入れていくことの可能性などについてさまざまな視点から検討していきたい。特に、大学生以外を対象とした「心理学教育」の可能性を考えていきたい。

【授業計画】

テキストを受講者で分担し、発表者はその内容の紹介と引用文献や関連領域からの示唆などを含めて発表し、全員で討論していく。現時点では後述のテキストを使用し、それを読み進める中で、社会心理学の研究手法や諸理論の理解を補足していこうと考えている。また、自らが心理学の知見を現実生活に活かすことを考えながら、レポートとしてまとめることがのぞまれる。その際に、別のテキストが必要と認められたら追加することがある。

【評価方法】

発表と討論への参加によって評価する。

【テキスト】

未定。決まり次第 URL : <http://www2.aasa.ac.jp/~saitok/> で告知する。

社会心理学特講 5・6 (比較文化心理学)

高井次郎

【授業の概要】

文化に関連する心理学の主要3領域を取り上げます。文化心理学、比較文化心理学および異文化間心理学の主なテーマを取り上げ、それぞれの領域の特異性について検討し、それぞれの研究のアプローチについて考えます。

【授業計画】

前期

1. 文化の心理学について
2. 文化心理学の特徴
3. 文化と認知
4. 文化と発達
5. 文化と家族
6. 文化とパーソナリティ
7. 異文化間心理学の特徴
8. 異文化接触の個人への影響
9. 社会的アイデンティティ
10. 人種偏見と差別

後期

1. 異文化適応
2. 異文化コミュニケーション
3. 比較文化心理学の特徴
4. 対人関係の比較
5. 対人コミュニケーションの比較
6. 比較文化心理学の研究法
7. 文化的等価性の問題

【評価方法】

授業における参加とレポートによって評価します。

【テキスト】

適宜論文やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

適宜紹介します。

社会心理学演習 1・2

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、深い学識と緻密な論理構成のもとに、各自が関心を持つテーマを設定し追究することによって、最終的には修士論文を作成することを課題と目標とする。

コミュニティ心理学のトピックスを扱っている専門誌である『American Journal of Community Psychology』、『Journal of Community Psychology』、『Journal of Community and Applied Social Psychology』、『コミュニティ心理学研究』掲載の論文を中心に、内外の著書、論文の輪読を通じてコミュニティ心理学の理解を深めること、また各自の修士論文につながる研究の展開を目指す演習とする。

加えて、実証的研究に不可欠な、データの統計的処理方法や、多変量解析の理論とその実際についても解説する。

【授業計画】

毎回個人発表を行い、取り上げられた論文やテーマについて徹底した討論によって、その内容や方法、論旨の展開を批判的に読みとり、論理的・実証的に再構築できる力を養う。とくに2年次学生については、修士論文作成に向けての助言・指導に当てる。

【評価方法】

毎回の個人発表、およびレポートによって評価する。

【テキスト】

使用せず。

臨床心理学特講 2 (家族療法)

西出隆紀

【授業の概要】

家族を対象とした心理臨床について学ぶ。最初に家族臨床に関する概説を講義し、以降は家族に対して独自の立場から臨床実践を行ったマスターセラピスト達についてレポーターが調べ、その発表に対して受講者全員で討論する。

【授業計画】

0. 現実の家族と心的現実としての家族 (講義)
1. 精神分析から見た家族
Freud, S. Klein, M. Winnicott, D.W.
2. 精神分析的家族療法
Ackerman, N.W. Bowen, M.
3. 戦略的家族療法
Erickson, M. の影響 MRIモデル Haley, J.
4. 構造派家族療法 (Minuchin, S.)
5. システミック家族療法 (ミラノ派)
6. 解決志向的家族療法 (BFTCモデル)

【評価方法】

レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

臨床心理学特講 1 (精神分析的な心理療法)

米倉五郎

【授業の概要】

精神分析的な心理療法について、その面接技法である面接契約、面接構造、面接途中で生じる転移と抵抗や逆転移、解釈などについて解説・討議していく。

【授業計画】

面接技法と方法については、主にテキストを中心とする講義を行うが、事例を取り上げながら臨床的に解説していく。

【評価方法】

授業内容の理解度、レポートにより成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

参考文献はその都度提示する。

臨床心理学特講 3 (児童臨床)

西出隆紀

【授業の概要】

児童に対する心理療法、特に精神分析的なプレイセラピーについて学ぶ。レポーターが児童の分析家について調べ、発表する形式と、児童に対する精神分析的な心理療法の実践論文の講読を週毎に交互に行う。実践論文に関してはHunter, M. 著 Psychotherapy with young people in care. を読む予定である。

【授業計画】

- ・レポーター形式
 1. Klein, M. の Play technique
 2. Freud, A. の Child analysis
 3. Winnicott, D.W. の臨床実践
- ・Psychotherapy with young people in care. の講読
 1. Joseph – a therapy in pictures.
 2. Charlotte – Early deprivation and abuse.
 3. Restless children – Hyperkinetic disorder.
 4. Identity in crisis.
 5. Child sexual abuse.

【評価方法】

レポーターとして発表したときのレポートの出来具合と討論への参加度、出欠を考慮して評価する。

臨床心理学特講 4 (医療心理臨床)

米倉五郎

【授業の概要】

医療・病院の心理臨床の職場における医師や看護師などの他職種スタッフとの共同治療やコンサルテーション・リエゾン心理臨床での臨床心理士の実務と面接技法について講義する。

【授業計画】

まず、精神科領域における個人心理療法、家族療法、集団心理療法および心理検査法をめぐるコンサルテーション・リエゾン心理臨床の実際とその技法について、事例報告をまじえ講義する。次に他の一般科(内科、小児科、外科)との心理臨床の実務についても事例を中心に解説していく。

【評価方法】

授業内容の理解度、レポートにより成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

臨床心理面接特講 1・2

後藤秀爾

【授業の概要】

臨床心理面接の基本は、「相手を正しく理解する」という一事に尽きる。面接場面でのかかわりを通して、多面的に、多層的に、多次元的に、クライアントである大人や子どもの姿を理解する視点と、理解を深めるために必要な知識や知見を学習する。

【授業計画】

前期：

- 1) 精神分析にかかわる基礎的な概念を整理して理解を深めるため、テキストとなる文献を定めて講読を行なう。精神分析の創始者であるフロイトに、とりあえずの焦点を置く。
- 2) テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。ユングやエリクソンの考え方も、この文脈から捉えなおす。
- 3) 具体的な事例を理解するための知識として使いこなせるよう、事例検討を通して学習内容の確認作業を進める。各自の個別面接事例を提供することを求める。

後期：

- 1) 発達の基本を理解するため、分析心理学的オリエンテーションをもった乳幼児発達にかかわる文献をテキストに定めて講読を行なう。子どもをターゲットとした心理臨床実践に広く活用できることを念頭において、母子臨床の問題に、とりあえずの焦点を置く。
- 2) テキストの内容理解を基礎において、関連思想についての学習へ発展させる。マラー、クライン、ウィニコット、スターンの考え方も、この文脈から捉えなおす。
- 3) 引き続き視点を広げながら、事例検討を重ねる。母子平行面接の事例を中心に検討できるよう、事例報告を求める。

【評価方法】

授業への参加状況(出席回数のことではない)による。

【テキスト】

(前期)フロイト思想のキーワード(小此木啓吾著 講談社現代新書)

(後期)母子臨床と世代間伝達(渡辺久子著 金剛出版)

学校臨床心理学特講

江口昇勇

【授業の概要】

スクールカウンセラーとして学校現場に入って活動する臨床心理士が身につけておかねばならない学校という場に対する知識と学校現場で教師と対応する場合に必要な技術、そしてなによりも一市民として身につけるべき礼儀を修得することを目標としている。

【授業計画】

- 第1講 スクールカウンセラーの導入にいたる経過
スクールカウンセラー黎明期の苦難；学校側の困惑
- 第2講 「スクール・カウンセラー」になる準備
スクールカウンセラー体験から学んだこと
- 第3講 現代中学生の健康度
思春期危機をもたらすもの
- 第4講 現代高校生の健康度
今どきの高校生はと言われる行動の背後にあるもの
存在不安とそれへの対処
むかつかずに授業に出ていけない教師の苦悩
- 第5講 教師とのかかわりにおけるポイント
現場教師といかに渡り合うか
- 第6講 スクールカウンセラーの活動実践
「影の仕事人」としてのスクールカウンセラー
- 第7講 スクールカウンセラーの新しい地平
コミュニティ・アプローチの試み
不登校の子どもをもつ保護者の自助グループ
- 第8講 不登校へのグループアプローチ
不登校とキャンプ、キャンプにおける子どもたち
- 第9講 教師への現職教育；講義の場合
教師対象の現職教育と研修プログラム
- 第10、11講 教師への現職教育；訓練プログラムの工夫
対象理解と自己理解
- 第12、13講 スクールカウンセラーの現在と未来
学校側が期待するSCとは？
SCの研修プログラムとSVの必要性

【評価方法】

授業での質疑等、積極的受講態度を評価対象とする。

【テキスト】

テキストは使用しない。必要な資料を授業中、配布する。

人格心理学特講

富安玲子

【授業の概要】

人格の変容・発達と関わるカウンセリング及び人格理解の方法のひとつとしての面接について取り上げ、面接過程における諸問題について考察するとともに、メタ理論としてのマイクロカウンセリングによる面接の技法、主に基本的かかわり技法について学習し、ロール・プレイや事例を通して実践性も高めていくことを目的としたい。

【授業計画】

テキストを中心に講義を行うが、ビデオによるロール・プレイの検討なども含めて、「学び-使う-教える」の過程を習得する。

1. 人格心理学とカウンセリング
2. マイクロカウンセリングとは
3. マイクロ技法の意味と基本的かかわり技法
4. かかわり行動
5. 会話への誘い・質問技法
6. 明確化へはげましといいかえ
7. 感情の反映
8. 要約技法
9. 意味の反映
10. 基本的かかわり技法の統合
初回と最終回にロール・プレイを実施し、技法の意味を考える。

【評価方法】

ロール・プレイの逐語録検討レポートと授業への参加関与度による。

【テキスト】

マイクロカウンセリング(アイビー,A.E.著 福原真知子他訳編 川島書店)

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学特講

富安玲子

【授業の概要】

教育という価値を伴う働きかけの効果は、働きかけるひとと働きかけられるひととの人間関係のあり方が関わっている。人間関係のひとつとしてカウンセリングを取り上げ、特に、働きかける側の影響を考えるために、マイクロカウンセリングの積極技法を中心に学習し、ロール・プレイや事例を通して実践性も高めていくことを目的とする。

【授業計画】

テキストを中心に講義を行うが、ビデオによるロール・プレイの検討なども含めて、「学び—使う—教える」の過程を習得する。

1. 教育心理学とカウンセリング
2. マイクロ技法の意味と積極技法
3. 基本的傾聴技法の連鎖
4. 焦点のあて方技法
5. 対決技法
6. 指示技法
7. フィードバックと自己開示
8. 論理的帰結
9. 解釈/再構成
10. 積極的要約と助言
11. 技法の統合/面接の5段階

最終回にロール・プレイを実施し、技法の意味を考える。

【評価方法】

ロール・プレイの逐語録検討のレポートと授業への参加関与度にする。

【テキスト】

マイクロカウンセリング (アイビー,A.E.著 福原真知子他訳編 川島書店)

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

グループアプローチ特講

池田豊應

【授業の概要】

- 1) まず、エンカウンター・グループ、集団心理療法、セルフヘルプ・グループ等々、「グループ・アプローチ」の概念について検討、整理する。
- 2) 担当者が10年来、取り組んできた「不登校生徒のためのグループ・アプローチ<ココ体験グループ>」を取りあげ、数人の生徒の歩みに即して、グループの動きを紹介する。
- 3) その詳細な検討を通して、この活動の心理療法としての意味、治療要因、治療条件、構造論、個人心理療法との関係、個人心理療法論の集大成としての面と独自の治療的グループ・ダイナミックス等々の主題について考察したい。

【授業計画】

- 第1回から第3回：上記の1) について講義
第4回から第8回：上記の2) について講義
第9回から第13回：上記の3) について講義

【評価方法】

授業への参加態度およびレポートの内容から評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜、授業の中で、参考文献は紹介し、資料は配布する。

投影法特講

池田豊應

【授業の概要】

ロールシャッハ法を中心に、TAT、SCT、バウムテスト、風景構成法、コラージュ等を横糸に編み込みながら、いきいきとした人間理解をめざすアプローチについて学んでいくことにしたい。

半期ではあるが、難しいとされるロールシャッハ法を使えるようになることが目標である。

このクラスでは、将来、臨床家になることを望んでいる受講者のみに限定し、倫理の問題、実施法、分析と解釈等について、特講ではあるが演習的要素も取り入れることで、受講生が真剣にインボルブして、体験的に高度専門職としての態度と技能を身に付けられるよう進めていきたいと考えている。

【授業計画】

- 第1回：心理臨床にかかわることの前提、倫理。
第2回：投映法一般についての概論。
第3回：ロールシャッハ法そのほか個々の接近法についての概説。
第4回から第6回：実施法およびスコアリングについて解説。
第7回と第8回：小グループでの分析、解釈に関する演習。
第9回から第12回：各グループによる発表
第13回：まとめ

【評価方法】

授業への参加姿勢、発表の内容、レポートの内容により総合的に評価する。

【テキスト】

臨床投映法入門 (池田豊應編 ナカニシヤ出版)

【参考文献・資料】

適宜、授業の中で、参考文献は紹介し、資料は配布する。

障害児発達心理学特講1・2

二宮 昭

【授業の概要】

人の「からだ」の動きを本人の主體的な身体運動制御という心理学的な活動として捉え、そのような制御能力を高めることを目的として行われる「動作法」の理論と方法を中心に、「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助のあり方について検討する。

とくに、動作法を実施していく上で大きな問題となる援助者と被援助者との間でみられる「やりとり」に関して、それを成立させる基盤としての「からだ」のもつ意義や、それを考えるときに重要だと思われる「間主観性」の問題について検討していく。

【授業計画】

前期は動作法に関する文献を担当者がその内容を報告し、それに基づいて討論するという形式と、講義形式の併用で授業を進める。
後期は下記の参考書籍を中心に、主として討論形式で授業を行う。

【評価方法】

報告の内容、および討論への参加の仕方によって評価する。

【参考文献・資料】

Braiten,S. (Ed) Intersubjective Communication and Emotion in Early Ontogeny. Cambridge University Press, 1998

精神医学特講

古井 景

【授業の概要】

精神医学一般について診断体系を述べ、乳幼児、小児期、思春期・青年期、成人期、老年期などに好発する各疾患について、診断と治療を解説する。

【授業計画】

- I. 総論
 1. 精神医学の概念
 2. 精神障害の成因と分類
 - (1)内因、外因、心因とICD-10、DSM-IV
 - (2)人格・神経症・心身症・精神病
 3. 脳と精神機能(大脳神経・生理学)
 4. 精神症状学
 - (1)意識障害(2)知能障害(3)記憶障害(4)知覚障害(5)思考障害(6)感情・情動・気分障害(7)意欲と行動の障害(8)巣症状と症候群
 5. 診断
 - (1)病歴と現症(2)理化学的検査(3)心理査定
 6. 治療
 - (1)薬理学的療法(2)精神療法(3)環境調整
- II. 各論
 - a乳幼児期 b小児期 c思春期・青年期 d成人期 e老年期の各時期に於いて好発する疾患・障害について、下記の項目に沿って説明していく
 - (1)器質脳疾患に伴う精神障害(2)身体疾患に伴う精神障害(3)中毒性精神障害(4)心因性精神障害(心因反応・神経症)(5)統合失調症(精神分裂病)、感情障害、他の精神病(6)人格と行動の障害

【評価方法】

毎回の授業のテーマ・内容に沿ったレポートを、次回の授業時に提出する。このレポート及び授業に取り組む姿勢をもって評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

現代臨床精神医学(大熊輝雄著 金原出版)
臨床精神医学講座(中山書店)
精神症状学(濱田秀伯著 弘文堂)
標準精神医学(野村総一郎・樋口輝彦編集 医学書院) など

臨床心理学演習 2

米倉五郎

【授業の概要】

指導院生が関心をもつ心理臨床の事例やテーマに関して、臨床面接法や心理査定法などの技法を活用する事例研究および調査研究などによる修士論文の作成を目標とする。

【授業計画】

院生の各自が研究テーマを設定し、事例研究法および調査研究法などの方法論の特定が検討される。そして心理臨床の研究対象の選定がなされる。演習では、毎回その面接過程と考察が各人より報告され、グループスーパービジョンがなされる。こうしたグループ検討と指導により2年次学生での修士論文の完成を目指していく。

【評価方法】

授業における発言の姿勢、発表の内容およびレポートにより評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する。

心身医学特講

古井 景

【授業の概要】

まず、力動精神医学の立場から、心のメカニズム(自我機能)に目を向け、“適応”についての知識を深め、“適応困難(不適応)”となった者が現れていく『症状・疾病状態』について言及していく。

更に、医学的及び臨床心理学的治療のあり方について学んでいく。

【授業計画】

- ・精神力動とストレス
- ・意識的行動と無意識的行動、身体症状化
- ・自我機能と防衛機制
- ・幼児期不適応：夜尿、夜驚、自家中毒、チック
- ・学校生活不適応：不登校、心因性視力障害・頭痛腹痛
- ・家庭内暴力
- ・摂食障害：拒食症・過食症
- ・児童虐待：虐待する母親、される子供
- ・職場不適応：長期欠勤、鬱病
- ・薬物依存：有機溶剤、麻薬・覚醒剤、アルコール
- ・心身症：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、腰痛症、過敏性腸症候群、メニエル症候群、顎関節症、舌痛症 など

【評価方法】

毎回の授業内での質疑をもとに評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

臨床心理学演習 3・4

江口昇勇

【授業の概要】

指導院生の修士論文執筆に関するグループ・ディスカッションを中心に授業を行っている。修士論文執筆に限定しているので受講は指導院生に限定されている。研究計画に基づいて発表する院生に対して、指導教員や他の院生から様々な視点からの批判を受けることになる。方法論の検討から、対象選定、その現実性や最終的な手続きまで厳しい討論が続くので、そのつもりで受講すること。特に、修士論文の執筆に専念しなければいけない時期には当該院生の発表の機会が多くなる。また、臨床的素材を扱う研究の場合、研究者の個人的で主観的な歪みを補正する上で、ゼミにおける臨床素材へのグループ検討や、グループ・スーパービジョンが行われる。こうした臨床的色彩の濃いセッションが幾度も持たれることが、演習の特徴である。このような相互主観性による客観性の保持という臨床研究特有の方法論を授業の中で体験することが大切と考えている。

【授業計画】

研究計画の大枠を特定し、次に方法論の特定、調査法か実験か、臨床的アプローチか、あるいはその組み合わせかが検討される。その後、測定ツールの検討や実験条件の特定が行われ、対象の特定と臨床面接法ではその対象の選定基準の明確化が行われる。最後に結果とその考察といった順に演習での中間発表が進行する。修士論文を2年間で完成させることは実際は困難なことである。できるだけ計画を前倒しするつもりで研究を進行させること。

【評価方法】

授業における発言の姿勢と、その内容の質を評価の対象とする。また発表者には発表の方法や表現力も評価の対象とする。

【テキスト】

各自、研究対象が異なるので共通のテキストは使用しない。各自の文献研究がテキストの役割を果たす。

【参考文献・資料】

なし

臨床心理学演習5・6

古井 景

【授業の概要】

自我機能・精神力動に関する知識を深めていく。自我機能の健全な発達と障害について学び、臨床心理面接技法へと繋げていく。様々な論文・著書を活用し、積極的な討議を行っていく。

また、修士論文の作成に関しても、参加者自らの積極的取り組みを前提として、互いに検討・議論を積み重ねていく。

【授業計画】

以下の項目を中心として、参加者の発表と討論を通して、知識を深めていく。

- ・自我心理学の歴史
- ・対象関係論への発展
- ・自我構造モデルと自我機能
- ・対象喪失と取り入れ
- ・分裂的機制
- ・抑鬱的態勢、躁的防衛
- ・乳幼児期の自我-対象-分裂
- ・移行対象と移行現象
- ・分離個体化理論

【評価方法】

知識の深さ、理論の構築能力、言語的表現力など総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書はその都度提示する。

臨床心理査定演習1・2（臨床心理アセスメント）

米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理士として様々な事例に関わって行く中で、事例の抱える問題点を的確に把握することは極めて重要な作業である。この演習では、神経心理学的障害、情緒的障害、人格障害の心理アセスメントのために、様々な検査法を理解し可能な限り実習体験を行っていく。

【授業計画】

資料配付に基づいて講義を行い、演習として実際の査定方法を体験していく。

- 1 心理アセスメント・心理査定法について
- 2 知能のアセスメント
 - ウェクスラー知能検査（成人・小児）
 - 乳幼児精神発達診断検査
 - 老人の知能の評価
 - など
- 3 パーソナリティーのアセスメント
 - 自己記入式質問紙法
 - 投影法（自我の構造モデルと自我機能の理解）
 - 精神作業検査
 - など
- 4 テストバッテリーについて
 - 心理査定法からの情報と統合的な解釈法

【評価方法】

授業内容の理解度により、成績を評価判定する。

【テキスト】

参考図書はその都度提示する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

臨床心理学演習7・8

二宮 昭

【授業の概要】

内外の「障害児」と呼ばれる子どもたちの発達援助に関する著書・論文の講義を行い、彼らにみられる「障害」とは何か、また、その「障害の改善」とはどういうことかについて理解を深めるとともに、「障害児」を対象とした実践的研究のまとめ方を学ぶ。その中で修士論文の研究テーマを決定し、具体的な研究計画の検討を行う。

【授業計画】

受講者が読んだ文献の発表と討論を行いながら、研究テーマの検討、および具体的な研究方法の特定というかたちで展開される。

【評価方法】

発表内容、討論への参加の仕方、および研究計画やその方法論の内容などによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

臨床心理基礎実習1 a

古井 景 二宮 昭 富安玲子 西出隆紀 米倉五郎 後藤秀爾

【授業の概要】

臨床心理学の実践に必要な基礎知識・技能・態度を身につけるための実習である。

【授業計画】

1. 心理臨床入門講習

- 1-1 受理面接1（幼児期・児童期）
- 1-2 受理面接2（思春期・青年期）
- 1-3 受理面接3（成年期・老年期）
- 1-4 受理面接4（障害児）
- 1-5 受付・契約・限界設定・危機介入
- 1-6 心理検査・クリニカルレポート・カルテの記載と管理・守秘義務
- 1-7 医療機関との連携・リファー・診断と見立て・治療方針・共同治療

2. ロールプレイ実習

入門講習は、講義・演習方式に加えて実習形式も適宜取り入れていく。ロールプレイ実習は入門講習の後の時間に開講し、相互にカウンセラー・クライアント役を演じ、参加者の講評を受ける。

なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点に留意すること。

【評価方法】

受講態度と提出物で評価する。特殊な実習なので、やむを得ない事情がない限り、1回でも遅刻・欠席があれば単位は認めない。

臨床心理基礎実習 1 b

後藤秀爾 古井景 二宮昭 米倉五郎

【授業の概要】

臨床心理基礎実習1aを基にして、心理臨床の実践を行い始めた学生を対象として、その臨床実践に対するスーパービジョンを受けることを通じて、心理臨床家（臨床心理士）となっていくための基礎的な能力の修得をめざすための実習である。

そのため、受講は臨床心理基礎実習1aを履修したものに限られる。

【授業計画】

1. 心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。

2. スーパービジョン体験

スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則として指導教員がスーパーバイザーとなり、セッション1～3回につき、最低1回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることもあり得る。このように完全な実習であり、当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当な時間をとられることを覚悟しておいてもらいたい。なお、すべての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度によって評価する。

臨床心理実習 1 a・b

宮本 淳 森崎博志 長瀬治之 石田幸子

【授業の概要】

心理臨床実践を行い、それに対するスーパービジョン、ケース・コンサルテーションなどを受けることにより、一人前の心理臨床家（臨床心理士）となるための幅広く、より高い能力の修得をめざすための実習である。

【授業計画】

1. 心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習、および病院や福祉施設などの外部施設での実習。

2. スーパービジョン体験

スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則として1名のスーパーバイザーに3名が1組となってスーパービジョンを受ける。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることもある。

このように、完全な実習であり、当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に相当な時間をとられることになる。

なお、すべての内容に守秘義務が課せられているので、その点にも留意されたい。

【評価方法】

実習態度によって評価する。

臨床心理基礎実習 2 a・b

後藤秀爾 二宮昭

【授業の概要】

心理臨床実践を行い、それに対するスーパービジョン、ケース・コンサルテーションなどを受けることにより、心理臨床家（臨床心理士）となっていくための基礎的な能力の修得を目指す。

【授業計画】

1. 心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。

2. ケース・カンファレンス

本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションを行って、討議を通して指導を受ける。また、他者の提示したケース資料について討議する。

3. スーパービジョン体験

スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則としてセッション1回につき、1回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることになる。

上記のように、完全に実習中心で進める。当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。

なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度から評価する。なお、特別な理由もなくケース・カンファレンスに欠席した場合は、その場で失格となる上、今後いかなる場合も受講を認めない。

【テキスト】

使用しない。しかし、参考文献としてかなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示されることになろう。

臨床心理実習 2 a・b

古井景 米倉五郎 西出隆紀

【授業の概要】

心理臨床実践を行い、それに対するスーパービジョン、ケース・コンサルテーションなどを受けることにより、心理臨床家（臨床心理士）となっていくための基礎的な能力の修得を目指す。

【授業計画】

1. 心理臨床実践

本学併設の心理臨床相談室における外来相談実習。

2. ケース・カンファレンス

本学心理臨床相談室で行われるケース・カンファレンスに参加し、ケース・プレゼンテーションを行って、討議を通して指導を受ける。また、他者の提示したケース資料について討議する。

3. スーパービジョン体験

スーパーバイザーとしてスーパービジョンを受ける。原則としてセッション1回につき、1回のスーパービジョンを受けることになる。また、必要に応じて、スーパーバイザー以外にケース・コンサルテーションを受けることになる。

上記のように、完全に実習中心で進める。当然のことながら、割り当てられた授業時間以外に、相当の時間をとられることを覚悟して欲しい。

なお、全ての内容について守秘義務が課せられているので、その点を留意されたい。

【評価方法】

実習態度から評価する。なお、特別な理由もなくケース・カンファレンスに欠席した場合は、その場で失格となる上、今後いかなる場合も受講を認めない。

【テキスト】

使用しない。しかし、参考文献としてかなりの文献を読むことをスーパーバイザーなどから指示されることになろう。

心理学研究法特講

杉本助男 清水 遵 植村勝彦 後藤秀爾
二宮 昭 古井 景 米倉五郎

【授業の概要】

心理学研究法の授業は、1) 実験法、2) 観察法、3) 調査法、4) 面接法、5) 心理検査法に区分し、各領域をそれぞれの教員が分担して講義する。

【授業計画】

実験法に関しては、杉本助男先生、清水遵先生が分担し、実験に伴う実験計画法や統計法を清水先生の講義に含める。観察法については二宮昭先生、調査法については植村勝彦先生、面接法については後藤秀爾先生が担当する。古井景先生と米倉五郎先生は心理検査法と事例研究法を担当する。

【評価方法】

各研究法ごとにレポートを提出させ、評価する。

【テキスト】

プリントの配布による。

心理統計特講

斎藤和志 吉崎一人 西出隆紀

【授業の概要】

心理統計に関わるいくつかの問題を大きく3つの側面から扱う。心理統計の基礎的な部分については斎藤が、実験計画法を中心とした領域については吉崎が、多変量解析を中心とした領域については西出が担当する。基本的な事項の講義に加えて、統計ソフトSPSSを使用した具体的な事例の検討も行う。

【授業計画】

1. データの種類と特徴
2. 代表値と散布度
3. 変数間の関係、変数の分布と変換
4. 統計的検定の基礎
5. 実験計画法の基礎
6. 平均値の差の検定
7. 分散分析
8. カテゴリカル・データの検定
9. 多変量解析の考え方
10. 予測と説明
11. 変数の分類
12. 尺度構成と信頼性・妥当性
13. まとめ

【評価方法】

受講態度とレポートによって評価する。

【テキスト】

指定しない。

【参考文献・資料】

授業時に適宜紹介する。

応用言語学特講 1 (英語教育)

松本青也

【授業の概要】

言語教育の一環としての外国語教育という視点から、日本における英語教育を経済的、文化的、政治的な状況の中で捉え、そのさまざまな課題を検討するとともに、外国語運用の技能を検証することで、コミュニケーション能力養成に向けての英語教育をどのように位置づけるべきかを考察する。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1. 外国語教育の歴史
2. 諸外国の外国語教育政策
3. 日本における外国語教育政策の変遷
4. 言語教育の一環としての外国語教育
5. 外国語運用の技能
 - ・Listening
 - ・Speaking
 - ・Reading
 - ・Writing
6. 異文化コミュニケーション能力

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講 2 (英語教育)

松本青也

【授業の概要】

世界における外国語教授法の歴史と多様性を概観し、主要な教授法について詳しく検証しながら、日本固有の言語状況に適合した理想的な英語教授法と、日本の学習者の立場から考えた理想的な英語学習法とは何かを考察する。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1. ESLとEFL
2. 外国語教授法の変遷
3. 日本の外国語教授法
4. 外国語教授法の理論的背景
5. 動機付けと学習法
6. 教授法の原則
7. マルチメディアの活用
8. 教師の役割と評価

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講 3・4 (中国語教育)

馮 富榮

【授業の概要】

本講義では、主として日本における中国語教育について以下の角度から検討する。

1. 日本における中国語教育の現状
2. 日本における中国語教育の問題点
 - (1) 教材の問題
 - (2) カリキュラムの問題
 - (3) 教育者間の連携の問題
3. 日本における中国語教育の展望

【授業計画】

この授業は、下記のステップを踏んで展開していく。

1. 日本における中国語教育の現状を調べる。主として日本の大学での中国語教育に焦点を当てる。
2. 日本の大学での中国語教育における問題点について討論を行う。具体的には、
 - 1) 教材に関する問題；
 - 2) カリキュラムに関する問題；
 - 3) 中国語教育者間の連携の問題。という3つのカテゴリーに分けて、それぞれ具体的に議論し、改善案を検討する。
3. 日本における今後の中国語教育への提案にまとめる。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで、総合的に評価する。

【テキスト】

論文のコピーや新聞などを使う。

応用言語学特講 5・6 (日本語教育)

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の現在と将来の課題を考察する。

日本語教育は、1980年代を画期にその目的と内容を大きく変えた。コミュニケーションのために、日本語を新たな手段とする地域が広がってきている。第2言語教育の研究がすすんでいる一方で、国語と日本語の境界が教育現場でも取り払われつつあるようである。

日本語教育方法とその背景にある諸問題を概観し、テーマに応じて議論を深め問題の解決を探究する。

【授業計画】

次についてテーマを定めて講義をおこなう。

- 日本語教育の歴史
- 日本語教育の方法
- 日本語教師の使命
- 日本語ボランティア
- 日本語と文化
- 日本語教育文法理論
- 日本語とコミュニケーション
- 日本語と地域
- コンピュータ利用の日本語教育

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

プリント資料を用いる。

応用言語学特講7 (Sociolinguistics)

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

Explorations of the interface between language, communication and community. A major goal is to acquire an informed perspective on sociolinguistic matters, particularly those international and intercultural in scope. By gaining knowledge of concepts and principles of sociolinguistics, one will be better able to avoid stereotyping or other cultural biases. An allied goal is to sharpen critical cultural analysis for effective research applications whether as a consumer or producer of academic research.

【Schedule】

Tentatively, course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

- ・ Course Introduction
- ・ Culture in World Perspective
- ・ Bases for Critical Communication
- ・ Misattributions
- ・ Avoiding "Isms"
- ・ Communication Style I

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

応用言語学特講8 (Sociolinguistics)

DONAHUE, Ray T.

【Course Content】

Explorations of the interface between language, communication and community. This course is a continuation of 応用言語学特講7. A major goal is to acquire an informed perspective on sociolinguistic matters, particularly those international and intercultural in scope. By gaining knowledge of concepts and principles of sociolinguistics, one will be better able to avoid stereotyping or other cultural biases. An allied goal is to sharpen critical cultural analysis for effective research applications whether as a consumer or producer of academic research.

【Schedule】

Tentatively, course content includes these major topics (the instructor reserves the right to make changes in the course where appropriate):

- ・ Overview
- ・ Communication Style II
- ・ Communication, Rhetoric, and Language
- ・ Major Linguistic Approaches
- ・ Discourse Applications I
- ・ Discourse Applications II

【Assessment】

Assessment is based on class participation, assignments, and test performance.

応用言語学特講9 (日本語学)

窪田守弘

【授業の概要】

日本語の文構造の特徴の一つとして、終止形と連体形が同形ということがあげられる。例えば、「飛ぶ」は「鳥が飛ぶ」の場合に終止形で、「飛ぶ鳥」の場合に連体形になる。また、形容名詞の「こと」をつければ、「鳥が飛ぶこと」という名詞句になる。本講ではこのような現象の成立と歴史的な背景を考え、動詞文、形容詞文、名詞文などの基本的な文型を分析し、文構造の在り方を考察する。

【授業計画】

本講では、まず動詞や形容詞が示す活用という現象が、どのような意味をもっているかを考える。そして、それぞれの活用形はどのようにして成立したのかについて概観する。

特に三上章の文法論を中心に、現代の日本語の構造がどのような輪郭になっているかについて考察する。

【評価方法】

講義における授業態度、レポート等の内容で評価する。

【テキスト】

日本語基礎講座－三上文法入門（山崎紀美子著 ちくま新書 700円＋税）

【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

応用言語学特講10 (日本語学)

山内啓介

【授業の概要】

日本語学の分野から、音韻論、文法論、意味論を講義する。

音韻論：「モーラ音節」の連合と音便現象

文法論：形態文法と統語文法

意味論：歴史的研究における意味のとらえかた

【授業計画】

本年度は、日本語教育の文法論を概観し、日本文法形態論を行う。

受講生との議論を通して日本語共時論の記述分析をすすめる。

【評価方法】

課題レポート

【テキスト】

未定。

応用言語学特講 11 (対照言語学 <日英>)

松本青也

【授業の概要】

日本語と英語について、音、語彙、文法、発想、背景文化といった側面から、言語体系と言語行動の対応を明らかにすることで、それぞれの言語の特質を浮き彫りにする。

【授業計画】

以下の点について考察する。

1. 英語教育における対照言語学の役割
2. 日英語の音声
3. 日英語の語彙
4. 日英語の文法
5. 日英語の発想
6. 日英語の背景文化

【評価方法】

研究発表及び論文。

【テキスト】

未定。

応用言語学特講 12 (対照言語学 <日中>)

馮富榮

【授業の概要】

言語を構造面(文法)といった側面から捉えるだけでなく、文化や社会といった側面からも多角的に捉えることをテーマとする。この授業では、中国語を柱とし、主として日本語との比較をしながら、両言語の違い、また両言語を支えている両国の文化・習慣及び思考様式の違いを探ってみる。いわば、言語学のみではなく、語用論という視点からも日・中両言語の言語現象を分析してみる。

【授業計画】

授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。

1. 日・中両言語に関する比較研究を幅広く読んで、ディスカッションを行う。
2. 日・中両言語の共通点と相違点を検討する。文法などという言語学的な側面だけでなく、文化や思考様式などという語用論的な側面からも捉える。
3. 上記した日・中両言語の相違点は、すなわち中国人の日本語学習の問題点となるか否か、または日本人の中国語学習の問題点となるか否かを検討する。

授業は、輪読という形で展開される予定である。もちろん、講読の材料となる研究論文についても議論をする。よって、論文によって解明された問題を確認すると共に、まだ残っている研究課題を絞りだす。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

論文のコピーを使用する。

応用言語学特講 13 (児童英語教育法)

高橋美由紀

【授業の概要】

公立小学校に「総合的な学習の時間」の枠組みの中で「国際理解教育の一環」として導入された小学校英語活動において、指導的な立場を担う人材を養成することを目的として行う。授業は、小学校英語活動の意義や効果的な指導法、カリキュラムや年間計画、授業プランの立て方、教材・教具研究などの講義と、ワークショップから構成される。毎時間、英語の歌やダンス等を紹介する。

【授業計画】

1. オリエンテーション：小学校英語活動と児童英語教育
2. 「総合的な学習の時間」の枠組みの中で小学校英語活動、国際理解教育
3. アジア諸国、ヨーロッパ諸国での小学校英語教育の取り組み
4. 文部科学省「小学校英語活動実践の手引き」を読む
5. 小学校における英語(外国語)教育の目的と意義、研究開発校の事例研究等から
6. 小学校英語活動における学習者に対する効果的な教授法
7. 早期外国語教育プログラム(イマージョン、FLES、FLEX)
8. 小学校英語の指導者について・ALTとのTT授業について
9. 発達段階に応じた効果的な英語活動
10. 小学校英語活動の教材・教具・設備について
11. 小学校英語活動の視覚教材・聴覚教材研究
12. 小学校英語活動のコンピュータ教材やビデオ教材の研究
13. テキストと授業計画、指導案の書き方について
14. 模擬授業の具体例と指導案(その1)
15. 模擬授業の具体例と指導案(その2)、まとめ

【評価方法】

テストは実施しない、出席状況、授業態度、課題レポート、模擬授業

【テキスト】

小学校英語活動実践の手引き(文部科学省 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 1 (山岡多美子・高橋美由紀 開隆堂出版)
Sunshine Kids Book 2 (高橋美由紀・山岡多美子 開隆堂出版)
子どもに英語おしえたい(アルク出版)
Curtain, H & C.A.Dahlberg 2004 Languages and Children: Making the Match: Third Edition: Pearson
その他、絵本、カセット、CD、文献等は授業内に紹介する。

応用言語学演習 1 (英語教育)

松本青也

【授業の概要】

応用言語学の分野の中でも、特に第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策に焦点を絞り、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、研究仮題の選択、文献調査、研究題目の設定から研究方法と論文の構成・形式まで、独創的な研究のための指導を行う。

【授業計画】

それぞれの研究題目に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、項目ごとに研究発表と議論を積み重ねる。

【評価方法】

研究発表、論文の総合評価。

【テキスト】

未定。

応用言語学演習 2 (英語教育)

松本青也

【授業の概要】

第二言語習得理論、日英対照言語学、および外国語教育政策について、英語教育に関する最新の研究成果を検証しながら、独創的な研究論文作成のための指導を行う。

【授業計画】

それぞれの研究内容に関連した内外の研究成果に批判的考察を加えながら、修士論文作成のための個別指導を行う。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

応用言語学演習 5・6 (日本語教育)

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育の課題を調査研究し、問題の解決をする。
日本語教育の実情とデータの収集を行い分析する。
日本語とその歴史や教育、日本語研究理論を内容とする日本語学、言語と社会、文化論、言語教育理論と実践、とりわけCALLなどにも視点を持つこと。研究の立場を持つことが重要。
演習授業であるので、参加者がプレゼンテーションを行い、発表について議論をする。

【授業計画】

個別にテーマを設定する。
次の手順で調査発表を行う。
1 テーマ届け
2 テーマについての予備研究
3 先行文献探索
4 調査実行
5 調査発表と議論
なお、分析と理論は方法論について、たてるとよい。
この演習授業は論文作成を目的に発表と議論を行うので、すでにテーマについての文献を渉猟し研究史に着手しておくことがのぞまれる。研究科専攻に入学時のおりテーマをいくつかたてて実行することを進める。

【評価方法】

プレゼンテーションの内容による。

【テキスト】

特になし。

応用言語学演習 3・4 (中国語教育)

馮富榮

【授業の概要】

応用言語学特講3・4と平行して、当「演習」講座では、受講者の高度な中国語コミュニケーション能力の養成に重点が置かれる。最終的な目標は、中国語の話す能力、聞く能力、書く能力と翻訳する能力の4つの能力を極めるだけでなく、中国語で考えることができ、それをすぐ中国語で表現することができるようなレベルまで養成していく。要するに、立派な中国語の教育者と研究者としての素質を培っていく。

【授業計画】

授業は、主として以下のステップを踏んで展開していく予定である。

1. 中国語研究や、日本語と中国語の比較研究、そして対外中国語教育に関する論文を幅広く読んで、ディカッションを行う。
2. 受講者の関心のある研究テーマを搾り出す。その研究テーマに関連のある研究論文を読んで、先行研究の問題点についてディカッションを行い、整理する。
3. 受講者の研究目的をはっきりさせ、その研究目的に達することができるように、最適の研究方法を検討する。
4. 中間発表に向けて、具体的な研究作業に入る。そして、研究過程において、受講者の持っている問題点や疑問に対して、随時アドバイスをを行う。

【評価方法】

努力や研究成果などで、総合的に評価する。

【テキスト】

関連の論文のコピーを使用する。

コミュニケーション学特講1 (Practicum in Communication Studies)

ジョリー・佐々木幸子

【授業の概要】

当コースは、コミュニケーションの分野を「言語 (verbal)」と「非言語 (nonverbal)」とに二分し、後者の非言語コミュニケーション分野 (NVC) に焦点を当てて分析、探索するコースである。NVCは専門家によると、我々の日常のコミュニケーションの9割以上がこの「非言語」という現象で意思の疎通が計られていると言う。この「非言語」の下位分野を研究、模索することにより、日本人の言語行動を社会的背景と照らし合わせて分析、記述することを目的とする。

【授業計画】

1. Introduction: Aspects of Nonverbal Communication
2. Behavior
 - 1) Body Movements and Gestures
 - 2) Facial Expression
 - 3) Eye Behavior and Gaze
 - 4) Territoriality
 - 5) Personal Space
 - 6) Touching Behavior
 - 7) Time
 - 8) The Voice and Vocal Expression: Characteristics of the Voice
 - 9) The Voice and Vocal Expression: Information Communicated through the Voice

【評価方法】

授業での発表、意見交換、出席状況、期末試験などでの成績を総合評価する。

【テキスト】

Nonverbal Communication
(S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao, Ikuendo, 2002)

【参考文献・資料】

認知科学の探求 ジェスチャー・行為・意味
(斉藤洋典・喜多壮太郎 共立出版 2002)

コミュニケーション学特講2 (Practicum in Communication Studies)

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

前期と同じ

【授業計画】

前期に続く

3. Artifacts
 - 1) Clothing as Communication
 - 2) Personal Artifacts as Communication
 - 3) Environmental Influence on Communication
 - 4) What the Environment Communicates
4. Other Aspects of Nonverbal Communication
 - 1) Verbal Expression and Nonverbal Communication
 - 2) Differences in Nonverbal Communication of Americans and Japanese

【評価方法】

前期事項参照

【テキスト】

前期と同じ

【参考文献・資料】

前期と同じ

コミュニケーション学特講3 (Academic Writing)

DYCUS, David C.

【Course Content】

This course is designed for graduate students who are non-native speakers of English (preferably of intermediated level or higher) and who would like to improve their written English, particularly their academic writing in English. Graduate students face many tasks in gathering and assessing data and writing about their findings and research in an academically-appropriate style. Participants in this course will discuss and practice both discrete aspects of academic writing as well as general skills related to the writing of academic papers, theses, and dissertations.

【Schedule】

Students will be taught about the generic structure of the various sections of research papers, including the writing of introductions, research reviews, data analysis and commentary, and conclusions. Aspects of academic writing style and of logical argumentation will be a continuous thread in all lessons.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation, 2) shorter homework assignments related to individual lesson objectives or preparation for longer assignments, and c) a mid-term and end-of-term short research paper.

【Textbooks】

To be announced.

コミュニケーション学特講4 (Academic Writing)

DYCUS, David C.

【Course Content】

This course, which is a continuation of the first semester course by the same name, is designed for graduate students who are non-native speakers of English (preferably of intermediated level or higher) and who would like to improve their written English, particularly their academic writing in English. There will be a continued emphasis on and refinement of the techniques covered in the first semester: gathering and assessing data and writing about one's findings and research in an academically-appropriate style. Participants in this course will continue to discuss and practice both discrete aspects of academic writing as well as general skills related to the writing of academic papers, theses, and dissertations.

【Schedule】

The writing of introductions, research reviews, data analysis and commentary, and conclusions will continue to be explored, but with particular emphasis on those aspects students find most difficult to master. Aspects of academic writing style and of logical argumentation will be a continuing thread in all lessons.

【Assessment】

Assessment will be based on 1) attendance and participation, 2) shorter homework assignments related to individual lesson objectives or preparation for longer assignments, and c) a mid-term and end-of-term short research paper.

【Textbooks】

To be announced.

コミュニケーション学特講5 (翻訳技術)

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

翻訳と通訳技術の特徴の研究。

【授業計画】

前期の講義では様々な翻訳と通訳に関するテキストを翻訳する際に生じる多種多様な問題点を、その特徴から捉え理解できるように、主に日本語と英語を利用する。主として翻訳と通訳の理論と技術に関するテキストを使用するが、その他の分野のテキストからもさまざまな問題点を論じる。

【評価方法】

レポートによる評価する。

【テキスト】

Translation and Translating: Theory and Practice (Roger T. Bell, Longman, London, 1991)、その他の翻訳と通訳に関するテキスト。

コミュニケーション学特講6 (翻訳技術)

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

翻訳と通訳技術の特徴の研究。

【授業計画】

後期の講義では前期より更に高度な様々な翻訳と通訳に関するテキストを翻訳する際に生じる多種多様な問題点を、その特徴から捉え理解できるように、主に日本語と英語を利用する。主として翻訳の理論と技術に関するテキストを使用するが、その他の分野のテキストからもさまざまな問題点を論じる。

【評価方法】

レポートによって評価。

【テキスト】

Translation and Interpreting: Bridging East and West,
(R.K.Seymour, C.C.Liu (Eds.) , University of Hawaii Press, 1994)、その他の翻訳と通訳に関するテキスト。

コミュニケーション学演習1 (翻訳技術)

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

翻訳と通訳技術の特徴の研究。

【授業計画】

この演習では、さまざまな分野のテキスト（文学作品、学術論文、科学文献、新聞記事、など）を利用し、英語と日本語の翻訳の基礎を学習する。

【評価方法】

レポートによって評価する。

【テキスト】

Professional Issues for Translators and Interpreters
(Deanna L. Hammond, ed., John Benjamins, 1994)、その他の翻訳と通訳に関するテキスト。

コミュニケーション学特講7・8 (日本語表現)

窪田守弘

【授業の概要】

身のまわりで話されている何げない言葉に心をとどめ、その意味や背景を調べていくと、意外にも奥行きが深くおもしろい発見をすることが多い。特に、現代日本語の変化は激しくてその実態はなかなか把握しにくいのが、映画やテレビの画像の様々な場面では、多くの表現形式が台詞として発せられていることによっても分かる。そこで本講義では、日本語をカルチュラル・スタディーズという視点から、テレビや映画というマスメディアを通して考えていく。

1) 日本語コミュニケーションa

本講義では、日本と外国の言語や文化の基礎的な知識を有名な映画やテレビのドラマを教材として学ぶ。そして、映像の中で言語表現がどのようになされているかを分析し、理解を深めるようにする。

2) 日本語コミュニケーションb

後期には、日本語コミュニケーションの新しい講義の方法として映像を中心に進める。そのために、種々の言語と文化の在り方を、映画やテレビというマスメディアを通して比較し、その背後ではたらくメカニズムや日本語の変化を観察することになっている。そして、この日本語コミュニケーションは、対照言語学という立場から日常生活のコミュニケーションの在り方を、カルチュラル・スタディーズという視点から検討する考えである。

【授業計画】

毎回テーマを提示し、それに従って発表を行なう。そこから論文を作成するための基礎技術を身につける。

【評価方法】

講義における授業態度、レポートの内容、出席状況によって評価する。

【テキスト】

カルチュラル・スタディーズ入門（上野俊哉著 ちくま新書 660円+税）

【参考文献・資料】

講義時に紹介する。

コミュニケーション学演習2 (翻訳技術)

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

翻訳と通訳技術の特徴の研究。

【授業計画】

この演習では、前期での学習を発展させテキスト（文学作品、学術論文、科学文献、新聞記事、など）を利用し、英語と日本語の翻訳を行い、学生の翻訳技術を高める。

【評価方法】

レポートによって評価する。

【テキスト】

Professional Issues for Translators and Interpreters
(Deanna L. Hammond, ed., John Benjamins, 1994)、その他の翻訳と通訳に関するテキスト。

コミュニケーション学演習3 (日本語表現)

窪田守弘

【授業の概要】

日本語は長い歴史の中で、中国語に始まり、ポルトガル語、オランダ語、ドイツ語、フランス語、英語など、多くの外国語の影響を受けてきている。それが日本語の豊かな表現形式、特に外来語として日本語の中で重要な構成要素となっている。最近では、隣国の中国や韓国との交流がますます活発になり、相互の言語や文化に新しい傾向が見られる。中国語は表意文字であり、ハングルは表音文字であるが、日本語はその両方の特性を有していると考えられる。そこで、現在の日本語にはどのような表現上の特色があるかについて、それが日本語独自のものか、あるいは他の言語にも見られる現象なのかについて、対照言語学の視点からその特徴を明かにしていきたい。

【授業計画】

日本語と英語、中国語、韓国語などの表現上の関連についてはこれまでも多くの指摘や研究がある。本演習ではまずそれらについて概観し、その知識を基礎として相互の言語の傾向を知る。具体的には映画、シナリオ、小説などを教材として、その中に見られる典型的な談話構文を比較し分析していく。

【評価方法】

演習時の発表や参加態度、学期末のレポートの結果などで評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

演習時に紹介する。

コミュニケーション学演習4 (日本語表現)

窪田守弘

【授業の概要】

日本語は長い歴史の中で、中国語に始まり、ポルトガル語、オランダ語、ドイツ語、フランス語、英語など、多くの外国語の影響を受けてきている。それが日本語の豊かな表現形式、特に外来語として日本語の中で重要な構成要素となっている。最近では、隣国の中国や韓国との交流がますます活発になり、相互の言語や文化に新しい傾向が見られる。中国語は表意文字であり、ハングルは表音文字であるが、日本語はその両方の特性を有していると考えられる。そこで、現在の日本語にはどのような表現上の特色があるかについて、それが日本語独自のものか、あるいは他の言語にも見られる現象なのかについて、対照言語学の視点からその特徴を明かにしていきたい。

【授業計画】

日本語で表現されるさまざまな表現形式に関して、それに言及している文法学者の代表的な考えを整理する。また、日本の代表的な作家による数冊の『文章読本』を資料として、その内容と形式について詳細に分析する。

【評価方法】

演習時の発表や参加態度、学期末のレポートの結果などで評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

演習時に紹介する。

ビジネスコミュニケーション特講1 (金融システム)

藤井正志

【授業の概要】

日・米の銀行ディスクロージャー、金融法規制、金融監督体制を比較・検討することにより、日本の金融システムのあるべき姿を論じる。

【授業計画】

第1～12講 日米における業際規制とその法律的なバックグラウンド、業務の内容別にみた規制緩和の流れ、金融検査および監督体制を検討し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について解説する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

金融業の情報開示と検査・監督 (藤井正志著 東洋経済新報社)

ビジネスコミュニケーション特講2 (金融システム)

藤井正志

【授業の概要】

日・米の銀行ディスクロージャー、金融法規制、金融監督体制を比較・検討することにより、日本の金融システムのあるべき姿を論じる。

【授業計画】

第1～12講 日米における銀行ディスクロージャー、金融規制とその法律的なバックグラウンドを検討し、望ましい銀行規制・監督体制および金融システムのあり方について解説する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

金融業の情報開示と検査・監督 (藤井正志著 東洋経済新報社)

ビジネスコミュニケーション特講3 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

【授業の概要】

インターネットをはじめとする情報技術がビジネス分野に浸透するにつれ、コンピュータ倫理や情報倫理の役割がクローズアップされている。eビジネスにおいては、こうした倫理を考察することは喫緊のテーマである。

本講では、コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読 (1)
- 第5講 テキスト講読 (2)
- 第6講 テキスト講読 (3)
- 第7講 テキスト講読 (4)
- 第8講 テキスト講読 (5)
- 第9講 テキスト講読 (6)
- 第10講 テキスト講読 (7)
- 第11講 テキスト講読 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション特講5 (ASEAN,NIESの投資環境)

森下允之

【授業の概要】

東アジア諸国は、日本を中心とした外国からの直接投資がもたらす資本の蓄積、雇用の創設、技術修得、外貨獲得能力の向上により先進国が長期間かけて達成した工業化を短期間に達成した。これらを論じる。

【授業計画】

- 東南アジア諸国の歴史
- アセアン発足の契機
- NIESの発展
- アセアン経済の発展
- 直接投資の役割
- アジア通貨危機の発生
- これらを12回にわけて講義する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション特講4 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

【授業の概要】

インターネットをはじめとする情報技術がビジネス分野に浸透するにつれ、コンピュータ倫理や情報倫理の役割がクローズアップされている。eビジネスにおいては、こうした倫理を考察することは喫緊のテーマである。

本講では、コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読 (1)
- 第5講 テキスト講読 (2)
- 第6講 テキスト講読 (3)
- 第7講 テキスト講読 (4)
- 第8講 テキスト講読 (5)
- 第9講 テキスト講読 (6)
- 第10講 テキスト講読 (7)
- 第11講 テキスト講読 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション特講6 (中東欧の投資環境)

森下允之

【授業の概要】

ベルリンの壁が崩壊後、ポーランド、チェコ、ハンガリーなどの中東欧諸国は、社会主義、ソ連圏経済から、資本主義、西欧経済へと180度の劇的な転換を試みた。これらの諸国の政治、経済の変化と現状について論じる。

【授業計画】

- 中欧、東欧諸国の歴史
- ソ連経済圏での役割分担
- 各国毎の政治経済状況
- 社会主義経済から市場経済への移行状況
- これらを12回にわけて講義する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション特講7 (会計記号論)

杉本典之

【授業の概要】

企業会計は、元来、中世イタリアの商人たちが開発した記録計算法であるが、少なくとも6～7世紀の間に経済の国際化に伴って各国に伝播し、今日ではビジネス社会における国際的に共通の情報システムになっている。このような歴史的事実とその根底に貫徹する複式簿記の論理とに注目しつつ、企業会計の情報システムとしての基本的構造と社会的機能とを記号論的に多角的に考察する。

【授業計画】

(1) 株式会社会計を典型とする企業会計、(2) 情報システムとしての企業会計、(3) 企業会計の認識・測定・伝達のプロセス、といった事項をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記3点の拙著をコピーして使用する場合もある。

- (1) 引当経理と繰延経理—その構造と機能— (同文館 1981年)
- (2) 会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近— (同文館 1991年)
- (3) キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題— (共著 東京経済情報出版、1995年)

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞(日刊紙)の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション特講9・10 (異文化コミュニケーション)

ジョリー-佐々木幸子

【Course Content】

日本国内の外資系の会社や、外国企業との取り引きにおいて必要となるコミュニケーションの知識、技術についての言語表現と非言語表現の両側面から、分析、考察するコースである。

【Schedule】

- | | |
|------|---|
| 第1週 | Course Orientation |
| 第2週 | Lesson 1
Globalization in Business and Culture ビジネスや文化のグローバル化 |
| 第3週 | Lesson 2
Business Manners: Body Language ビジネスマナー：ボディランゲージ |
| 第4週 | Lesson 3
Names, Titles, and Terms of Respect 名前、職名、敬語 |
| 第5週 | Lesson 4
Business Etiquette ビジネスエチケット |
| 第6週 | Lesson 5
Individualism and Group Spirit 個人主義と集団主義 |
| 第7週 | Lesson 6
Working Overseas 海外で働く |
| 第8週 | Lesson 7
Coping with Language and Culture Shock 言葉やカルチャーショックとうまくつきあう |
| 第9週 | Lesson 8
Hospitality and Friendship 接待と友情 |
| 第10週 | Lesson 9
Negotiations: Cultural Differences 交渉：文化の違い |
| 第11週 | Lesson 10
Negotiating for "Win-win" Solutions 両者が満足の行く交渉 |
| 第12週 | まとめ |
| 第13週 | 期末試験 |

【Assessment】

Oral Report/ Presentation, discussionへの参加、出席率などを総合的に判断する。

【Textbooks】

1. ビジネスと異文化のアクティブ・コミュニケーション (足立行子他 同文館 2002)

【Reference】

欧米式ビジネスマナーをスマートに身につける本
(Ann Marie Sabath スリーエーネットワーク 2002)

ビジネスコミュニケーション特講8 (会計記号論)

杉本典之

【授業の概要】

企業会計は、ビジネス社会における国際的に共通の情報システムになった。つまり、企業会計制度の国際化が進化した。この事実を、各国の会計基準設定主体や国際会計基準委員会等が公表する会計基準や概念的枠組みを比較分析することによって確認し、企業会計の現状と課題をいわば語用論的に具体的に考察する。

【授業計画】

(1) 情報システムとしての企業会計の基本的構造、(2) 決算財務諸表をめぐる会計基準、(3) 会計基準の国際的調和化、(4) 各国の会計基準と国際会計基準、といった事項をそれぞれ複数回に分けて考察し、かつ討論する。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記3点の拙著をコピーして使用する場合もある。

- (1) 引当経理と繰延経理—その構造と機能— (同文館 1981年)
- (2) 会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近— (同文館 1991年)
- (3) キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題— (共著 東京経済情報出版 1995年)

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞(日刊紙)の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション特講11・12 (異文化教育)

霜田一敏

【授業の概要】

世界各地で起こっている紛争は、根底に経済的な格差、貧富の問題を置きながらも、人種差別や民族差別、宗教の違いから起こっている。同じ国のなかでも民族間の差別や対立、人種や宗教の違いから国を割ることへも発展する。そこでは経済的な利害からくる紛争もあろうし、歴史的宗教的背景からくる紛争もある。いずれにしても早急に解決しなければならない21世紀の最大の課題である。この問題を教育と経済の観点から解決の方途を探究する。

履修生の関心と問題意識を重視した、次のような問題について前後期を通して履修生の研究発表を交えて論評し討論を行う。

1. アメリカの人種差別の歴史と多文化主義の問題
—経済格差を基盤として—
2. カナダの多文化主義の特色と問題点
3. イギリス植民地からの移民と文化的同化問題
4. フランスの人種差別の問題と政治的な右傾化問題
5. ドイツへの移民の実態と共存政策と排他運動
6. オーストラリアへの移民の歴史と先住民政策の問題
7. 中国の少数民族共存の政策と経済格差の問題
8. イスラム文化圏の文化同化運動の問題
9. 台湾の少数民族の実態と経済発展政策
10. 日本における在日外国人問題と多文化主義
11. その他履修生が取り上げたい国の民族問題や経済問題、教育問題を検討する。

【授業計画】

履修生の関心や専門に応じて一つの国を選択して、自分でテーマ設定を図り、その個人研究と発表に基づき集団討論を行う。発表者のレポートとテキスト、その国のVTRを使って講義を進める。

【評価方法】

授業への参加度や積極的な態度、研究レポートとその発表、更に最終段階での総括によって評価を行う。

【テキスト】

多文化教育の比較研究
(小林哲也・江淵一公編著 九州大学出版会 1985)

ビジネスコミュニケーション特講13・14 (ジェンダー)

國信潤子

【授業の概要】

まず、ジェンダー概念についての説明する。これは社会文化的に形成された性別であり、産業領域においても日本社会では明確なジェンダー区分がある。また海外のジェンダー関係の動向についても基本文献を講読・紹介する。さらに英語・日本語資料により、雇用機会均等関連の国連調査資料を検討する。

【授業計画】

資料・文献の講読、講義、各自の調査結果報告等によって授業を進める。各自の報告内容をレジメ作成し、発表する。その内容検討と質疑応答、討論を行う。また一部共同調査なども入れる。

各自の問題意識にそった資料講読をする。修士論文執筆にあたり、ジェンダー・センシティブな視点を反映できるように多面的にテーマ選択をする。

【評価方法】

受講態度、提出資料・レジメ・小論文・調査報告内容などの評価、討議貢献度、各種活動への参加度などを総合判断する。

ビジネスコミュニケーション特講15 (統計)

石橋善弘

【授業の概要】

コンピュータを用いた統計解析能力の育成を念頭において、統計学、推計学の基本的概念を講義し、統計と社会の関わりあいについて学ばせる。

【授業計画】

第1回 講義の目的と授業計画の提示

第2回～第11回 以下の項目について講義する。

1. 統計分析
2. 平均値、代表値、標準偏差
3. 相関係数
4. 回帰分析
5. 統計的推測

第12回 まとめ

いずれも講義とコンピュータを用いた実習を組み合わせる授業を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

ビジネスコミュニケーション特講16 (統計)

石橋善弘

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーション特講15で習得した統計学、推計学の基礎およびコンピュータを用いた統計解析能力を前提に、統計学、推計学の応用について講義する。コンピュータによる解析能力の向上をはかる。

【授業計画】

第1回 本講義の目的と授業計画の提示

第2回～11回 以下の項目について講義する

1. 重回帰分析
2. 因子分析
3. クラスター分析

第12回 まとめ

いずれも講義とコンピュータを使った実習をくみあわせて授業を行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション特講17 (経営情報論)

伊東俊彦

【授業の概要】

「組織の維持・発展にはコミュニケーションが不可欠」であると古今から多くの研究者が述べている。「経営情報論」は、極論すると組織コミュニケーションにおいて、さまざまな情報をいかに取り扱うかを命題のひとつとしている。また情報を取り扱うしくみをシステムの視点で捉え、経営における情報システムはいかにあるべきかを探求することももうひとつの大きな命題である。21世紀はIT（情報技術）の時代とも言われるが、そうした言葉に翻弄されるのではなく、経営に役立つITを活用した情報システムのあるべき姿を探求することが重要である。「情報システムありき」からスタートするのでなく、情報システムはあくまでも人間の活動を補完するツールに過ぎないことを認識し、組織における人間相互の活動と情報システムとの相互作用により、あるべき経営活動を探求することが本講義の目的である。

【授業計画】

1. 企業とはなにか
2. 経営とはなにか
3. 経営におけるコミュニケーションの重要性
4. 組織コミュニケーションと情報システム
5. 経営情報システムの変遷（1）
6. 経営情報システムの変遷（2）
7. ITの発展と新時代の経営情報システム（1）
8. ITの発展と新時代の経営情報システム（1）
9. まとめ

【評価方法】

毎回の授業への参画度とレポートにより評価する

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は適宜指示する。

ビジネスコミュニケーション特講 18 (経営情報論)

伊東俊彦

【授業の概要】

経営情報論 (17) において、企業経営における「あるべき情報システム」について基本知識を得た上で、当講義では企業の変革のプロセスを促進する情報システムについて考察する。現代の企業は、環境の変化に対応するのみでなく、環境に働きかけ、それを創造する力を求められている。そのような力を組織の中に作り上げるために、そしてたえず変わり続ける企業組織の中核として、経営情報システムが機能することが求められる。そのような経営情報システムのあるべき姿について探求することが当講義の目的である。

【授業計画】

1. 環境とはなにか
2. 変化とはなにか
3. 変わり続けることの意義
4. リストラと改善とBPR
5. 情報システムと企業革新の事例 (1)
6. 情報システムと企業革新の事例 (2)
7. 変わり続ける組織と経営情報システム (1)
8. 変わり続ける組織と経営情報システム (2)
9. まとめ

【評価方法】

毎回の授業への参画度とレポートにより評価する

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は適宜指示する。

ビジネスコミュニケーション特講 19 (国際ビジネス政策)

真田幸光

【授業の概要】

東アジアの経済状況を題材に研究、その上で日本企業のアジア戦略、日本国政府・地方自治体の国際経済外交戦略、地域経済活性化戦略について研究する。

【授業計画】

毎回、教員よりカレントなトピックスを上げて概要を講義、その上で講義内容に関わるディベートを行う。

【評価方法】

授業に於ける議論の内容及び提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

必要に応じて資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション特講 20 (国際ビジネス政策)

真田幸光

【授業の概要】

前期に研究した内容を基に、企業、日本国政府、地方自治体のいずれかを想定してアジア戦略、国際経済外交戦略、地域活性化戦略に関する各自の研究レポートを作成する。

【授業計画】

毎回、各学生の個別指導を行う。

【評価方法】

提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

ビジネスコミュニケーション演習 1 (金融システム)

藤井正志

【授業の概要】

エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の金融システムの問題点を研究する。

【授業計画】

第1～12回 エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を研究する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

ビジネスコミュニケーション演習2 (金融システム)

藤井正志

【授業の概要】

エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の金融システムの問題点を研究する。

【授業計画】

第1～12回 エクセルを使った経済・金融のデータ分析を通して日本の経済・金融の現状を把握し、金融システムの問題点を研究する。

【評価方法】

授業への積極的貢献および期末レポート等により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

ビジネスコミュニケーション演習3 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

【授業の概要】

コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種ケーススタディの論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読内容の発表と討議 (1)
- 第5講 テキスト講読内容の発表と討議 (2)
- 第6講 テキスト講読内容の発表と討議 (3)
- 第7講 テキスト講読内容の発表と討議 (4)
- 第8講 テキスト講読内容の発表と討議 (5)
- 第9講 テキスト講読内容の発表と討議 (6)
- 第10講 テキスト講読内容の発表と討議 (7)
- 第11講 テキスト講読内容の発表と討議 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション演習4 (ビジネスと情報倫理)

梅田敏文

【授業の概要】

コンピュータ倫理、情報倫理に関する各種ケーススタディの論文を講読し、その内容を分析する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 企業倫理の概要
- 第3講 情報倫理の概要
- 第4講 テキスト講読内容の発表と討議 (1)
- 第5講 テキスト講読内容の発表と討議 (2)
- 第6講 テキスト講読内容の発表と討議 (3)
- 第7講 テキスト講読内容の発表と討議 (4)
- 第8講 テキスト講読内容の発表と討議 (5)
- 第9講 テキスト講読内容の発表と討議 (6)
- 第10講 テキスト講読内容の発表と討議 (7)
- 第11講 テキスト講読内容の発表と討議 (8)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

レポートで評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

ビジネスコミュニケーション演習5 (ASEAN, NIESの投資環境)

森下允之

【授業の概要】

アセアン、NIES諸国は97年の通貨危機前まで「東アジアの奇跡」と称賛されるまで発達してきた。しかしながら、通貨危機および近年台頭著しい中国の影響を受け、従来成長を今後も維持できるか問題なしとしない。今後の発展のために必要な政策を探る。

【授業計画】

- アジア通貨危機後の経済回復状況
- 日米欧銀行からの資金流出入動向調査
- 金融セクター再生の現状
- 日系企業の動向
- アジアの産業構造の変化
- 中国の影響と自由貿易協定
- 以上を12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション演習6 (中東欧の投資環境)

森下允之

【授業の概要】

中東欧諸国の魅力は、EUに陸続きの中進国であり、EUへの輸出基地になりうることである。各国毎に、直接投資先としての優劣を分析するとともに、将来のEUへの加盟問題、統一通貨ユーロへの参画の展望を試みる。

【授業計画】

中東欧の企業進出先としての特色
各国毎の投資誘致方針と魅力
直接投資動向 (国別、業種別)
日系企業の進出状況
EUへの加盟の展望と課題
これらを12回の演習で調査・検証する。

【評価方法】

平常点

【テキスト】

シンクタンク、専門誌の記事を適時配布

ビジネスコミュニケーション演習8 (会計記号論)

杉本典之

【授業の概要】

この演習はビジネスコミュニケーション特講8と相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、企業会計制度の国際化が進展したという事実を具体的に理解するために必要な情報を収集し、分析し、その成果を修士論文としてまとめる、ということを学生自らに実践していただく。

【授業計画】

修士論文のテーマを明確化させ、論文作成のための具体的な作業を進展させる。各学生は順番に中間報告を何回かに分けて行い、討論を積み重ねて論文を完成させていく。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート、修士論文等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記3点の拙著をコピーして使用する場合もある。

- (1) 引当経理と繰延経理—その構造と機能— (同文館 1981年)
- (2) 会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近— (同文館 1991年)
- (3) キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題— (共著 東京経済情報出版 1995年)

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞 (日刊紙) の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション演習7 (会計記号論)

杉本典之

【授業の概要】

この演習はビジネスコミュニケーション特講7と相互補完関係にあり、学生自らが主体的・能動的に取り組む授業である。すなわち、複式簿記の論理が貫徹する情報システムとしての企業会計を多角的に考察するために必要な情報を収集し、分析し、そして修士論文のテーマを模索しかつ明確化する、ということを学生自らに実践していただく。

【授業計画】

各学生に各自の問題意識にもとづいた学習・研究の成果を発表してもらい、全員で討論する。このような授業をつうじて、問題発見能力、思考力、および表現力を向上させ、修士論文の基礎を固める。

【評価方法】

平常の報告、討論、レポート等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。下記3点の拙著をコピーして使用する場合もある。

- (1) 引当経理と繰延経理—その構造と機能— (同文館 1981年)
- (2) 会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近— (同文館 1991年)
- (3) キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題— (共著 東京経済情報出版 1995年)

【参考文献・資料】

企業会計に関する単行本や雑誌だけに限ることなく、経済問題を扱う週刊誌や新聞 (日刊紙) の経済面も、さらにはインターネットも活用して、各自積極的に情報収集してほしい。必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション演習9・10 (異文化コミュニケーション)

ジョリー-佐々木幸子

【Course Content】

日本国内の外資系の会社や、外国企業との取り引きにおいて必要となるコミュニケーションの知識、技術についての言語表現と非言語表現の両側面から、分析、考察するコースである。

【Schedule】

- | | |
|------|---|
| 第1週 | Course Orientation |
| 第2週 | Lesson 11
US and Japanese Business: A Case Study アメリカと日本のビジネス—実例 |
| 第3週 | Lesson 12
Marketing, Advertising, and Distribution マーケティング、広告、配送 |
| 第4週 | Lesson 13
Communication in the "Thumb Generation" 親指世代のコミュニケーション |
| 第5週 | Lesson 14
Women in the International Workplace 国際的な職場における女性 |
| 第6週 | Lesson 15
Changes in Employment Systems 雇用制度の変化 |
| 第7週 | Lesson 16
Establishing Trust in International Business 国際ビジネスにおける信頼の確立 |
| 第8週 | Lesson 17
International Business and the Internet 国際ビジネスとインターネット |
| 第9週 | Lesson 18
Business and the Law: Foreign Lawsuits ビジネスと法: 海外の訴訟 |
| 第10週 | Lesson 19
Questions about Globalization and Free Trade グローバル化と自由貿易の問題 |
| 第11週 | Lesson 20
What is Success in the Global Business World グローバルビジネスにおける成功とは何か |
| 第12週 | まとめ |
| 第13週 | 期末試験 |

【Assessment】

Oral Report/ Presentation, discussion への参加、出席率などを総合的に判断する。

【Textbooks】

1. *Global Understanding: Success in International Business* (異文化理解と国際ビジネス) (M. Shishido, Seibido, 2002)

【Reference】

欧米式ビジネスマナーをスマートに身につける本
(Ann Marie Sabath スリーエーネットワーク 2002)

ビジネスコミュニケーション演習 11・12 (異文化教育)

霜田一敏

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーションにおける教育学的な研究の可能性の追究を基底において、広く今日的なグローバルな視点から問題の発掘や課題解決を図る。その上で、各人の個別的な関心や問題意識に応じて、テーマ設定を行い、修士論文の完成にむけて論文執筆指導を行う。その際、参考文献、実践・調査報告書等の入手方法の紹介、研究方法の指導、論文の章節ごとの検討等、適宜修士論文作成に必要な指導を行う。

【授業計画】

履修生は関心のある内外の研究資料や論文を毎回レポートし、集団討議を行い、批判的な考察と論評を行う。その積み重ねのなかから論文作成の基礎的な技術を身につけさせる。

【評価方法】

レポートの発表と集団討議への参加度、論文作成と研究成果を総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション演習 13・14 (ジェンダー)

國信潤子

【授業の概要】

ジェンダー論、産業社会学の領域である。まず、各自のテーマを選び、それぞれの領域で国際的比較データを収集、考察する。特にジェンダー関係分析の論文、統計データなどを検討する。領域として、ビジネス環境、産業社会学におけるジェンダー問題、人種問題、移住労働者、雇用の平等などの和英資料を講読する。またジェンダーにかかわる理論書についても講読をし、議論する。異文化における雇用関係のジェンダー問題を中心に講ずる。

【授業計画】

資料・文献の講読、各自の報告等によって授業を進める。各自の報告内容についてレジュメを作成し発表する。その内容の検討と質疑応答、討論を行う。また一部共同調査などもいれる。修士論文にジェンダー・センシティブな視点を反映できるように多面的にテーマ選択をする。

【評価方法】

受講態度、講読能力、提出資料・レジュメ・小論文内容などの評価、討議貢献度などを総合判断する。

【テキスト】

随時資料配布

【参考文献・資料】

随時資料配布

ビジネスコミュニケーション演習 15 (統計)

石橋善弘

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーション特講15で習得した統計学、推計学の基本的概念を応用する能力を育成する。

【授業計画】

- 第1回 講義の目的と授業計画の提示
- 第2回～第11回 学生の研究テーマに関する統計学、推計学の問題を取り上げ、学生の発表をもとに、聴講生の間の討議の訓練を行う。
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポート等により総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション演習 16 (統計)

石橋善弘

【授業の概要】

ビジネスコミュニケーション特講16で習得した統計学、推計学の基本的概念を応用する能力を育成する。

【授業計画】

- 第1回 講義の目的と授業計画の提示
- 第2回～第11回 学生の研究テーマに関する統計学、推計学の問題を取り上げ、学生の発表をもとに、聴講生の間の討議の訓練を行う。
- 第12回 まとめ

【評価方法】

出席状況およびレポート等により総合的に評価する。

ビジネスコミュニケーション演習 17 (経営情報論)

伊東俊彦

【授業の概要】

当演習は「ビジネスコミュニケーション特講17・18 (経営情報論)」と補完関係にあり、ここでは特に自主的な探求・研究が望まれる。まず経営の分野と組織コミュニケーションを含む情報技術 (IT) および経営情報システムの分野の基本的な先行研究をひもとき、経営と情報システムにまたがる領域を総合的に研究する。その上で各人の問題意識に基づく研究ノートへとまとめていただくことを目的としている。電子メールによる研究の補完的な活動ができることが望まれる。

【授業計画】

<前半>

経営と情報システムに関する領域の先行研究を学習する。

<後半>

各自が取り組むテーマを選択し、その研究を進めると共に進捗発表をしながら議論を進める。

<最終>

論文の一手手前の研究ノートを作成し発表・提出する。

【評価方法】

ゼミへの貢献度および研究ノートの内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は各自の研究に応じて適宜指示する。

ビジネスコミュニケーション演習 18 (経営情報論)

伊東俊彦

【授業の概要】

経営情報論演習 (18) で完成した研究ノートを基にしてそれを発展させて研究する。研究内容としては経営情報論演習 (18) と同様に、経営の分野と組織コミュニケーションを含む情報技術 (IT) および経営情報システムの分野の中で各人の問題意識に基づくテーマを選択する。そのテーマに基づき研究を進め修士論文へとまとめていただくことを目的としている。電子メールによる研究の補完的な活動ができることが望まれる。

【授業計画】

<前半>

研究ノートの課題へと取り組み、その後修士論文のテーマを選択する。

<後半>

各自が取り組んだテーマの研究を進めると共に進捗発表をしながら議論を進める。

<最終>

修士論文を作成し、発表・提出する。

【評価方法】

ゼミへの貢献度および修士論文の内容により評価する。

【テキスト】

テキストは適宜指示する。

【参考文献・資料】

参考文献は各自の研究に応じて適宜指示する。

ビジネスコミュニケーション演習 19 (国際ビジネス政策)

真田幸光

【授業の概要】

担当教員が行っている各企業、日本国政府、地方自治体に対するアドバイスを事例研究として取り上げ、その内容について解説を行う。

【授業計画】

各授業は担当教員からの解説を受けた後、各回、その開設内容についてディベートを行う。

【評価方法】

各授業に於ける発言内容及び提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

ビジネスコミュニケーション演習 20 (国際ビジネス政策)

真田幸光

【授業の概要】

大学院一年次に作成したレポートを基礎に、個別日本企業、日本国政府、地方自治体を取り上げ、そのアジア戦略、国際経済外交戦略、地域経済活性化戦略の具体案を作成する。

【授業計画】

毎回授業で各学生毎に個別指導を行うこととする。

【評価方法】

提出物により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

比較文化論 1 (日米)

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

日米の言語、及びその他の文化的背景を学習することにより、歴史的な交流の経緯を diachronic なアプローチで考察し、又現在の日米の文化交流、その特質を synchronic なアプローチで分析することによって、将来の日米関係の構築を考えることを目的とするコースである。

1. 知り合う日本とアメリカ：違いと可能性
 - 1) 新時代の日本とアメリカ
 - 2) 社会的地位イメージはどう構成されているか
 - 3) 奉仕か相互扶助か
 - 4) 文化とことは
2. 絡み合う日本とアメリカ：その相互作用
 - 5) 日本とアメリカの新宗教現象
 - 6) 東西絵画に見る空間認識
 - 7) ラコタの道と神の道
 - 8) 日本とアメリカは相手に何を見ているか
3. 交わる日本とアメリカ：問題の所在
 - 9) マスメディアは誰と何を狙うのか
 - 10) 「歴史」の立ち去るとき
 - 11) いつ、私達が日本語を話すのだろうか
 - 12) テキストのほつれ

【授業計画】

上記の内容に沿って、予習してきた教材をディスカッション形式で進めていく。自己の経験や意見、感想などを積極的に発信していただきたい。

【評価方法】

授業中でのディスカッション能力、関連する文献の読解力、および期末に提出するレポート/プロジェクト等を総合的に評価判断する。

【テキスト】

見つけあう日本とアメリカ：異文化の新しい交差を求めて
(阿部珠理・御堂岡潔・渡邊信二 南雲堂、1995)

【参考文献・資料】

- (1) *American Cultural Patterns: A Cross-Cultural Perspective*
(Edward C. Stewart and Milton J. Bennett, Intercultural Press, 1991)
- (2) *Beneath the Surface. 日本文化比較論*
(Paul Stapleton. 伊藤明編注 成美堂 1997)

比較文化論 2 (日欧)

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

ヨーロッパ文化と日本文化の比較。

【授業計画】

本講義の主なテーマは、ヨーロッパ文化と日本文化の比較であり、特にイギリスを中心に異文化観点から見たヨーロッパ連合の主な諸国の文化と日本の文化の比較。

1. 社会生活
2. 家族生活
3. 結婚
4. 文化的アイデンティティ
5. 祭り
6. 教育制度
7. 人口と移民の問題
8. メディア
9. 余暇
10. 時間の利用
11. 政治制度

その他の活動の特徴、類似点と相違点に関する手に入られる最近のデータを利用して比較を行う。

【評価方法】

レポートによる評価する。

【テキスト】

使用せず。

生体情報心理学特殊研究 1

杉本助男

【授業の概要】

環境刺激が生体の行動に及ぼす効果について、その個人差と脳内情報処理過程との関連について考究する。また、脳損傷者にみられるディスコミュニケーションについて神経心理学的に考究する。

【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、文献発表と研究計画を個別に指導する。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書を提出させ、これについて綿密な検討を行った後に、予備実験を行い、その結果を報告させ、本実験への指導を行う。

3年次は、2年次の本実験を引き続き行い、その結果について中間発表を行い、学位論文に結実するよう指導する。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

生体情報心理学特殊研究 2

清水 遵

【授業の概要】

情動喚起刺激によって賦活される生体システム（神経系、内分泌系、免疫系）の反応メカニズムを電気生理学、精神内分泌学、精神神経免疫学的指標からとらえる方法論について検討する。また、情動体験とこれら生体システムの活性指標との関連性について条件発生的検索を行なうことで、情動が心身の健康に及ぼす影響についても考察する。

【授業計画】

1年次は、各自の研究テーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行なう。

2年次は、各自の研究テーマについて、具体的な研究計画書に基づき予備実験を行ない、学年末には中間発表が出来るよう研究指導を行なう。

3年次には、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点について、より研究を深化するよう指導し、学位論文に結実するよう指導する。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

社会心理学特殊研究 1

植村勝彦

【授業の概要】

コミュニティ心理学が扱う領域のトピックスについて、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心をもつテーマを設定し、深い学識と綿密な論理構成のもとに、その最先端を拓き追究することを可能にするよう、支援・助言すること。そして、最終的には学位審査に値する博士學位論文に結実するようすることを目標とする。

第1年次においては、修士論文およびその後の展開を含めて、学会誌に投稿する論文の作成指導を中心とする。

第2年次においては、各自が選んだ個別のテーマについて、研究方法および文献レビューなどについて指導を行い、加えて、新たな研究を調査として実施させ、学年末には中間発表ができるよう、研究指導を行う。

第3年次においては、第2年次に実施した調査をまとめ、学会誌に投稿するための支援を行うとともに、これらの論文を含めて、博士學位審査論文として提出するに必要な事柄の指導を行う。

また、他者を指導するという経験が、自己の研究を高めるうえで有効であることを確認させる目的で、博士課程学生には研究指導として、学部学生の卒論指導にも参加する。

【授業計画】

特には定めない。

【評価方法】

1年間の研究活動を総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。

臨床心理学特殊研究 1

江口昇勇

【授業の概要】

心理療法の本質的機能を、クライアントに内在する自己治癒能力の活性化にあるとし、そこに至る方法の重要な方法論のひとつとして筆者は「夢分析」を位置づけている。さらに、夢に登場する自己治癒のためのシンボルをクライアントとサイコセラピストが二人して、共同で育て上げることに専念することが心理療法であると理解している。筆者はこうした夢やイメージの中に登場するシンボルを、さらに徹底して味わうこと、体験し尽くすことの重要性に注目している。それはユングが開発したアクティブ・イマジネーション（能動的想像）と呼ぶものの一種であるが、筆者は球体の中でそのイマジネーションを味わう方法論を開発中で、筆者はそれを「球体アクティブ・イマジネーション体験」と名付けている。この方法論による基礎実験の積み重ねと、臨床場面での応用研究を進めたい。

夢分析や、イメージを扱った心理療法を概括し、そこでのシンボルの現れ方、そしてシンボルの扱い方を考究する。そして、「球体アクティブ・イマジネーション体験」の危険性の予知、安全な臨床適用の工夫、そして、その効果を明らかにしていくこととしたい。球体アクティブ・イマジネーション体験と同時進行で、バーンズの「シンボル・センタード描画法」によるシンボルの表現方法との相互比較も考究していきたい。

【授業計画】

内外の文献の収集と整理といった基礎的学習と、実験・臨床への適用実績を積み重ねていくことになる。参加者は各々の問題意識と照らし合わせて、相互の関連性を模索しながら、進めていくことになる。高度の専門性と臨床的実力を要求されるものとなる。

【評価方法】

授業への参加態度、討論への積極的関与の姿勢、発言の内容を成績評価の重要な視点とする。特にレポートは課さないが、その代わりに平常点を厳しく査定する。自分なりの意見のまとめ方、表現方法、内容の深さ、他の人の意見への対応など、細かく評価するつもりである。

【テキスト】

授業中にその都度、提示する。

異文化教育特殊研究 1

霜田一敏

【授業の概要】

3年間の大学での研究で博士論文が作成できるように個別指導を行う。
学生各自の3年間の研究計画に基づいた研究に対する指導

【授業計画】

第1年次においては、自分の研究の異文化コミ・異文化教育の全体のなかでの位置付けと意義を確認し、教育学の観点から明確にし、人間形成上の問題を考究する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法及び文献資料等について指導を行う。学期末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

【評価方法】

学位論文作成の進度に応じて評価を行い、論文審査に合格することを最終評価とする。

【テキスト】

学位論文作成上の各種文献

言語コミュニケーション特殊研究 1

松本青也

【授業の概要】

応用言語学（英語教育）

第二言語習得理論と日英対照言語学を中心に、最近の主な研究について考察すると共に、日本の外国語教育への研究成果の応用を検討する。

【授業計画】

いくつかのトピックについて、内外の研究成果に批判的考察を加えながら、独自の理論を構築する。

【評価方法】

発表内容と論文の評価。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特殊研究 2

山内啓介

【授業の概要】

日本語教育、日本語学の研究

経済と企業のグローバル化は日本語教育に新たな局面を見せている。いま、日本文化の理解と異文化の理解をもとに広い視野にたった、コミュニケーションを核とした日本語知識をもつ教師が求められるようになった。

新しい要請にこたえる日本語学、日本語教育文法学、日本語教育方法、日本語コミュニケーション、またマルチメディアを用いた教育と学習法について、それぞれの理論を構築し実践についての考察を行う。

【授業計画】

1年次では、日本語教育をめぐる状況についてとりあげ、日本語が必要とされる要因を分析する。あわせて、日本語による発想、日本語の文化がもたらすコミュニケーションの問題を議論し解決を得る。

2年次では、各自の選ぶテーマをもとに研究立場、研究手法を設定し、方法論、文献探索についての指導を行う。研究発表など、プレゼンテーションの機会を得て自らの論点を深化させる。

3年次では、自らの論考の関連テーマについて論を展開し、研究を進める。学位論文に結実するよう、指導を行う。

以上について個別指導する。また、受講生の希望を取り入れ、日本語教育の実践的教授方法の追求を行いたい。

【評価方法】

論文作成のための課題レポート、また議論の参加など、平常の態度。

【テキスト】

未定。

言語コミュニケーション特殊研究 3

TODOROVIC, Thomas

【授業の概要】

第1年次においては、さまざまな分野の翻訳において確かな意味を伝えるには、その言語の背景にある文化の知識と高度な翻訳技術が不可欠である。本義では主に英語と日本語の多様な文献を利用して、翻訳の理論と技術に関するさまざまな問題点を究明する。

第2年次においては、各自の選んだ個別のテーマについて、研究方法及び文献資料などについて指導を行い、学年末には中間発表が出来るよう、研究指導を行う。

第3年次においては、中間発表を踏まえ、更に研究方法の問題点及び改善すべき点について、より研究を深化するよう指導し、後期には学位論文予備審査が行えるようにする。予備審査の結果に基づき、学位審査に値する学位論文に結実するように更に指導を行う。

言語コミュニケーション特殊研究 4

ジョリー佐々木幸子

【授業の概要】

当コースは、博士課程後期において博士論文を執筆するにあたり、異文化コミュニケーション分野の広い専門知識を総括する目的を持つと同時に、個々の学生がその広範囲な分野において自身の焦点である論文テーマに絞るための指標を示す目的をも合い持つものである。

【授業計画】

- Part 1 : Foundations of Intercultural Communication
- Part 2 : Intercultural Communication Processes
- Part 3 : Intercultural Communication in Everyday Life
- Part 4 : Intercultural Communication in Applied Settings

【評価方法】

上記教材についての学生のオーラルレポート、関連論文読解、発表能力などを総合的に判断評価する。

【テキスト】

Experiencing Intercultural Communication: An Introduction Judith N. Martin and Thomas K. Nakayama. McGraw Hill 2001

言語コミュニケーション特殊研究 6

窪田守弘

【授業の概要】

日本人は、日常生活のさまざまな場面で複雑な表現活動をしているが、実はそれをあまり意識しないで行なっていることが多い。そこで、日本人が場面に応じて使い分けられる一種独特の表現やジェスチャーについて、心理学、社会学、コミュニケーションなどの関連する学問分野の成果を取り入れながら、詳しく検証していく。

【授業計画】

日本人の言語活動が視覚的にもっともわかりやすく表現される媒体として映画やテレビなどが考えられる。そこで、代表的な日本映画やテレビドラマを厳選して、その会話の部分を中心に会話文の構造から、日本人の文法意識の実態について分析を行なう。そして、そのような分析がこれからの日本語教育の教授法として、実際に適用できる方法論となるか否かという可能性についても考えてみる。

【評価方法】

本講義の発表内容や参加態度、レポートなどの結果などで評価する。

【テキスト】

配布資料を使用する。

【参考文献・資料】

講義中に紹介する。

言語コミュニケーション特殊研究 5

馮 富榮

【授業の概要】

中国語教育及び日・中両言語の比較

【授業計画】

本講義では、日・中両言語について、主として統語論、語用論、語彙論という3つの側面から検討する。輪読という形で講義を進めていくが、先行研究を幅広く講読する。そしてディスカッションを交えながら先行研究に残っている問題点や日・中両言語のそれぞれの特徴、両言語を機能させている文化的な背景、そして両言語の相違点を生み出した歴史的な原因、思考様式の相違による原因などについても議論する。

本講義では、また日本の大学での中国語の教育についても検討する。具体的に言うと、今の日本の大学の中国語教育には、どのような問題点（教材、やカリキュラムの編成、そして教育の方法や教育目標の設定など）があるか、そういった問題点を解決するにはどうすればよいか、今後の日本の大学の中国語の教育をどう展開させるべきか、そして日本人を対象とする中国語教育の特色はどこにあるかを検討していきたい。

要するに、本講義は中国語の教育者と日・中両言語の比較に関する研究者を養成することを目的としている。

【評価方法】

受講態度やレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

【教材】

論文のコピーなど使用する。

ビジネスコミュニケーション特殊研究 1

石橋善弘

【授業の概要】

情報数学、システム論、統計学に深い分野のなかから、学生が興味をもつテーマを選び、研究指導を行う。

【授業計画】

- テーマに関係のある著書の講読
- テーマに関係のある論文の紹介
- 研究の進展状況についての報告
- 研究成果についての検討、討議
- 研究成果の発表技術の習得

【評価方法】

日常の勉強態度および得られた研究成果によって評価する。

ビジネスコミュニケーション特殊研究2

杉本典之

【授業の概要】

企業会計がビジネス社会における国際的に共通の情報システムになり、会計制度の国際化が進んできたという歴史的事実と、その根底に貫徹する複式簿記の論理とに注目しつつ、企業会計の基本的構造と社会的機能とを記号論的に多角的に考察していただく。そして、そのような考察の成果を複数の学術論文にまとめ、それらの論文をさらに体系的に編集し直すことによって博士論文を完成させる、というように指導する。

【授業計画】

各年次共に、博士論文の制作に資するように授業を進める。

【評価方法】

平常の報告、討論、投稿論文等を総合して成績を評価する。

【テキスト】

特定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

ビジネスコミュニケーション特殊研究3

國信潤子

【授業の概要】

国内外のジェンダー関係についての社会学的統計資料などを基に、南北社会格差、特に開発途上国のジェンダー関係について実態を調査・研究する。また国内の雇用機会均等法、育児・介護休業法など最近の産業構造の変化とともに変容しているジェンダー関係についても資料講読を行う。

【授業計画】

まず、基礎資料として、国連関連資料、統計を考察する。次に国内外のNGO、NPOが持続可能な開発のための国際協力を行っている組織の活動実態について各種文献を検討する。

さらに、英語資料ではアジア地区における成人教育がどのようなニーズのもとに、内容、方法論としてどのような学習機会があるかなど事例研究も含める。講読、講義、個人リサーチ結果発表、自由討議などによって授業を進める。

【評価方法】

授業の履修態度、個別発表の質、期末レポートなどの総合評価である。

【テキスト】

随時、資料をプリントにより配布する。

【参考文献・資料】

なし

研究技法Ⅰ（データ解析）

太田浩司

【授業の概要】

この講義では調査によって収集されたデータをSPSSという統計パッケージを利用して解析する手法を紹介する。扱う統計手法は記述統計、ピアソン積率相関、T-検定、分散分析、重回帰分析を予定している。特にデータ分析の結果の読み方と解釈の仕方に焦点を置く。講義の詳しい内容は最初の授業で知らせる。

【授業計画】

学期の最初に提示をする。

【評価方法】

出席、学期末データ分析ペーパー。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

パソコンによるデータ解析（新村秀一著 講談社ブルーバックス）

研究技法Ⅱ（統計分析）

立石 寛

【授業の概要】

統計学の基礎について講義します。

【授業計画】

1. 統計の基礎
2. 確率
3. 条件付確率と事象の独立
4. 確率変数と期待値
5. 標本分布
6. 推定
7. 検定

【評価方法】

期末試験と出席状況で評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

適宜指示します。

研究技法Ⅲ（質問紙調査法）

榊原國城

【授業の概要】

この授業の主題は、現代社会における様々な問題に対し、科学的な視点に基づいて対処できる基本的な技能を身につけることである。具体的には、担当者が長年学んできた心理学において用いられてきた、科学的資料の収集法としての質問紙調査法の体得である。すなわち、受講学生自身が、質問紙調査法の基礎的な考え方を理解し、その実際を段階的に体験することにより、科学的方法の適用能力を身につけることをねらいとしている。

多くの人々に共通する問題の発見や解決を図る際に、それらの人々に共通する行動の仕方や考え方、興味・関心の方向などを的確にとらえることが必要になる。研究方法としての質問紙調査法の意義はまさにこの点にある。すなわち、多人数を対象として同一質問に対する回答を求め、それらを分類し、分析する手法が質問紙調査法である。

授業内容は、受講学生の設定したテーマに基づく調査票の作成・調査実施・回収・集計・分析・報告書作成までの全過程の演習を中心とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 調査計画立案
3. 調査票作成と調査実施
4. 調査結果の分析
5. 報告書の作成

【評価方法】

調査報告書の内容によって評価する。なお、演習への参加態度の逐次評価をも行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

研究技法Ⅳ（経済分析）

立石 寛

【授業の概要】

経済学の基礎について講義します。

【授業計画】

1. 消費者の行動
2. 生産者の行動
3. を含む一般均衡
4. 独占と寡占
5. 市場制度と最適資源配分
6. 国民所得
7. 所得決定と貨幣市場
8. 国際経済
9. 経済成長
10. 景気循環

【評価方法】

期末試験および出席状況により評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

適宜指示します。

地域社会特別講義Ⅰ（地域問題論）

谷口 茂

【授業の概要】

(1) 地域社会が直面する諸問題－福祉・環境・産業・街づくりなど－について、各人がテーマを選び、それぞれ研究・発表を行う。これについて、全員で質疑・討論を行い、最後にこれをレポートにまとめる。(2) 1つのテーマに全員で取り組み、互いに切磋琢磨することにより、各自の研究能力を高める。これまで「年金、医療、ごみ」問題に挑戦してきたが、課題の分析・政策の提言という手法を重視したい。

【授業計画】

講義と並行して、受講生が地域社会が直面する諸問題について研究発表を行い、全員で討論する方法を採用する。

【評価方法】

出席、討論への参加、研究発表などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。資料を適宜、配布する。

地域社会特別講義Ⅱ（地域交通論）

辻 紘良

【授業の概要】

交通は地域の産業活動とともに地域の生産活動を支える主要な基盤をなしている。講義では地域交通体に焦点を当て、その実態、問題の所在を明らかにし、将来の地域作りに向けてその整備の在り方を展望する。

【授業計画】

地域交通の現状と実態分析を基礎とし、情報化社会における地域作りに向け、地域交通はどのような視点で整備を進めていくとよいかを議論する。

1. 地域交通体系の現状と課題
 - ・大都市圏交通、地域圏交通の交通の現状と課題
2. 大都市の地域交通体系
 - ・都市交通とハイモビリティネットワークの形成
3. 地方圏の交通体系
 - ・地方中核都市の交通機関活性化、地方都市の道路混雑解消

この他、交通運用計画（TDM）、交通の高度情報化（ITS）などから適宜テーマを選択し解説する。

講義と並行に最近の関連論文を読み解き地域交通システムの実例や実験例を相互に提示し理解を深める。

【評価方法】

論文読解力や発表内容、課題提出の結果を総合し成績を評価する。

【テキスト】

使用せず。プリント配布

【参考文献・資料】

自動車交通の地域分析（奥井正俊 大明堂）他

地域社会特別講義Ⅲ（地域開発論）

竹村 弘

【授業の概要】

従来の「地方開発」は、中央と地方の経済格差の是正を目的として、主として地方への産業開発・企業誘致により実施されてきたが、今日の新しい「地域開発」は、各地域それぞれが、知恵・金・人を自分たちで出し、誰にも頼らず、自律的に発展するような、自立した「地域づくり」を目的としている。

【授業計画】

講義主体であるが、院生各自の研究との兼ね合いにおいて、可能な限り課題研究と討議を行う。

1. 従来の「地方開発」が果たした歴史的役割を評価し、現在の「地域開発」の課題を検討する。「水俣病」等の公害問題は、高度経済成長期の地方開発の影であった。今日のゴミやダイオキシン等の環境問題は、暮しやすい豊かな地域を築く上で暗い影を落す。「自分達の地域は自分達で守れ」は歴史的教訓である。
2. 「過疎」が、集落の崩壊まで進んだ「末期過疎」や、地方都市の旧商店街に「新過疎」と呼ばれる空洞化が見られる中で、多くの地域住民が自ら手を携えて、「地域づくり運動」に立ち上っている。その代表的事例を研究する。
3. 従来のような中央の行政指導・補助金に依存する体制から脱却し、地域の自立を実現するためには、地方分権等の推進と共に、その受け皿となる地方行政や地域住民の意識改革、および、主体的な政策立案ならびに実行能力の涵養が必要である。

【評価方法】

討論参加度、報告内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて適宜使用する。

地域社会特別講義Ⅳ（地域文化論）

谷沢 明

【授業の概要】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマとした事例研究の講義をする。併せて、受講生によるプレゼンテーションも行なう。

【授業計画】

1. 北海道池田町：ワインによる地域づくり
2. 大分県大山村：「村おこし」の元祖
3. 長野県南木曾町：「町並み保存」の元祖・妻籠宿
4. 石川県金沢市：城下町の歴史を生かした景観形成
5. 山口県萩市：城下町の歴史を生かした景観形成
6. 北海道函館市：港町の歴史を生かした都市づくり
7. 長崎県長崎市：港町の歴史を生かした都市づくり
8. 北海道小樽市：小樽運河保存問題と都市景観保全
9. 福岡県柳川市：掘割を生かした環境形成
10. 滋賀県近江八幡市：八幡堀の保全とまちづくり
11. 岐阜県八幡町：水の恵みを生かした地域づくり
12. 受講生による課題の成果発表

【評価方法】

「風土・歴史・文化を生かした地域づくり」をテーマに、夫々が該当地を1箇所取材して事例研究を行い、その成果をパワーポイントで作成し、発表・提出する。成果物は、CDRで提出のこと。評価は成果物CDRとその発表、及び平生の授業態度で行なう。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。
まちづくりの実践（田村明 著 岩波新書）
町並みまちづくり物語（西村幸夫 著 古今書局）
歴史的文化的遺産の保存・活用とまちづくり（大河直躬編 学芸出版社）
都市の歴史とまちづくり（大河直躬編 学芸出版社）
新・町並み時代（全国町並み保存連盟 学芸出版社）
インターネット等を利用して、各自が予習・復習を行なうこと。

国際社会特別講義Ⅰ（国際社会発展論）

藤瀬浩司

【授業の概要】

20世紀の経済と社会の発展を、企業組織、国家機能及び世界経済の各側面から検討する。

1. 20世紀経済社会の段階と局面
2. 大型企業体の生成
3. 福祉国家への前進
4. 世界経済の構造

【授業計画】

講義形式であるが、質問や討議の時間を適宜とりたい。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

改訂新版 欧米経済史（藤瀬浩司著 放送大学教育振興会 2004）

国際社会特別講義Ⅲ（国際関係論）

清水 洋

【授業の概要】

アジア地域では、1960年代後半以降、韓国、台湾、香港、シンガポールの4カ国が輸出志向型政策を導入して急激な工業化を達成したが、1980年代後半にはASEAN 4（マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイ）が、さらに90年代には中国やベトナムなどが同様に台頭してきた。本講義では、これらの国の社会・経済発展において日本が果たした役割を多角的に考察する。

【授業計画】

講義を主体とするが、研究発表、討議も適宜行う。

- 1) アジアの経済発展と日本
- 2) ～3) アジアにおける日本人
- 4) ～7) 製造業のアジア進出
- 8) ～9) 百貨店の対アジア進出
- 10) ～12) 日本人観光客とアジアの観光産業
- 13) その他

【評価方法】

討議への参加度、レポートなどによる評価。

【テキスト】

第1回目の授業で指示する。

【参考文献・資料】

日本企業アジアへー国際社会学の冒険（園田茂人著 有斐閣）
日本企業のアジア展開（小林英夫著 日本経済評論社）
日本と東南アジア（吉川利治編著 東京書籍）
からゆきさんと経済進出ー世界経済のなかのシンガポール・日本関係史（清水洋・平川均共著 コモンズ 1998年）。

国際社会特別講義Ⅱ（国際経済システム論）

秦 忠夫

【授業の概要】

国際間の経済取引は経常取引（財・サービスの貿易取引）と資本取引に大別されるが、いずれの面でも取引の自由化が進み、世界経済は相互依存関係を深めている。しかし、発展段階の異なる多くの国からなる世界経済においては、取引の自由化には不断の政策努力が必要であり、一方で国際取引の進展に伴って発生する諸問題は市場メカニズムに委ねるだけでは解決できず、国際的な政策対応が不可欠である。戦後の世界経済がどのような制度的枠組みのなかで発展し、どのように問題解決への取組みがなされてきたかを検討し、将来に向けての課題について考える。

戦後の国際経済システムを担ってきた三つの主要国際機関、すなわち国際通貨基金、世銀グループおよび世界貿易機関（その前身としてのガット）が果たしてきた役割をレビューし、それぞれが抱える今日の課題を検討する形で主題テーマに迫る。

【授業計画】

講義が主体となるが質疑応答の時間を十分取り入れたい。積極的に議論に参加してもらいたい。

【評価方法】

授業への取組み姿勢と期末レポートで評価。

【テキスト】

プリントを配付。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別講義Ⅳ（比較教育文化論）

渡辺かよ子

【授業の概要】

世界における比較・国際教育学研究の最近の水準に即しながら、人間形成の比較・国際的接近を試みる。そのさい、文化史的背景と問題解決への試行的実践事例に注目する。

【授業計画】

参加者へレポートを課しながら講義を進めていく。

- 1) 教育の近代化と「新教育運動」の展開
- 2) 第二次世界大戦後の教育改革と脱学校論
- 3) 近代欧米教育文化と近代日本教育文化との関連と課題
- 4) 「発展途上国」の教育と文化：識字運動を中心に
- 5) 地域・学校・企業が連携した教育改革への取り組み

【評価方法】

平素のレポートを対象にする。

【テキスト】

資料配布。

【参考文献・資料】

世界の教育改革（佐藤三郎 東信堂）

国際社会特別講義V（比較政治論）

西尾林太郎

【授業の概要】

東アジアにおける国際体系の変化と中国、韓国、日本の近代史は深く連動しながら展開した。この点を考慮しつつ、政治的近代化論を軸として、中・韓・日3国の近代史と現代の政治システムについて比較分析することを、本講義の目的とする。また、その結果をふまえて、“アジア的国家”と西欧近代国家との比較も試みたい。

【授業計画】

- 1 「沖繩」からみた近代日本～プロローグに代えて～
- 2 伝統的東アジアの国際秩序
- 3 科挙官僚制と中国の近代化
- 4 両班（ヤンパン）と李氏朝鮮の近代化
- 5 徳川幕藩体制と日本の近代化
- 6 アメリカの発展と太平洋進出
- 7 “アジア的国家”とは何か？
- 8 イギリス、ドイツ、フランスにおける政治的近代化
- 9 stateとnation
- 10 1950年代～80年代における中国、韓国の政治と社会

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

特に定めない。随時、資料を配布する。

【参考文献・資料】

1. *Asian Power and Politics: The Cultural Dimensions of Authority* (Lucian W. Pye Harvard Univ. Press)
2. ステイトとネイション——近代国民国家と世界経済の政治経済学—— (佐々木隆生『経済学研究』VOL.47～50、北海道大学経済学部、1997～2000年、に連載)

メディアプロデュース特別講義II（情報科学論）

親松和浩

【授業の概要】

マルチメディアの原理と応用について“ユーザーの立場から”考察する。また、マルチメディアと基礎科学との関係についても検証し、夢の技術として基礎研究段階にある量子コンピュータ等の紹介も行う。

【授業計画】

- 1) マルチメディア情報とは
- 2) マルチメディア情報の処理技術
- 3) マルチメディア情報システムと通信技術
- 4) マルチメディアの応用と将来

【評価方法】

出席状況とレポート等で評価する。

【参考文献・資料】

岩波講座マルチメディア情報学（岩波書店）

メディアプロデュース特別講義I（メディア分析論）

石田米和

【授業の概要】

多様化するメディアを、コミュニケーション過程とイメージ・意識の形成・普及過程の視点から捉え直し、社会的影響力を強めつつあるメディアの位置づけ、メディアのあるべき姿およびメディア・リテラシー等について議論する。

主な内容は以下の通り。

- 1 メディアの動向と背景
- 2 メディアの機能と影響
- 3 映像化の推移と問題点
- 4 メディア戦略の実態とリアリティ
- 5 メディアと社会構想、他

【授業計画】

基本的な知識、方法論についての学習後、受講生のプレゼンテーションや議論等を通して学習していく。

【評価方法】

出席状況、発表等の受講態度、試験・レポートによる

【テキスト】

未定

メディアプロデュース特別講義III（レトリック批評論）

五島幸一

【授業の概要】

レトリック批評とメディア研究との関わりあいについて考察する。とくにメディアを媒介としたメッセージを分析することにより、レトリック批評の理論的枠組を明らかにし、そのメディア分析の有効性について論じる。

レトリック批評理論に関する論文を講読し、その理論的枠組を考察する。また、メッセージ分析に関する実践的研究について考察し、その特質について検討する。

【評価方法】

授業への参加度、および学期末に提出する研究論文にて評価する。

【テキスト】

別途指示する

メディアプロデュース特別講義Ⅳ(教育メディア論)

大西 誠

【授業の概要】

デジタルメディア社会をむかえ、メディアの教育性が注目されている。いわゆる教材・教具から映像をベースにした番組やインターネットまで幅広いメディアの教育利用が求められている。メディアの成り立ちや歴史的發展とともにメディアの教育利用について理論と実習を通じて明らかにする。

【授業計画】

近年、市民が番組を制作する機会が多くなっている。取材(ロケ)映像とスタジオ映像とは、それぞれどのような特徴があり、どのように作られているのか。また、それらを効果的に組み合わせて市民に資する番組を制作するには、どうしたら良いか。基本的なモデルを教育番組に求める。

本講では、教育メディアの歴史と理論を学ぶとともに、情報化社会におけるメディアのあり方や教育とのかかわりを、実際に放送された教育・教養番組の内容を分析し、グループ・ワークで番組を試作する。

- ・教育番組の制作過程
- ・「日本賞」教育番組国際コンクール
- ・映像制作技術(実習)
- ・インターネット交流
- など

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題と作品で評価する。

【テキスト】

未定

都市環境デザイン特別講義Ⅱ(建築保存再生論)

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋と日本を中心に、都市と建築の歴史的遺産について理解を深めるとともに、それらの保存・修復・復原や都市資産としての利活用の方法について論じる。

【授業計画】

授業は主に講義形式で進めるが、テーマによって担当者を決め、報告会を行うことがある。

- 1) 破壊との闘い
人類の蛮行と遺産保護への執念
- 2) 変りゆく保存の概念
文化遺産保存活動の歴史とユネスコの世界遺産条約
- 3) 開発・建設の時代から維持・再生の時代へ
建築におけるサステナビリティ
- 4) 文化財保存の論理
日本における文化財保護の歴史
- 5) 文化財保存の事例研究
日本・イタリア・トルコ・シリア etc.
- 6) 町並み保存の論理
日本における町並み保存の歴史
- 7) 町並み保存事例研究
ポーラ・妻籠・長浜・倉敷 etc.
- 8) 近代建築保存の論理
近代建築および近代化遺産の保存・再生の歴史
- 9) 近代建築保存・再生の技法
保存・再生の基本理念と具体的方法
- 10) 近代建築保存・再生の事例研究
神戸・横浜・大阪・京都 etc.

【評価方法】

授業や見学会への参加状況とレポート、課題発表の内容等によって決める。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

都市環境デザイン特別講義Ⅰ(居住環境管理論)

吉澤 晋

【授業の概要】

都市における居住の身体的、精神的健康への影響の把握を始めとして、都市環境の構成機構の解明、人間生活との係わり合い、住宅や機器類などのハードとの係わり合いの解明を通じて、計画、管理、改善のための方策を論じる。

1. 健康概念と居住環境
2. 都市居住環境と健康影響
3. 居住環境条件の構成機構
4. 建設と管理・居住の関連
5. 環境的責任の分担
6. 行政・教育・居住者・建設者の課題

【授業計画】

プリントを中心に講義を行う。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

未定。

都市環境デザイン特別講義Ⅲ(情報化建築論)

吉田邦彦

【授業の概要】

現在の都市・建築は、マルチメディア化とネットワーク化により著しく進展した情報化(高度情報化)によって、大きな変革が進みつつある。情報化の観点から、生活空間の変化の方向を探り、それらが今後の都市・建築のあり方およびそこでの生活にどのような影響を与えるかを論じる。

【授業計画】

下記のテキストを各自が読解し、ディスカッション形式で理解が深まるように講義を進める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・形式、討議への参加、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

- (1) シティ・オブ・ビットー情報革命は都市・建築をどうかえるかー
(ウィリアム・J・ミッチェル著 掛井秀一他訳 彰国社)
- (2) e-トピアー新しい都市創造の原理ー
(ウィリアム・J・ミッチェル著 渡辺俊訳 丸善株式会社)

都市環境デザイン特別講義Ⅳ(都市空間デザイン論)

日色真帆

【授業の概要】

場面のデザインという視点から、望ましい都市空間のデザインを、多様な社会、文化、芸術的文脈の中で実現してゆく方法を学ぶ。特に、生活の場面をデザインすることに焦点をあて、スペースブロックとイベントビクトグラムという手法を用いて、具体的な提案に結びつける。

【授業計画】

- ・場面のデザインという視点から、様々なデザイン分野の比較分析。
- ・スペースブロックによる空間表記。
- ・イベントビクトグラムによる行為や出来事の記号化。
- ・居住環境の様々なデザイン手法の学習。
- ・具体的な生活の場面についての分析とデザイン。

(講義と議論をふまえて、具体的な生活の場面について分析レポートとデザイン的な提案を作成しプレゼンテーションを行う。)

【評価方法】

分析レポートとプレゼンテーションによって評価する。

【テキスト】

特になし。

地域社会プロジェクトⅣa・b

石田好江

【授業の概要】

前期

少子化に長寿化が重なり年少人口は漸減、老年人口は急増しており、2016年には年少人口は老年人口の半分になるものと見込まれている。少子化や人口減少問題の原因や評価をめぐっては様々な議論がある。前期は、そうした原因、評価、影響等についての議論を整理し、それを踏まえて、マクロ・ミクロのそれぞれの視点から21世紀型の社会のあり方について考えてみたい。

後期

現在、地域コミュニティのもつ基礎集団としての役割や機能が改めて見直されてようとしている。そうした流れをふまえ、NPOや生活とビジネスを結ぶ広義のコミュニティ・ビジネスに注目し、そこにおけるコンセプト、マーケティング、働き方等について調査・研究し、そこから閉塞する地域を切り拓く方途を提言する。

【授業計画】

講義と討論の後、一定のテーマにもとづいた調査・分析を課し、レポートとしてまとめる。

【評価方法】

プレゼンテーションと課題レポートによって評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、適宜、資料を配布するとともに、参考文献についても授業の中で紹介する。

地域社会プロジェクトⅢa・b

谷沢明

【授業の概要】

テーマは「歴史的文化遺産を活用した地域づくり」及び「伝統的民家の保存・再生・活用」。

河辺泰宏教授担当の都市環境デザインプロジェクトⅣa・bと連携して実施する。

【授業計画】

「概要」に記したテーマに基づくフィールドワークを集中的に実施し、その成果のプレゼンテーションを行う。

学外教育として現地調査を実施する。調査地は未定であるが、大韓民国、北海道函館市、長崎県長崎市のいずれか一箇所を予定している。実費を各自負担のこと。詳細については、履修登録時に掲示する。

【評価方法】

プロジェクトへの参加の度合、及び成果発表等のプレゼンテーションにより評価。

【テキスト】

テキストは特に使用しないが、次の参考文献を使用する。

まちづくりの実践 (田村明 著 岩波新書)

町並みまちづくり物語 (西村幸夫 著 古今書店)

歴史的文化遺産の保存・活用とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)

都市の歴史とまちづくり (大河直躬編 学芸出版社)

新・町並み時代 (全国町並み保存連盟 学芸出版社)

国際社会プロジェクトⅠa・b

藤瀬浩司

【授業の概要】

工業化に関する理論を整理するとともに、これまでの歴史過程に現れた工業化の事例を取り上げ検討する。

1. 工業化の理論

- A. ロストウ (W.W.Rostow) とガーシェンクロン (Alexander Gerschenkron)
- B. 赤松要とヴァーノン (R.Vernon)
- C. フランク (G.Frank) とウォラーステイン (I.Wallerstein)
- D. これからの課題

2. 工業化の事例分析

- A. (1) イギリス産業革命
(2) 西ヨーロッパとUSA
(3) ロシア、イタリア、日本
- B. (1) 現代工業化の諸問題
(2) 社会主義工業化
(3) ラテンアメリカの工業化
(4) アジアの工業化

【授業計画】

レクチャーと参加者の報告・討論を組合せる。

【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

国際社会プロジェクトⅢa・b

清水 洋 秦 忠夫

【授業の概要】

Ⅲaでは、英文資料（新聞・雑誌記事、学術論文等）を用いて、アジア社会の諸問題を政治・経済・文化・教育などの視点から多面的に考察し、討議を通じて知識を深める。Ⅲbでは、国際資本が生み出す現代国際金融の問題点と解決策を、各種国際機関や海外の研究機関のレポート（英文）を参考資料として検討する。

【授業計画】

- 第1回～13回 アジア社会をテーマとした英文資料を和訳し、討議を行う。
第14回～26回 現代国際金融の問題点と解決策に関する英文資料を和訳し、討議を行う。

【評価方法】

授業への参加状況とレポートで評価する。

【テキスト】

適宜、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

メディアプロデュースプロジェクトⅠa

坂元 多

【授業の概要】

ことばだけでは表現できない思想やアイデアを映像作家は番組やアートの形式で表現してきた。今までのすぐれた映像表現の先駆者たちをとらえて、具体的な作品にそってその表現の形式や手法、考え方を学ぶ。

【授業計画】

映像や資料の提示解説の後、その受けとめ方についての討議をとおして理解を深めたい。

【評価方法】

各回の各自の受けとめ方や自主的研究の深め方を見て常時評価する。各回ショートレポートの提出を求めることがある。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュースプロジェクトⅠb

太田 浩司

【授業の概要】

本プロジェクトでは人間のメディア使用とその心理を主題として扱う。特に、その原因と効果についてコミュニケーションや社会心理という視点からアプローチをする。前半では人々がなぜ特定のメディアを使用するのか、また使用した結果どのような心理的影響があるのかを先行研究を通して知識を深め、後半には自ら作った理論的モデルを基にミニプロジェクトを行うことによりメディア使用と人間の心理の関係を探る。

【授業計画】

学期の最初の講義で提示する。

【評価方法】

出席、口頭発表、学期末プロジェクト

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

メディアと暴力（佐々木輝美著 劉草書房）

メディアプロデュースプロジェクトⅡa

大西 誠

【授業の概要】

映像メディアは、フィルム、ビデオ、デジタル画像といった収録媒体の特質を生かしつつニュース、ドキュメンタリー、ドラマ、フィクションなどの形式で、情報・メッセージを伝えている。しかし単に、表現されたものを表面的に捉えただけでは、メディアの本質が見えてこない。本講はメディア論の展開に基本をおきながら、各種メディアの現状について、討議を通じて分析・検討していく。

【授業計画】

19世紀以降のメディア史や理論の系譜に目を向けつつ、IT革命にふりまわされるメディア状況をアクトリアルに捉え、現代社会とメディアの関係を考察する。

映像メディアとデジタルに関連した課題の調査・分析を下記のキーワードと関連づけて行う。

- ・アウラの崩壊
- ・バーチャル・リアリティ
- ・メディアとしての身体
- ・メディア・コラボレーション・ホットとクールなど。

【評価方法】

授業への参加度、期末の課題で評価する。

【テキスト】

メディア論（マーシャル・マクルーハン）

メディアプロデュースプロジェクトⅡb

石田米和

【授業の概要】

大量に生産され流通する、画像を中心とした様々な形態の情報内容（コンテンツ）の多面的な分析を通して、主に以下の点を論議していきたい。

（1）観察可能な情報内容や社会的事象の、意味論的・記号論的・認知理論的分析の方法論・手法の検討と応用、（2）情報内容と表現方法、それらと社会的文化的文脈との関連性、（3）双方向性とネットワーク化による意識・感覚の共有、暗黙知の形成、（4）メディア文化のパラダイム、その他

【授業計画】

概要は以下の通りである。

- ・情報の表現と社会的認知
- ・社会的認知と社会的文化的文脈
- ・メディアのグローバル化とローカル化
- ・メディアのネットワーク化と情報共有
- ・その他

【評価方法】

- ・出席状況、受講態度
- ・レポート
- ・定期試験

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

未定。

メディアプロデュースプロジェクトⅢb

五島幸一

【授業の概要】

メディアから出てくる情報には受け手を説得しようとする戦略が組み込まれている。国内の数多くの例証を引きながら、表現レトリックを抽出し、その背後の送り手の意図を探り出し、表現形式と意図との関係を考察する。

新聞や雑誌などの活字メディア、テレビや映画などの映像メディア、またインターネットなどのニューメディアを対象にして、そこで表現される内容の特徴を実際に調べていく。

【授業計画】

問題設定とその解決策をグループによる検討を中心に進める。

【評価方法】

授業への参加度およびレポートにて評価する。

【テキスト】

別途指示する。

メディアプロデュースプロジェクトⅢa

親松和浩

【授業の概要】

情報メディアやロボットなどの先端技術の可能性に関して、受講者が選定する特定のテーマについて議論する。テーマにはシステムの設計/試作や、作品の試作も含める。

【授業計画】

受講者は各自の興味に従ってテーマを選定し、受講者による調査報告を中心に進める。過去にこのプロジェクトで扱ったテーマには、Webサイト作成例とその技術的課題、クレイアニメーションの試作、立体視の原理と応用などがある。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

都市環境デザインプロジェクトⅠa・b

日色真帆

【授業の概要】

都市環境をわかりやすく魅力あるものとする方策を、空間認知研究の成果をふまえて具体的に探る。名古屋の中の複雑な都市空間を対象とし、調査と分析を行い、さらにデザイン的な提案をまとめ、プレゼンテーションをまとめる。一連のプロセスを経験することで、都市環境の改善活動について具体的に学習する。

【授業計画】

- ・都市環境を対象とした空間認知についての講義。
 - ・複雑な都市空間についての事例収集。
 - ・都市空間のデザイン手法についての学習。
 - ・対象とする都市空間の調査と資料収集。
 - ・分析結果の中間発表と教員による講評。
 - ・環境改善についての提案の作成。
 - ・プレゼンテーション手法についての学習。
 - ・プレゼンテーションの作成。
 - ・最終講評会におけるプレゼンテーションと講評。
- ※対象とする都市空間は授業の中で発表する。

【評価方法】

提出された作品と、講評会におけるプレゼンテーションによって行う。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザインプロジェクトⅢa・b

太田 裕

【授業の概要】

都市環境デザインの切り口は多様であるが、その一つに安全の観点から都市を捉え、調査・診断し、都市の安全環境改善をデザインする研究分野がある。都市防災のシステム学ともいわれる分野である。当該授業はこの分野の基礎学力涵養を支援すべく、学習期間を通年として、前期―後期を一貫した形で学習内容を構成する。すなわち、前期は資料解析を含むシステム学的諸手法を幅広く学習し、後期に予定される課題研究の推進技法として体得することに主眼をおく。後期はモデル地域を具体的に選定し、現地調査の実施・資料解析を含む、体験的学習に主力をおく。対象モデルは世帯―近隣コミュニティー市町村という地域がもつ一連の構成単位毎に階層的に選定し、実地調査を計画・実施する。これによって地域・都市がもつ災害危険環境を計量し、安全環境改善を計ること、地域問題解決学の基礎体力を増強する。学習成果をレポートに結実する。

【授業計画】

前期	第1回	年間計画概説
	第2～4回	システム学通覧
	第5～8回	システム情報・資料調査法（仮想実習）
	第9～12回	システム情報・資料分析法（体験実習）
後期	第1回	後期計画概説
	第2～4回	災害別危険環境の通覧
	第5～7回	災害別危険環境の計量・解析法
	第8回	地域調査実施ガイダンス
	第9～12回	調査・解析の実施、レポート作成

【評価方法】

前期はシステム学的諸手法の事例解析（計算機処理）結果をレポートとして提出することを求める。後期は調査課題にもとづき、各自が実施した調査・分析の結果をレポートとして提出していただくこととなる。これに出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示し、必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示し、必要に応じて資料を配布する。

地域社会特別研究 M-Ⅱa・b

谷口 茂

【授業の概要】

地域社会が抱える諸問題―福祉、環境、まちづくりなどを取り上げ、その分析方法を教示するとともに、学生の研究に対して指導助言を行う。

【授業計画】

学生ひとりひとりの能力に応じた個別の研究指導を行い、優れた研究成果を生みだしたい。

【評価方法】

出席、研究への熱意、研究の成果などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

とくに使用しない。

都市環境デザインプロジェクトⅣa・b

河辺泰宏

【授業の概要】

文献講読やフィールドワーク等を通じて、歴史的建造物や伝統的町並みの保存と再生に関して体験的に学ぶことを目的とする。

（授業は谷澤明教授担当の「地域社会プロジェクトⅢ」と連携して行う。）

【授業計画】

- 1) 参考文献の輪読。
- 2) フィールドワークの実施とその成果発表。
- 3) 映像資料の視聴と討論。

フィールドワークにおいては、文献に記載された事例を訪ねたり、その他の事例を探して手分けして調査を行い、レポートを作成する。フィールドワークの対象は、授業の中で適宜相談して決めるが、妻籠、奈良井、熊川、舞鶴、金沢等をはじめ、場合によっては韓国など海外へ足を延ばすこともある。

【評価方法】

プロジェクトへの参加の度合い、およびレポートとその発表により評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

必要に応じて配布

地域社会特別研究 M-Ⅱa・b

辻 紘良

【授業の概要】

地域の開発計画や交通問題等の中から今日的な個別問題を取り上げ、その実態や課題を明らかにするとともに、将来の地域づくりの在り方について方策を提言し、その効果を分析評価する。

【授業計画】

（個別問題の例）

- (1) ネット通信を利用するカーシェアリング
インターネットにより簡易に不特定多数者間で対話型通信が可能なることを利用し、通勤・帰宅時に通信ネットワークを形成しカーシェアリングシステムを構築、運用する。このシステムの可能性について、名古屋市の代表的な地域を対象にシミュレーションモデルを構築し、分析を行い本システムの成立可能性評価を行う。
- (2) 福祉ネットによる身障者向け経路誘導
身障者向けに福祉ネットを構築し、最寄り施設等への経路誘導情報の提供を行う。このシステムの可能性について、代表的な地域を対象に研究室内ネットシステムを構築し、本システムの成立可能性を検討する。

研究の実施過程において分析方法や技法を教示するとともに、同時に学生の研究と論文作成に対する個別助言指導を行う。

前半（M-Ⅰa・b）は交通需要の実態調査やシステム設計が主、後半（M-Ⅱa・b）は具体地域を対象にモデルを作成し分析を行う。これに考察を加え修士論文にまとめる。

【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of 10th World Congress On Intelligent Transport Systems (ITS'03), 他

地域社会特別研究 M- II a・b

竹村 弘

【授業の概要】

わが国経済社会は、「平成の10年代不況」から「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続する中で、行財政改革・金融改革・少子高齢化・地球環境問題など歴史的な大変革に直面している。日本経済・地域開発を中心に諸課題を幅広く取り上げ、実証的に研究する。

【授業計画】

院生が主体的に作成した論文作成スケジュールを基に、研究進捗度に応じた助言と指導を行い、研究論文を完成させる。

【評価方法】

研究論文。

【テキスト】

必要に応じて個別に使用する。

地域社会特別研究 M- II a・b

谷沢 明

【授業の概要】

地域文化の継承に関わる諸問題を取りあげ、その調査分析手法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。フィールドワークを中心とした地域研究を志向し、既往研究を踏まえて独自の調査研究を目指す人を対象とする。

【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介する。

地域社会特別研究 M- II a・b

榊原 國城

【授業の概要】

この授業の主題は、学生自身の個人研究活動を通じて判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけ、研究能力を高めることにある。

受講学生は、担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用することによって実証していくという研究活動を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。発表者、およびコメントアは事前に指定しておく。

【評価方法】

参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会特別研究 M- II a・b

石田 好江

【授業の概要】

消費、家族、労働、地域福祉などライフスタイルに関するテーマを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、受講学生の研究と論文作成に対する個別的な指導を行う。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文により評価する。

【テキスト】

使用せず。

地域社会特別研究 M-Ⅱa・b

千葉善根

【授業の概要】

戦後、日本の食生活や食文化は急激な変化をした。食と人間との関わりを探りながら日本の伝統的な食文化、食の社会的・精神的役割、多様化した現代の食生活などについて研究する。

上記の研究について、その方法を教授するとともに、論文作成の助言を行う。

【授業計画】

各自のテーマに従い個別指導を行う。

【評価方法】

参加状況と研究の進展状況により評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

国際社会特別研究 M-Ⅱa・b

藤瀬浩司

【授業の概要】

世界経済の構造と発展：20世紀の世界経済の発展を主要テーマとして、研究方法を指導するとともに、学生の論文作成に対し助言を与える。

【授業計画】

各学生が論文作成の進捗状況及び問題点について報告し、教員が助言を与える。時間配当については、相談のうえ決定する。

【評価方法】

参加状況と個別研究の進み方で評価する。

【テキスト】

なし。

国際社会特別研究 M-Ⅱa・b

秦 忠夫

【授業の概要】

国際経済・金融問題

国際経済・金融問題を取り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

研究ならびに論文の進展具合いで評価。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別研究 M-Ⅱa・b

清水 洋

【授業の概要】

授業担当者の専門領域はアジア経済論、日本・アジア経済関係史、および国際労働移動論である。院生が選定した研究テーマを取り上げ、討議を通じて基礎理論の充実と進化をはかり、分析の方法を教示し、論文作成の指導をする。また、統計資料の読み方、英文資料の使い方、インターネットを通じての資料収集の方法、その他基礎的な研究技法を適宜教示する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文による評価。

【テキスト】

使用せず。

国際社会特別研究 M- II a・b

渡辺かよ子

【授業の概要】

教育に関する各自の修士論文の作成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

【授業計画】

1. 研究方法論
2. 研究テーマの重要性と先行研究の検討
3. 論文の構想と構成
4. 原稿執筆と内容検討

【評価方法】

中間報告と論文。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

国際社会特別研究 M- II a・b

西尾林太郎

【授業の概要】

修士論文作成の指導を行う。各自のテーマに従って、文献・資料講読とレポート発表を毎週交互に実施する。前期は講読、後期はレポートにそれぞれウェイトを置く。

【授業計画】

- 前期
- a 修士論文のテーマに関する文献リストの作成
 - b 主要な先行業績に関するチェック
 - c カード作成ならびに整理
 - d テーマに関するデータベースの作成とそのチェック
- 後期
- a 論文の構成チェック
 - b 各章ごとに逐一レポート
 - c 修士論文の全体チェック
 - d 脚注チェック

【評価方法】

出席状況とレポートの内容による。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

メディアプロデュース特別研究 M- II a・b

坂元 多

【授業の概要】

テレビ、映画など映像メディアを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行ない、論文作成又は研究成果の結果を指導する。

一つの映像メディアからどのような研究テーマが抽出できるか、さまざまなケースを例示し研究の分野、方向をさぐる。

【授業計画】

キーとなる先行の論文の読み合わせをベースに質疑など、討議法を加えた進め方をとりたい。

【評価方法】

レポート提出によって評価

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M- II a・b

親松和浩

【授業の概要】

情報メディア技術の可能性を探究する。特に、携帯端末やパソコンのネットワーク利用に重点を置く。研究方法の教示と助言を行い、研究論文作成の指導を行う。研究テーマにはシステム設計/試作を行うものも含める。

【授業計画】

テーマごとの個別指導を行う。学部学生との関係も考慮に入れ、研究の進展の度合いに応じて各種学会での成果発表も視野に入れる。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース特別研究 M-Ⅱa・b

五島幸一

【授業の概要】

メディアを媒介としたメッセージをレトリック批評の観点から取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的助言をおこない、論文作成を指導する。

【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

とくになし。

メディアプロデュース特別研究 M-Ⅱa・b

大西 誠

【授業の概要】

M-Ⅰa・bと同様に、メディアの役割・機能に関する理論、受容理論などを研究するとともに、現代社会におけるメディアの問題点を明らかにする。課題に対し、分析的、批判的なアプローチを試みることにより、具体的な研究目的に沿った研究を実践する。

【授業計画】

個別指導により、各自の研究計画を実現する。前期は、スケジュールと研究方法を明らかにし、内容の詳細を確定する。後期は、成果物の作成に当たる。

【評価方法】

研究論文または制作で総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M-Ⅱa・b

太田浩司

【授業の概要】

特別研究Ⅰa、bを基礎とし研究論文を作成する。前期は論文のプロポーザル、後期にはデータの分析と書き上げをする。

【授業計画】

詳しい授業予定は学期の最初に説明する。

【評価方法】

論文プロポーザルと論文

【テキスト】

未定

メディアプロデュース特別研究 M-Ⅱa・b

石田米和

【授業の概要】

メディアのグローバル化を念頭に置き、認知科学および比較文化論等の視点から、特に映像メディアのコンテンツの普遍性等について、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

概要は以下の通りである。

- ・コンテンツに係わる諸問題の抽出
- ・表現方法と社会的認知－普遍性・個性と認知
- ・社会的認知と社会的文化的文脈－認知ギャップの要因
- ・メディアのグローバル化と情報内容・表現方法－表現の自由とルール
- ・その他

【評価方法】

- ・出席状況、受講態度
- ・レポート
- ・定期試験

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

未定。

都市環境デザイン特別研究 M- II a・b

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋建築の歴史と歴史的建造物の保存と再生を柱として、文献講読を中心に授業を進める。

授業は、参加者の興味と担当者の専門性を考慮して、半期ごとに異なった文献を選びながら進める予定である。また、本演習は修士論文の研究指導を兼ねているので、資料収集の方法や論文の読み方、書き方にも重点を置く。

【授業計画】

- 1) 西洋建築史および歴史的建造物の保存と再生に関する論文や書籍を持ち寄り、その中から適切な主題をあつかったものを選び、読み合わせる。
- 2) 読み合わせには、分担を決めてあらかじめ資料を用意し、理解の助けとする。
- 3) 論文のまとめ方を指導する。

【評価方法】

参加の状況によって判断する。

【テキスト】

未定。必要に応じて選択し、必要な資料は配付する。

都市環境デザイン特別研究 M- II a・b

吉田邦彦

【授業の概要】

高度情報社会における都市・建築のあり方、建築設計の方法に関する諸問題の解明、あるいは問題解決のための方法の提案を主要テーマとする。

上記テーマをもとにして、今日の都市・建築の設計および計画におけるさまざまな問題を取り上げて、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別な助言を行い、論文作成または研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による修士論文の進行にあわせて、その折々での調査・検討の結果について共同で議論し、指導する。

調査・検討の実施とその考察、論文としての構成等についても議論し、論文の完成を目指す。

【評価方法】

提出された論文の内容、形式の水準と、学生の授業中での議論に対する積極性によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

都市環境デザイン特別研究 M- II a・b

日色真帆

【授業の概要】

建築や都市空間のデザインに関連して、それぞれのテーマについて論文を作成するための指導をする。

【授業計画】

個別指導。

【評価方法】

論文による評価。

【テキスト】

特になし。

都市環境デザイン特別研究 M- II a・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

都市環境デザイン特別研究M- Iと同じ。原則として研究科課程2年間継続して行う。

1年次に設定し、資料を収集し、考察を行った、題材とする事象をもとにその建築論的な解釈を行い、論文としてまとめる。

【授業計画】

個別に論文の進捗にあわせた指導を行い、前後期継続して、修士論文として纏め上げるための助言を与える。

【評価方法】

論文の内容で評価する。

【テキスト】

適宜テーマの進捗に沿って参考文献を提示する。

都市環境デザイン特別研究 M- II a・b

仁科浩二郎

【授業の概要】

当年度は、環境アセスメントに就いて考察を進める。現在、さまざまな開発計画に関連してアセスメントが行われているが、その実施例を参考に、この社会的作業のあるべき形態を探る。すなわち現在の大型開発計画に関連した環境評価が、有効に機能しているか、という反省から試みる検討である。

【授業計画】

年間の予定を冒頭に確認したあと、大型プロジェクトにおけるアセスメント評価書の公告、縦覧など、アセスメント制度の実務を理解し、本来の意図が活かされているかを検討する。

【評価方法】

各学期末での積み上げとまとめて評価する。

【テキスト】

必要資料は適宜、学生が入手するよう、指導側が指示する。

【参考文献・資料】

前項に同じ。

都市環境デザイン特別研究 M- II a・b

太田 裕

【授業の概要】

「異常自然現象と人間社会の共生」を大枠とする領域で研究課題の選定を行い、事例研究の推進を計る。モデル地区としては近郊の都市を選び、現地（実態、資料）調査を中心におく。その中で、問題発見—解決—報告に至る一連の研究技法を体得する。したがって、授業形態は必然セミナー形式となり、受講者が率先かつ自力で課題達成に努めることとなる。

【授業計画】

前期

1. 基礎知見学習
2. 既往研究の体系的把握
3. 課題の予備的実施

後期

1. 課題解決実行プログラムの作成
2. 現地・実（資料）調査の実施
3. レポートの作成

【テキスト】

特になし。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

（注）都市環境デザイン特別研究M- I a、bとの併行学習は許容するが、その場合は「研究課題」を大きく変えたものとする。

海外実地研修特論

秦 忠夫 西尾林太郎 清水 洋

【授業の概要】

今年度は、「躍進する中国経済と日本」をテーマに、現地教育機関、日本の公的機関の現地オフィス、進出日系企業などを訪れて聴き取り調査・資料収集を行い、中国の経済発展の現状と問題点、日本経済との共存の道などの具体的なテーマについて研究する。経済面に重点を置くが、参加者の関心に応じて教育・文化・社会などのテーマも取り入れる方針。

【授業計画】

- (1) 事前研修：8月以降、学内で数回の事前研修を行う（日時は未定）
- (2) 現地研修：9月に約1週間、北京と上海を訪れる予定（日程と訪問先は未定）
- (3) 事後研修：帰国後に研修報告会を実施する。

【評価方法】

事前研修での発表、現地研修での活動状況、帰国後の報告・レポートで総合的に評価する。

【テキスト】

事前研修で示す。

【参考文献・資料】

事前研修で示す。

主題講義II

垂井洋蔵 日色真帆

【授業の概要】

建築のデザインの前提として、我々は制作者として、現代という時間と空間、さらに建築の作り出す場所としての都市をどうとらえるのか、そして、作ることの意味について自らの立場を表明することができなければならない。建築の制作にかかわるさまざまなキーワードをもとに、建築とそれをとりまく事象との関連を、建築分野以外の制作にかかわる視点も参考にしながら考察する。

【授業計画】

数人の講師による集中講義の形式をとる。講義の前提となる、問題の提示、学生による発表の後、さまざまな分野の講師による講義を行い、最終的な討論と総括を行う。

詳細なテーマは別途決定次第発表する。

【評価方法】

研究発表とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

講義の初めに紹介する。

【授業の概要】

第2次世界大戦による日本の孤立から、敗戦によるアメリカ軍の日本占領政策としての日本教育の民主化の導入が、日本経済の発展にどのような影響を与えたかを考察するとともに、世界の経済大国となった日本の国際理解教育の現状を分析し、今後の望ましいあり方を求めることを主眼とする。

【授業計画】

1. 日本の民主化政策としての教育改革
 - (1) 戦後の民主教育への革命的な移行とアメリカ教育使節団
 - (2) 男女共学、単線型教育制度の導入の教育的意義
 - (3) 高等教育機関の充実（新制大学）と日本の飛躍
 - (4) 教育内容の変化と近代化
2. 日本における国際理解教育の発展と現状
 - (1) 海外留学制度の変遷と拡充
ガリロア・エロア、フルブライト、各国政府招致留学生の果たした意義
在外研究、AFS、YFU、提携校、企業・私費留学等の現状と課題
 - (2) 中学・高校における国際理解教育の現状と課題
社会・地歴・公民科、英語科、学校行事、特別活動における国際理解教育
 - (3) 中学・高校における外国人教員の現状と課題
 - (4) 外国人留学生の受け入れの現状と課題

【評価方法】

発表及びレポートによる。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 300円

【参考文献・資料】

特に指定しないが参考文献は授業において指示する。

地域社会プロジェクト I a

千葉善根

【授業の概要】

温暖多湿で緑の資源に恵まれ、海に囲まれ、四季の区別が明確な日本は新鮮な食材が手近に入手でき他国にはみられない多様な食文化を形成した。

これらの中から伝統的な食品を選び、日本人の知恵や生活との関わり及び現代の食生活との比較研究をする。

【授業計画】

参加者の発表とディスカッションを中心にレクチャーを含めて行う。

【評価方法】

発表およびそのレポート、ディスカッションへの参加態度により評価する。

【テキスト】

追って指示する。

地域社会プロジェクト I b

榊原國城

【授業の概要】

組織心理学およびコミュニティ心理学の研究を中心に、隣接する領域の心理学的研究の諸論文を精読し、その意義や問題点等について討論を行う。その際、研究の基本的な枠組みや科学的研究方法についての解説を行い、受講者の理解を深める。また、後半ではテーマごとに受講者に課題を与え、発表討議を行う。受講者は、積極的かつ主体的に討論に参加してほしい。論文の選択は当初担当者が行うが、演習を進めていく過程において、受講者の関心、理解度に応じて柔軟に変更を加えていきたい。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 論文講読
3. 発表討議

【評価方法】

演習中の課題へのレポート内容およびプレゼンテーションのすべてを包括的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会プロジェクト II a・b

竹村 弘 辻 紘良

【授業の概要】

21世紀の情報化、国際化および環境・生活者優先の時代に向けて、それぞれの地域特性に則した地域づくりおよび地域交通のビジョンを提案し可能性を研究する。

【授業計画】

〈II a: 竹村 弘教授〉「経済計画」「国土計画」「地域計画」等は、国づくり、地域づくり構想等の基本である。従来の諸計画とその実績、および今後のわが国経済社会の展望を研究する。

(1) 戦後から今日に至るまでの「経済計画」等の推移と、実際の経済社会変遷を概観する。

(2) その上で、21世紀日本経済社会のビジョンと課題について討議する。

〈II b: 辻 紘良教授〉地域の交通実態を分析し、その特徴と問題点を抽出するとともに、その地域に相応しい新しい交通システムを提案し実証的にその可能性と効果を考察する。

(1) 地域の街区構造の成り立ちと交通流動との関連について実態分析を加え、問題点と課題を把握する。

(2) 交通施設整備の現況を把握するとともに、今後の整備の在り方を考察する。

(3) 上記問題点を解決するために自動車の高度情報化技術 (ITS) を活用した新しいシステムを提案するとともに導入の可能性を実証的に研究する。

【評価方法】

発表内容や課題の提出状況を総合し成績を評価する。

【参考文献・資料】

ITS インテリジェント交通システム (交通工学研究会編 丸善 p236)

"Proceedings of the World Congress on Intelligent Transport Systems '03"

国際社会プロジェクト I a・b

西尾林太郎

【授業の概要】

テーマ： 外国人の見た近代日本とその実像

外国人による著名な日本の紀行文や歴史論および日本社会論を取り上げ、近代および現代における日本社会の問題点をさぐる。

【授業計画】

1. 日本人論の系譜
2. 外国人による代表的な紀行文、歴史論の紹介
3. 映画、雑誌における日本と日本人 (ゼミ形式による)
4. いくつかの資料購読

【評価方法】

レポートと出席状況による

【テキスト】

特に定めない。適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

国際社会プロジェクトII a

渡辺かよ子

【授業の概要】

教育近代化の過程とその帰結としての今日の教育問題について、世界教育史上の人物の実践と思想の軌跡を手がかりに考察していく。彼らの思想がいかなるものであり、それがいかに今日の教育実践に繋がっているのかを探っていききたい。

【授業計画】

1. コメニウス 「大教授学」
2. ロック 「教育論」
3. ルソー 「エミール」
4. ベスタロッチー 「隠者の夕暮」
5. デューイ 「学校と社会」「民主主義と教育」

【評価方法】

出席状況と平素のレポートによる。

【テキスト】

資料配布。

【参考文献・資料】

西洋教育史叙説（江藤恭二 福村出版）

国際社会プロジェクトII b

西尾林太郎

【授業の概要】

Max Weberの著作（日本語訳のもの）やウェーバーの学説に関する著作物を丁寧に輪読する。続いて日本人研究者による国家論に関する著作を味読しつつ、ウェーバーへの理解を深めたい。政治文化、エートス、リーダーシップ、官僚制、宗教、経済、ナショナリズム等をキー・ワードとしつつ、アジア社会や現代の日本社会についての理解を深め、比較史的視点の構築を目指すと共に、社会科学の専門書にも習熟したい。

【授業計画】

- 1 Max Weber, 丸山真男, 大塚久雄について
 - 2～8 M. ウェーバー『社会と経済』の一節（特にカリスマ、官僚制、権力に関する部分）、大塚久雄によるウェーバーに関する著作を輪読
 - 9～12 近代国家論に関する論文を輪読
 - 13 まとめとディスカッション
- 広く現代社会、アジア社会および現代国家の分析をめぐるフリーディスカッションを実施

【評価方法】

出席状況および平常点による。輪読の際、各自の担当部分について簡単なレジュメを作成してもらう。

【テキスト】

授業中にその都度指示する。

【参考文献・資料】

授業中にその都度指示する。

都市環境デザインプロジェクトII a・b

吉田邦彦 仁科浩二郎

【授業の概要】

都市・建築における具体的な生活空間、例えば住宅やオフィスを取り上げ、サステナブル（持続可能）な設計・建設・運用の可能性について調査・検討する。建築の企画から設計、建設、運用、維持保全に至る一連のライフサイクルにおいて、ライフスタイルの変化を含めて、環境型社会の建築を形成していくための具体的な方策を探る。（吉田）

もう一つの観点は、現代都市の成立が膨大なエネルギー供給に支えられていることである。熱及び電力供給が市街のビルディング単位で行われる一方、個々の家庭は冷暖房、照明、熱源のために電力・都市ガスの供給を受けている。そのシステムは、社会基盤として整備され、便利で無意識な消費形態を実現した。これは環境・資源の観点から、持続可能であろうか。一家庭の消費・廃棄形態が世界的課題につながる現在を意識しながら、定量的にこの問題を探る。（仁科）

【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による調査・検討の結果について討議し、新しい提案を考える。

【評価方法】

学生の授業に対する積極性とレポートの内容により評価する。

【テキスト】

なし。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

- (1) くらしと地球環境（犬飼英吉 丸善（株）2000年）
- (2) 放射線のABC（日本アイソトープ協会 1995年）

都市環境デザインプロジェクトVa・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

経済発展の中で、日本中の都市で画一化が進行した。自立した地方の時代の到来と、生産人口の減少が現実の問題となった今、都市間競争に勝ち残る為の個性化の必要性が叫ばれているが、多くの都市ではその方法を見出せないでいる。我々人間がなにかを「計画」しようとする「場所」には、そこに固有の形態（トポグラフィ）と意味（歴史的時間性と文化）が刻印されている。所謂「風景」や「風土」という言葉で表されるものであろう。現代の都市施設計画における手法が、こうしたその、そこに根ざした「場所性」から目をそらした、抽象的普遍的な形態操作術に拠ってきた結果がこうした「景観」と呼ばれる類型的な都市の視覚的世界を作り出したといえる。

具体的な都市と場所を題材にして「場所論」という共通する切り口で、さまざまな問題にアプローチする。

【授業計画】

建築における、「空間論」「場所論」に関する諸理論の読解。建築家の語る制作論に対する批判的分析。

具体的都市の選定、問題点の把握とその都市の読解。
場所性を支えるものの発見と、それに基づく具体的な建築あるいは都市施設の提案、問題解決の手法の提案。

以上のプロセスを、全員参加による議論の深化に基づいて解答を見出しながら進める。

【評価方法】

プロジェクトへの参加と、問題理解の深度を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。参考文献を適宜紹介する。

地域社会特別研究 M- I a・b

谷口 茂

【授業の概要】

産業・企業と地域社会との共存・共生という問題を取り上げ、その分析方法や技法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。

【授業計画】

学生ひとりひとりの能力に応じた個別的研究指導を行い、その成果を段階的に積み上げていきたい。

【評価方法】

出席、研究への熱意、研究の成果などにもとづき、総合的に評価する。

【テキスト】

とくに使用しない。

地域社会特別研究 M- I a・b

辻 紘良

【授業の概要】

地域の開発計画や交通問題等の中から今日的な個別問題を取り上げ、その実態や課題を明らかにするとともに、将来の地域づくりの在り方について方策を提言し、その効果を分析評価する。

【授業計画】

(個別問題の例)

(1) ネット通信を利用するカーシェアリング

インターネットにより簡易に不特定多数者間で対話型通信が可能なることを利用し、通勤・帰宅時に通信ネットワークを形成しカーシェアリングシステムを構築、運用する。このシステムの可能性について、名古屋市の代表的な地域を対象にシミュレーションモデルを構築し、分析を行い本システムの成立可能性評価を行う。

(2) 福祉ネットによる身障者向け経路誘導

身障者向けに福祉ネットを構築し、最寄り施設等への経路誘導情報の提供を行う。このシステムの可能性について、代表的な地域を対象に研究室内ネットシステムを構築し、本システムの成立可能性を検討する。

研究の実施過程において分析方法や技法を教示するとともに、同時に学生の研究と論文作成に対する個別助言指導を行う。

前半(M-I a・b)は交通需要の実態調査やシステム設計が主、後半(M-II a・b)は具体地域を対象にモデルを作成し分析を行う。これに考察を加え修士論文にまとめる。

【評価方法】

研究計画や研究推進状況ならびに論文の出来映えを総合し成績を評価する。

【テキスト】

テキスト使用せず。

【参考文献・資料】

Proceedings of 10th World Congress On Intelligent Transport Systems (ITS' 03), 他

地域社会特別研究 M- I a・b

竹村 弘

【授業の概要】

わが国経済社会は、「平成の10年代不況」から「2000年デフレ」へと未曾有の長期不況が継続する中で、行財政改革・金融改革・少子高齢化・地球環境問題など歴史的な大変革に直面している。日本経済・地域開発を中心に諸課題を幅広く取り上げ、実証的に研究する。

【授業計画】

院生が主体的に作成した論文作成スケジュールを基に、研究進捗度に応じた助言と指導を行う。

【評価方法】

研究への取り組み姿勢と研究の進捗度。

【テキスト】

必要に応じて個別に使用する。

地域社会特別研究 M- I a・b

谷沢 明

【授業の概要】

地域文化の継承に関わる諸問題を取りあげ、その調査分析手法を教示するとともに、学生の研究と論文作成に対する個別的助言指導を行う。フィールドワークを中心とした地域研究を志向し、既往研究を踏まえて独創的調査研究を目指す人を対象とする。

【授業計画】

学生が定めたテーマの調査研究と論文作成に対する個別的助言指導を中心とする。定期的に進捗状況の報告を行う機会をもつように努める。

【評価方法】

平生の調査研究への取り組みにより評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず。参考文献については調査研究の進捗状況に応じて、適宜紹介する。

地域社会特別研究 M- I a・b

榊原國城

【授業の概要】

この授業の主題は、学生自身の個人研究活動を通じて判断力・理解力・総合能力を涵養し、問題に対する客観的、科学的態度を身につけ、研究能力を高めることにある。

受講学生は、担当者の指導を受けながら、自己のテーマについて積極的に学び、問題を発見し、問題の解決に向け、これまでに身につけた科学的方法を適用することによって実証していくという研究活動を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

【授業計画】

毎回数名の発表者が、予め用意したレジュメに基づいて発表し、それらに対して他の参加者がコメントするという方式。発表者、およびコメント者は事前に指定しておく。

【評価方法】

参加態度および期末に提出される研究論文の内容によって評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

地域社会特別研究 M- I a・b

石田好江

【授業の概要】

消費、家族、労働、地域福祉などライフスタイルに関するテーマを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、受講学生の研究と論文作成に対する個別的な指導を行う。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文により評価する。

【テキスト】

使用せず。

地域社会特別研究 M- I a・b

千葉善根

【授業の概要】

戦後、日本の食生活や食文化は急激な変化をした。食と人間との関わりを探りながら日本の伝統的な食文化、食の社会的・精神的役割、多様化した現代の食生活などについて研究する。

上記の研究について、その方法を教授するとともに、論文作成の助言を行う。

【授業計画】

各自のテーマに従い個別指導を行う。

【評価方法】

参加状況と研究の進展状況により評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

国際社会特別研究 M- I a・b

藤瀬浩司

【授業の概要】

世界経済の構造と発展—20世紀の世界経済の発展を主要テーマとして、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成のための準備作業を指導する。

【授業計画】

各学生が自己テーマについて研究の進捗状況を適宜発表し、指導をうける。時間については相談のうえ決定する。

【評価方法】

参加状況と個別研究の進み方で評価する。

【テキスト】

なし。

国際社会特別研究 M- I a・b

秦 忠夫

【授業の概要】

国際経済・金融問題
国際経済・金融問題を取り上げ、研究の方法を教授するとともに、個々の学生の研究に対する助言を行い論文作成を指導する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

研究ならびに論文の進展具合で評価。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介。

国際社会特別研究 M- I a・b

清水 洋

【授業の概要】

授業担当者の専門領域はアジア経済論、日本・アジア経済関係史、および国際労働移動論である。院生が選定した研究テーマを取り上げ、討議を通じて基礎理論の充実と進化をはかり、分析の方法を教示し、論文作成の指導をする。また、統計資料の読み方、英文資料の使い方、インターネットを通じての資料収集の方法、その他基礎的な研究技法を適宜教示する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文による評価。

【テキスト】

使用せず。

国際社会特別研究 M- I a・b

渡辺かよ子

【授業の概要】

教育に関する各自の修士論文の作成に向けた指導を行う。各自の研究テーマに応じた研究方法論、基礎理論の概観、資料収集の方法などについて個別指導と発表討論を並行して行っていく。

【授業計画】

1. 研究方法論
2. 研究テーマの重要性と先行研究の検討
3. 論文の構想と構成
4. 原稿執筆と内容検討

【評価方法】

中間報告と論文。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

国際社会特別研究 M- I a・b

西尾林太郎

【授業の概要】

修士論文作成のための基本文献の講読と論文指導を行う。その文献は各自テーマによって異なるので、個別に選定するが、前期はできるだけ最大公約数的な基本文献を全員で読み、後期はグループ別又は個別に読んで行きたい。そして随時、修士論文の章または節にあたる部分あるいはそれらに関連するテーマについてレポートを作成し、報告をしてもらう。特に後期はレポート報告が中心となる。

【授業計画】

- 前期
- a テーマ別文献リスト作成
 - b テーマ別データベース作成
 - c 基本文献講読
 - d 各自のテーマによるレポート

- 後期
- a 各自のテーマによるレポート
 - b 修士論文の構成
 - c テーマ別データベースのチェック

【評価方法】

出席状況とレポートおよびいろいろな成果を総合して評価する。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

その都度、指示する。

メディアプロデュース特別研究 M- I a・b

坂元 多

【授業の概要】

テレビ、映画など映像メディアを取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行ない、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

一つの映像メディアからどのような研究テーマが抽出できるか、さまざまなケースを例示し研究の分野、方向をさぐる。

【授業計画】

キーとなる先行の論文の読み合わせをベースに質疑など、討議法を加えた進め方を取りたい。

【評価方法】

レポート提出によって評価

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M- I a・b

親松和浩

【授業の概要】

情報メディア技術の可能性を探究する。特に、携帯端末やパソコンのネットワーク利用に重点を置く。研究方法の教示と助言を行い、研究論文作成の指導を行う。研究テーマにはシステム設計/試作を行うものも含める。

【授業計画】

テーマごとの個別指導を行う。学部学生との連係も考慮に入れ、研究の進展の度合いに応じて各種学会での成果発表も視野に入れる。

【評価方法】

出席状況と報告レポート等で評価する。

メディアプロデュース特別研究 M- I a・b

五島幸一

【授業の概要】

メディアを媒介としたメッセージをレトリック批評の観点から取り上げ、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言をおこない、論文作成を指導する。

【授業計画】

研究テーマの設定、問題設定、論文の書き方などを学生との討論を通して指導する。

【評価方法】

論文の進捗状況によって評価する。

【テキスト】

とくになし。

メディアプロデュース特別研究 M- I a・b

大西 誠

【授業の概要】

メディアは情報やメッセージを伝える媒体でありながら、メディアの形態そのものがメッセージを発信するというマクルーハンが指摘した現象が顕著になっている。理論のよりどころとなるアクチュアルな現実を直接経験することを重視しながら「現代」をプロデュースする感覚・感性を研ぎすます。さらに各自が研究テーマを発掘し、仮説を立て、調査、分析し、検証する。

【授業計画】

個別指導により、以下の目標を達成する。

- ・メディアの現状と個別の研究テーマを関連づけ、各自のプロデュース感覚を養う。
- ・焦点化した調査、資料の収集と目標との関連性、仮説の設定あるいは企画立案など実証的アプローチを明確にし、計画性を明確にする。
- ・院生相互あるいは学部学生との連携などによって、論文あるいは制作の構成の批評・検討をすすめる。

【評価方法】

先行研究のまとめなど調査研究のレポート、口頭発表と討論などで、総合的に評価する。

【テキスト】

特になし

メディアプロデュース特別研究 M- I a・b

太田浩司

【授業の概要】

様々なコミュニケーションメディアを通して繰り広げられるグループ間、異文化間のコミュニケーションを研究する。特にテレビ、インターネット、新聞などで繰り広げられる様々なコミュニケーション上の問題を取り上げて理論的に分析、また新しい理論展開を試みたい。

【授業計画】

詳しい授業予定は学期の最初に説明する。

【評価方法】

学期末ペーパー

【テキスト】

未定

メディアプロデュース特別研究 M- I a・b

石田米和

【授業の概要】

メディアのグローバル化を念頭に置き、認知科学および比較文化論等の視点から、特に映像メディアのコンテンツの普遍性等について、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成又は研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

概要は以下の通りである。

- ・コンテンツに係わる諸問題の抽出
- ・表現方法と社会的認知－普遍性・個性と認知
- ・社会的認知と社会的文化的文脈－認知ギャップの要因
- ・メディアのグローバル化と情報内容・表現方法－表現の自由とルール
- ・その他

【評価方法】

- ・出席状況、受講態度
- ・レポート
- ・定期試験

【テキスト】

未定。英文も使用する予定である。

【参考文献・資料】

未定。

都市環境デザイン特別研究 M- I a・b

河辺泰宏

【授業の概要】

西洋建築の歴史と歴史的建造物の保存と再生を柱として、文献講読を中心に授業を進める。

授業は、参加者の興味と担当者の専門性を考慮して、半期ごとに異なった文献を選びながら進める予定である。また、本演習は修士論文の研究指導を兼ねているので、資料収集の方法や論文の読み方、書き方にも重点を置く。

【授業計画】

- 1) 西洋建築史および歴史的建造物の保存と再生に関する論文や書籍を持ち寄り、その中から適切な主題をアツカつたものを選び、読み合わせる。
- 2) 読み合わせには、分担を決めてあらかじめ資料を用意し、理解の助けとする。
- 3) 論文のまとめ方を指導する。

【評価方法】

参加の状況によって判断する。

【テキスト】

未定。必要に応じて選択し、必要な資料は配付する。

都市環境デザイン特別研究 M- I a・b

吉田邦彦

【授業の概要】

高度情報社会における都市・建築のあり方、建築設計の方法に関する諸問題の解明、あるいは問題解決のための方法の提案を主要テーマとする。

上記テーマをもとにして、今日の都市・建築の設計および計画におけるさまざまな問題を取り上げて、研究の方法を教示するとともに、学生の研究に対する個別的な助言を行い、論文作成または研究成果の結実を指導する。

【授業計画】

学生との討論を通して、問題点を明らかにするとともに、学生による修士論文の進行にあわせて、その折々での調査・検討の結果について共同で議論し、指導する。

文献収集、既往の論文の検討、研究テーマに対するアプローチの方法など、研究テーマに関する基本的な事項を中心に指導する。

【評価方法】

提出された論文の内容、形式の水準と、学生の授業中での議論に対する積極性によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

都市環境デザイン特別研究 M- I a・b

日色真帆

【授業の概要】

建築や都市空間について、既になされたデザインについての分析と、新しいデザイン方法の開発を大きなテーマとして、学生がそれぞれにテーマを絞り込み研究をすすめるための指導をする。

【授業計画】

個別指導。

【評価方法】

レポートによる評価。

【テキスト】

特になし。

なお、以下の本は論文をまとめる参考になる。文化系の人にも推薦できる。理科系の作文技術（木下是雄 中公新書）

レポートの組み立て方（木下是雄 ちくま学芸文庫）

都市環境デザイン特別研究 M- I a・b

垂井洋蔵

【授業の概要】

都市、建築にかかわる種類の事象や具体的な建築作品あるいは建築家を題材として、空間や場所に関わる現象、あるいは建築作品の制作に関わる諸思潮の理解と建築論的解釈をおこなう。題材とする事象は、学生の主体的な志向性に期待するがいくつかの例をあげれば、

- 1) 歴史上あるいは現代の建築家を題材にその作品と思潮を解明する作家論
 - 2) 具体的な建築を題材にその成立、歴史的意味、空間の独自性等を論ずる作品論
 - 3) 建築作品や集落の空間構造、や諸要素の構成等を論ずる形態論
 - 4) 建築空間や場所に関わる儀礼や祭礼を題材にして建築的な現象を読み取る意味論
- などが考えられる。

【授業計画】

テーマの選定への助言と、考察のための基礎となる方法論を提示する。個別に論文の進捗にあわせた指導を行い、前後期継続して、2年次に修士論文として纏め上げるための基礎となるフィールドを作る。

【評価方法】

視点の新鮮さ、推論の論理性、分析の正確さなどを総合的に評価する。

【テキスト】

適宜テーマに沿って参考文献を提示する。

都市環境デザイン特別研究 M- I a・b

仁科浩二郎

【授業の概要】

まず都市環境評価の前提となる一般の事項を展望しながら、都市および国際的スケールでの、実際の、現実的な資源環境問題を扱う。国際的規模で考察する典型的課題としては、

- (1) 温暖化問題に関する1997年京都会議以後の国際的な実効の動向
 - (2) ドイツのエネルギー事情と、原子力発電に関してなされた最近の決断の意味
 - (3) 循環型都市社会の構築に向けた努力の過程で浮上した困難
 - (4) 個別消費材が環境に及ぼす負荷をより系統的に評価する手法の検討
 - (5) 世帯単位のエネルギー消費の実態
- などがある。

【授業計画】

環境庁、通産省、電力会社、関連学術誌、自治体の資料、ホームページ、および国内・国際報道を参考として調査を続け、定期的な検討・討論を行う。同時に、関連施設の見学を適宜行う。

【評価方法】

以上の検討における積極性、調査能力とそのまとめの力、期末レポートで評価する。

【テキスト】

固定的なものではなく、進行に応じて必要資料を配付。

【参考文献・資料】

環境庁ホームページの中の「気候変動枠組み条約」関連ページ、環境白書、循環型社会白書

NHK環境番組ビデオ

The Economist 誌

都市環境デザイン特別研究 M- I a・b

太田裕

【授業の概要】

「異常自然現象と人間社会の共生」を大枠とする領域で研究課題の選定を行い、事例研究の推進を計る。モデル地区としては近郊の都市を選び、現地（実態、資料）調査を中心におく。その中で、問題発見-解決-報告に至る一連の研究技法を体得する。したがって、授業形態は必然セミナー形式となり、受講者が率先かつ自力で課題達成に努めることとなる。

【授業計画】

前期

1. 基礎知見学習
2. 既往研究の体系的把握
3. 課題の予備的实施

後期

1. 課題解決実行プログラムの作成
2. 現地・実（資料）調査の実施
3. レポートの作成

【テキスト】

特になし。随時、読解すべき論文・専門書を指示する。

【参考文献・資料】

同上。

(注) 都市環境デザイン特別研究M-II a、bとの併行学習は許容するが、その場合は「研究課題」を大きく変えたものとする。

主題講義 I

辻 紘良 川澄未来子

【授業の概要】

インターネットITS (Intelligent Transport Systems) といわれ、携帯電話の通信機能を生かした新しい交通システムの研究開発が国内外で活発に進められている。さらに昨今、ユビキタスITSといわれ、どこでも手軽に利用できる通信技術の進展を背景に、地域の情報に基づく交通システムの研究開発が進められている。

この講義では、ITSの地域交通への展開を主に取り上げ、現在この分野で注目されている中心的なテーマ、技術開発動向等を概観するとともに今後の動向について展望する。また、現在研究開発中の技術や導入されたシステムなど、具体的事例を取り上げ紹介し、現状を知るとともにその可能性や問題点を把握する。

これらを通して、今日の移動通信やマルチメディアの可能性と問題点を把握する。また、これらITSの動向を背景に、交通渋滞や環境汚染に悩む地方都市、少子高齢化や過疎化で悩む地域の町おこし、地域交通のバリアフリー化等への展開、あるいは現在地域が抱えている問題の解決方法について討議し、提案を試みる。

【授業計画】

1. 学識経験者および専門家によるITS概観
 - (1) アジア米欧各国のインターネットITSの地域交通への技術展開およびシステム導入の現状
(ITS-Japan, ITS-America, ERTICO等の動き)
 - (2) 国内におけるインターネットITSおよびユビキタスITSの開発、システム導入の状況と今後の動き
(UTMS, AHS, VICS, ナビ他)
 - (3) ITSを活用する地域開発、バリアフリー化の動向
(通勤バス、カーシェアリング、歩行者支援)
 - (4) 研究開発事例紹介
(車いす経路誘導システム)
2. ITSシステムの応用に関する討議、提案
地域開発(町おこし)、バリアフリー化等への応用システムを提案、討議しまとめる。
3. Technical Tour
05年愛知万博交通システム、交通管制センター、企業等を訪問、ITSシステムを視察する。

【評価方法】

出席状況、発表・討議やレポート提出内容により評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

Proceedings of the 11th World Congress on ITS at NAGOYA, October 18-24, 2004

国際理解教育 I

担当者未定

【授業の概要】

開国の実現によって鎖国時代の閉鎖社会から、急速かつ広範な外国文明の積極的な受容社会への変換によって、近代日本の発展がはじまった。

幕末から明治維新にかけて、西洋の進んだ技術文明がどのような教育的経路をたどって日本に導入されたかを学習する。

【授業計画】

1. 幕府の日本近代化政策と日本近代化に及ぼした教育的な効果について次の点を中心にして学習する。
 - (1) 幕府の海外使節団派遣
 - (2) 幕府派遣、各藩派遣、密航留学生
 - (3) 洋学、技術伝習
2. 明治新政府発足と外国文明の積極的な受容のための教育政策について次の点を中心にして学習する。
 - (1) 岩倉米欧使節団をはじめとする海外視察団の派遣
 - (2) 大学南校の貢進生制度と外国語教育
 - (3) 高等教育機関の設置とお雇い外国人教員の雇用
 - (4) 明治期の海外留学制度の整備と日本の教育の発展
 - (5) 明治期における技術導入と伝習生の海外派遣

【評価方法】

発表及び課題レポートによる。

【テキスト】

国際理解教育論講義概要 300円

【参考文献・資料】

特に指定しないが参考文献は授業において指示する。

地域社会特別研究 D I (地域産業論)

谷口 茂

【授業の概要】

いずれの産業（企業）も、それが立地する地域の特性の影響を受けざるをえない、この点を明らかにするのが、本授業の目的である。名古屋市を中核とする東海地域を研究対象に取り上げ、同地域の産業の現状を分析し、その課題の解明に努め、活性化のための方策を探究する。そのさい、産業と地域との相互関係の分析を最も重視し、また実証的調査にも重点をおき、さらに地域の労働力の量と質も視野に入れたい。授業では、研究発表・討論の活用を通じて、学生が自主的・自発的研究姿勢を習得するように配慮する。また論文指導にあたっては、学生の個性や資質に応じた個別的指導助言を行い、優れた研究者を育成することを狙いとする。

地域社会特別研究 D II (地域交通論)

辻 紘良

【授業の概要】

現在移動通信技術や情報技術の著しい進展を背景に、いわゆる ITS (Intelligent Transport Systems) と総称される自動車交通に関する新たな技術・システムの開発および普及が急速に進められている。この授業では、ITSの地域交通への展開を取り上げ、現在この分野で注目されている中心的なテーマ、技術開発動向等に関し検討し、問題の解決方法を研究する。この過程で学生の優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を3年で終了しようとする場合、第1年次で文献・資料調査にもとづく研究テーマの設定、研究方法の把握に主眼を置き、第2年次でデータ収集、システム構築、問題解析等によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

地域社会特別研究 D III (地域文化論)

谷沢 明

【授業の概要】

地域社会における物質文化と精神文化の両面を対象とし、人間が自然に對峙し共存しながら築いてきた生活様式と内容を取り上げる。主な指導内容は、①新しい文化と生活様式を創造する機能を有した多様性のある地域づくりの研究、②歴史や風土、文化的蓄積等の地域特性を生かした自立的な地域づくりの研究、③個性と伝統のある地域文化の保存と活用、および歴史的環境の保全を図りつつ行う地域づくりの研究等である。また、参加学生の学位論文作成を指導する。博士後期課程を3年間で修了しようとする場合、第1年次で研究テーマの設定、既往研究の把握、文献・資料の確認、野外調査の指導に主眼を置き、第2年次で、野外調査の実施、および文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

国際社会特別研究 D I (国際社会発展論)

藤瀬浩司

【授業の概要】

近現代において各国が辿った社会経済発展、および世界システムの構造変化を取り上げ、現在この分野で問題とされている中心的なテーマ、研究方法、論争点、文献・資料を開示し、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。これとともに、参加学生に対して、授業内での発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を3年間で修了しようとする場合、第1年次で、研究テーマの設定、研究史の把握、文献・資料の確認に主眼を置き、第2年次で、文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

国際社会特別研究 D II (国際教育交流論)

渡辺かよ子

【授業の概要】

日本の教育や文化について説明するのに日本のみを考察の対象にしていたのでは相対的な実相が浮かび上がってこない。より広い視野の中で、対象に迫っていくべきであろう。そのため、この領域における中心的テーマ、研究方法、文献資料等を示し、参加者の問題意識の深化と、方法論の明確化を図る。また、参加者に対して個別的レポート、相互の討論を行わせ、それらへの助言を通じて、論文作成への取組みを指導する。

国際社会特別研究 D III (国際労働移動論)

清水 洋

【授業の概要】

近現代アジアを中心に、華人・日本人・インド人などの労働力移動を取り上げ、その実態、各国の移民政策、民族問題、移民受け入れ国・送り出し国に対する社会・経済的インパクトなどを、1次資料・2次文献を基に深く掘り下げて考察し、独創力を養い、高度な分析能力を育成する。また、授業内での研究発表・討論、あるいは個別的な助言を通じて、学位論文の作成過程を指導する。博士後期課程を3年間で終了しようとする場合、第1年次で、研究テーマの設定、移民史・基礎理論の把握、文献・資料の確認に主眼を置き、第2年次で、文献資料の分析によって独自の研究成果をうることに集中し、第3年次で論文の完成に向かうよう指導する。

【授業計画】

個別指導を行う。

【評価方法】

中間報告と論文による評価。

【テキスト】

使用せず。

国際社会特別研究 D IV (日本政治・比較政治論)

西尾林太郎

【授業の概要】

近代日本の政治・外交・社会等の分野の近代化とその特質について、中国、韓国等のアジア諸国や欧米諸国との比較検討を通じて考察する。日本を含め各国の近現代史に関する文献をはじめ、比較近代化論や比較政治に関する文献の講読と各種の歴史資料の解説・分析を通じ、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。同時に、授業内における発表・討論や個別的な助言により、学位論文の作成を指導する。なお、博士後期課程を3年間で修了しようとする場合、第1年次で研究テーマの設定、内外の研究史の把握、文献・資料の収集とその内容の検討、第2年次で文献・資料の分析についてそれぞれ指導する。そして第3年次では、学位論文の作成について指導し、その完成を期したい。

【評価方法】

指示された課題達成状況を総合的に評価する。

メディアプロデュース特別研究 D I (映像表現論)

坂元 多

【授業の概要】

メディアスタディーズに関わる内外の中心的な論文の読み合わせを行う。論文の内容把握が一つの狙いであると同時に、その論理の組み立て方、資料の使い方、結論への導き方、用語や、概念の定義の仕方など論文執筆のための枠組みも学びとらせる。論文のジャンルとしては、映像番組制作に重点をおき、番組分析の基本となるエンコーディング、デコーディングに関する論文、番組制作の基本となる映像編集やナレーションに関する論文、具体的な番組論としてのケーススタディなどを扱い、進捗、年次によって個別にアサインメントを考える。

メディアプロデュース特別研究 D II (メディア文化史論)

山田登世子

【授業の概要】

現代メディアの生産と需要を歴史的に把握することを目的とするメディア文化史は優れた学際的な学問領域であり、幅広い知識が要求される。第1年次では、複製技術論、読書論等々、広領域にわたる基礎文献の習得を徹底させるとともに、研究対象をいかなるメディアに焦点化するか、テーマ選択を指導する。つづく次年度は、選択した研究テーマに従って、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディア体験の理論的分析を課題とし、その成果を逐次授業で報告させつつ、学位論文にまとめさせる。

【授業計画】

ゼミ（あるいは個人指導）方式をとる。
上記授業概要に従って、毎回報告レポートを提出すること。
その報告を指導するかたちで授業をすすめる。
場合によって、長文のレポート提出を課す。

【評価方法】

授業の平常点を重視する。評価は授業時のレポートおよび期末レポートによる。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

メディア論（マクルーハン みすず書房）
複製技術時代の芸術（ベンヤミン ちくま文庫）
写真論（ベンヤミン ちくま文庫）

メディアプロデュース特別研究 D IV (レトリック批評論)

五島幸一

【授業の概要】

古代ギリシャ・ローマ時代からの流れを受け継ぐレトリック批評は、元来スピーチ批評として発達してきた。しかしながら、現代のメディアの発達に伴い、様々なメディア（テレビ、映画、広告など）の中身（コンテンツ）も分析するようになり、その分析対象は言語のみならず非言語にも及ぶようになった。このレトリック批評の流れを把握し、その理論を現実の問題の解決に応用できる知識を養う。

第1年次では、レトリック批評理論の歴史的な流れに焦点を当てて、その特徴を考察する。つづく第2、3年次では、現代レトリック批評を視座の中心とし、文献資料の探索・分析、ならびに実際のメディアのメッセージを理論的に分析することを課題とし、その成果を授業で報告させ、学位論文にまとめさせる。

メディアプロデュース特別研究 D III (メディア環境論)

大西 誠

【授業の概要】

現代の映像文化を教育の視座から、放送メディアとの関係に注目し、研究文献や作品を通じてメディア環境を縮約的に理解し、各自の課題の発見と解決のプロセスを明らかにする。あわせて、現在の高度情報化社会の映像文化の特質やテクノロジーのディテールを取り上げ、メディア環境の個別的課題を社会的・文化的文脈の中で分析する手法を開発・養成していく。具体的には、各自の課題レポートの発表・討論などを通じて、研究方法や分析方法、ひいては論文作成を個別に指導する。年次を追うごとに課題発見から調査研究、分析と論文作成を段階的に指導する。

【授業計画】

メディアのプロデュースを仮説としてシミュレートするとともに個別の指導による論文作成を行う。

【評価方法】

研究ノート及び学会発表などで総合的に評価する。

【テキスト】

別途指定する。

都市環境デザイン特別研究 D I (情報化建築論)

吉田邦彦

【授業の概要】

最近の情報通信技術（IT）の進歩は著しく、建築のあらゆる領域に大きな影響を与えつつある。建築とITとの関わりにおける問題など建築計画上の諸課題を取り上げ、優れた問題意識と高度な分析能力を育成する。

学生は、修士論文で扱った問題を中心に各自が関心を持つテーマを設定し、既往の研究の確認、研究方法などを中心に調査研究する。その上で、新たな研究調査を実施させ、独自の研究成果を得るように、そしてそれらの結果をもとに研究をさらに深化させ、学位論文として完成するように研究指導する。

都市環境デザイン特別研究 D II (都市エネルギー論)

仁科浩二郎

【授業の概要】

授業では、エネルギー源の確保と、その消費に伴う環境悪化の抑止という現在の都市が持つ両立困難な長期的二課題に焦点を据える。エネルギー消費に伴うCO₂ガスその他の排気は、温暖化問題はもとより複雑な環境問題の原因とされ、近年、オフィス街大型消費よりも、市民生活の小口消費に基づく増加が著しい。その上、一般生活廃棄物の累積は、循環型社会の早期実現を迫っている。参加学生に対しては、現存データの科学的咀嚼とオリジナル資料取得の努力を通じて、これら都市的課題の実像を自身の言葉で把握させ、その上で解決策を探る態度を教授する。指導は学生の調査・発表と、授業内の討論・助言で行い、論文作成に向けた明確な事実データの蓄積集約と、論理的表現法の訓練を指導する。

都市環境デザイン特別研究 D III (建築保存再生論)

西澤泰彦

【授業の概要】

古代から近代にわたる西洋建築および明治以降の日本の近代建築について、様式史的・建設技術史的観点あるいは保存・修復論的観点から今日的なテーマを取り上げ、研究方法や文献資料などを示し、的確な問題意識と高度な分析能力を養う。

学生には年次ごとに各論的テーマを与え、学習段階に応じて適宜、調査研究成果の発表・報告を義務づけるとともに個別的な助言を通じて学位論文の作成を指導する。

都市環境デザイン特別研究 D IV (建築・都市空間デザイン論)

日色真帆

【授業の概要】

建築・都市空間のデザインに関して、環境行動研究、人間環境系の計画理論、設計方法論などの成果を踏まえて論理的考察を進める。その一方で、都市居住に関わる現代都市の具体的問題を対象に行う調査分析と、様々な共同作業を支援する新しい設計手法の開発とを実践的課題として掲げる。これらの研究分野について指導し、それを受けて学生は、教員および他の学生と協力して研究を進める。学生との論議を重ねて個別の学位研究テーマを絞り込むよう指導する。調査分析、研究発表、学位論文の作成等に関する技法上の指導も併せて行う。

文化創造総論（異文化理解と創造）

榎田勝利 島田修三 清水良典 皆川修吾

【授業の概要】

主体的かつ創造的な表現に必要な人間性や知的な奥行き、そして日本の伝統文化への造詣、また国際交流に必要な異文化理解や現状認識、それに実践的処理能力など、より高度な文化創造への素養や姿勢、加えて人間の感性や理性に働き掛ける心理的・社会的状態など文化創造の根元について学ぶ。

（オムニバス方式）

（島田教授）日本文化の伝統的特質を古典文学の表現を通して学び、日本人が歴史的に培った固有性およびグローバルな普遍性への志向を探る。

（清水教授）現代日本における多様化しグローバル化した文化状況を現代文学の表現を通して学び、日本固有の文化創造の可能性を考える。

（皆川教授）地球存続に必要なグローバル共生文化の涵養プロセスと共生文化の理念を軸とした異文化理解や現状認識の術を学ぶ。

（榎田教授）国際交流の実践に必要な素養や姿勢を学び、創造されつつあるグローバル市民社会の現状を検証し、発展的に将来像を探る。

【授業計画】

- 第1回 日本古典文学における伝統と文化の意識の発生
- 第2回 日本古典文学における中国文学の受容とその独自の再編
- 第3回 日本古典文学における文化的独創性の獲得
- 第4回 近代文学の文体について
- 第5回 言文一致運動期の文体模索について
- 第6回 現代文学の文体実験について
- 第7回 社会科学としての文化論：文化を分析概念として使う
- 第8回 国際社会の変容：価値体系の地球規模の共有化
- 第9回 国際秩序の制度化過程：歴史の視野とリアリズムを通しての現状認識
- 第10回 国際社会の変容とシビリアン・パワー
- 第11回 シビリアン・パワーとしてのNGO
- 第12回 シビリアン・パワーの現状と将来

【評価方法】

出席点および各教員の講義ごとに1200字のレポートを課し、総合的に評価する

【テキスト】

授業中に適宜、プリントを配布する

【参考文献・資料】

各講義ごとに授業中に指示する

文化創造特講Ⅱ（創造表現論）

三木卓

【授業の概要】

主として文学的な韻文および散文のテキストを教材として、創造的行為としての文学表現を構成する題材・モチーフ・テーマ・思想・方法・レトリック等の多角的な観点からつづさに検証し、創造表現の全体像を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 創造行為について
- 第2～6回 韻文テキストの鑑賞と検討
- 第7～11回 散文テキストの鑑賞と検討
- 第12回 総括と議論

【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

開始時に指示する。

【参考文献・資料】

同上

文化創造特講Ⅰ（文学表現論）

早川由美

【授業の概要】

日本古典文学の代表的なテキストをたどりながら、古典に現れた特長的な文学表現の諸相に検討を加える。また、現代の文学表現に影響を与えている表現的特質について、相互のテキストを比較しながら、その具体的な関係を学ぶ。

【授業計画】

第一講義 授業の方針の説明

第二講義 松尾芭蕉の人生について学ぶ。

第三講義から第十五講義は「奥の細道」を味読しながら表現されたものの裏側にある古典文学について学んでいく。

【評価方法】

出席状況とレポートの評価をもってする

【テキスト】

奥の細道（岩波文庫）

文化創造特講Ⅲ（映像表現論）

平野勇治

【授業の概要】

映像表現の作品、特に映画における表現の固有の性格や方法を、主として日本映画史をたどりながら考察し、同時に時代状況や時代の芸術的思潮を敏感に反映した代表的な映画理論の変遷をもとらえていく。

【授業計画】

1. 映画分析の方法：シナリオの構造・撮影技法・編集技法等について理解し、「作り手の目」で映画を読み解くための準備を行う。
2. 無声映画：上記の方法をふまえ、戦前の無声映画を読み解く。
3. 日本映画の黄金期：上記の方法をふまえ、1950年代の日本映画を読み解く。
4. 現在の日本映画：上記の方法をふまえ、現在の日本映画のうち、特に作家性の強い作品を読み解く。

【評価方法】

主に課題評価によるが、出席状況も考慮する。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

文化創造特講Ⅳ（プレゼンテーション技法論）

影戸 誠

【授業の概要】

基礎技術として、問題提示、諸説の比較検討、論点・論拠の提示、研究調査結果、成果の集約や発表、今後の展望など効果的なプレゼンテーション技法を指導する。

【授業計画】

プレゼンテーションは「Public Speaking」と「File making」に分かれる。実習は、この2つの観点に常に留意し展開していく。英語プレゼンテーションに焦点を置く。

- 第1回 プレゼンテーションとは
- 第2回 プレゼンテーション評価の観点
- 第3回 プレゼンテーションサンプル評価
- 第4回 プレゼンテーションと画像
- 第5回 プレゼンテーションと動画
- 第6回 プレゼンテーションとエクセルデータ
- 第7回 プレゼンテーションの構成
- 第8回 マッピング
- 第9回 アプリケーション間の連携
- 第10回 話す力
- 第11回 アイコンタクトとボディランゲージ
- 第12回 オーディエンスとインタラクション
- 第13回 作品評価
- 第14回 作品評価
- 第15回 作品評価

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出（インターネット利用）を通して評価する。プレゼンテーションを実際に行い、その作品を通しての評価が中心となる。

【テキスト】

実践プレゼンテーション（影戸誠・渡辺浩行著 日本文教出版 ISBN 4-536-40099-0）

【参考文献・資料】

- 魅せる先生（影戸誠他著 インプレス 4-8443-7009-X）
実習情報基礎（影戸誠他著 インプレス）
翼をもったインターネット（影戸誠著 日本文教出版）

文化創造特講Ⅵ（異文化表現論）

CURRAN, Beverley

【授業の概要】

文学と映像などのメディアの違いによって表現方法がどのように変わるのか、また、ある一つの作品が異なる文化によってどのように異なって理解されるかなどの問題を通して、異文化間の表現の多様性を学ぶ。

【授業計画】

- 1 Introduction
- 2 Film Adaptation and Accented Cinema
- 3-5 From Fiction to Film: *The Sweet Hereafter* (Russell Banks); *The Sweet Hereafter* (Atom Egoyan/ Canada)
- 6-8 Shifting Stories: *Saturday Night Fever* (USA); *Forever Fever* (Singapore); *Billy Elliot* (UK); *Happy Together* (Hong Kong)
- 9-11 Inside and Outside: *The Year of Living Dangerously* and *Picnic at Hanging Rock* (Peter Weir/ Australia)
- 12-14 Messages: Letters and Telephones: *Dial M For Murder* (US); *Central do Brasil* (Brazil)
- 15 Reflection

【評価方法】

There will be one panel presentation (in English) and a paper (in English or Japanese). Participation in discussion will also be evaluated.

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

TBA

文化創造特講Ⅴ（ディベート技法論）

渡辺真澄

【授業の概要】

基礎技術として、立論の立て方、尋問の仕方、反駁・反論の仕方、試合準備の仕方、すなわち、情報収集方法や効果的なディベート技法などを指導する。

【授業計画】

ディベートの理論と実践を通してコミュニケーション技能の向上を目指す。授業では、ディベートの概要や理論の解説に加え、受講者には実際にスピーチやディベートを行ってもらい、言語運用能力、論理的な思考能力、情報収集能力などの向上を目指す。

- 第1講 ディベートの概要
- 第2講 スピーチ実践（1）：自己紹介・他人紹介
- 第3講 スピーチのレトリック
- 第4講 スピーチ実践（2）：テーマスピーチ
- 第5講 ディベートの論理的推論
- 第6講 ディベート論議決定のプレインストロミング
- 第7講 プレゼンテーション実践：グループ発表
- 第8講 グループリサーチ
- 第9講 立論の作成と反駁の準備
- 第10講 ディベート実践（1）：ディベートの試合
- 第11講 ディベート実践（2）：ディベートの試合
- 第12講 論議研究（積極的安楽死）
- 第13講 ディベート実践（3）：ディベートの試合
- 第14講 ディベート実践（4）：ディベートの試合
- 第15講 まとめ

"There are only two parts to a speech: You make a statement and you prove it."

(ARISTOTYLE, RHETORIC.)

【評価方法】

出席状況、授業での活動状況、レポートなどを総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

頭を鍛えるディベート入門（松本茂著 講談社）

文化創造特論Ⅰ（西洋文化論）

杉本一直

【授業の概要】

ロシア・東欧を含めた西洋現代文学の代表作品を解説する。各作品に現れている思想や構造の分析を通して、現代の西洋文化の根底に流れるさまざまな形而上の問題提起を明らかにする。

【授業計画】

- 第1回、第2回 ロシア人作家V.ナボコフの作品を取り上げる。「過去と現在との混交」、「記憶と現実との相克」といったテーマがどのような形で具現化されているかを探る。
- 第3回、第4回 アルゼンチン人作家J.L.ボルヘスの作品を取り上げる。形而上的な思考の遊びに、フィクションの具象性が付与されていく創作過程を分析する。
- 第5回、第6回 アイルランド人作家S.ベケットの作品を取り上げる。「死」「無」「消失」へと向かう退行運動のなかで言葉が生成していくという、逆説的な創作方法を分析する。
- 第7回、第8回 ポーランド人作家S.レムの作品を取り上げる。SF小説の枠のなかで「他者」という概念が異様なまでに巨大化し、主体を圧迫していく構図を分析する。
- 第9回、第10回 チェコ人作家F.カフカの作品を取り上げる。「不条理」、あるいは「迷宮」といった言葉でしばしば形容されるカフカの作品世界を、幻想小説のひとつの原型として定義づけることを試みる。
- 第11回、第12回 アメリカ人作家P.オースターの作品を取り上げる。犯人も事件も存在しない形骸化された推理小説を通して、主人公を「存在と非存在の境界線」へと導く独自の物語構造を分析する。

※受講生は担当教員の指示に従って「研究ノート」を作成し、提出する。

【評価方法】

上記の「研究ノート」提出と出席状況により評価する。

【テキスト】

ロリータ（ナボコフ 新潮文庫）、ソラリスの陽のもとで（レム ハヤカワ文庫）ほか。

【参考文献・資料】

授業において随時指示する。

文化創造特論Ⅱ（東洋文化論）

角田達朗

【授業の概要】

日本及びアジアの文化的基盤を形成している中国思想の影響の諸相を比較検討したうえで、東洋文化の特質を主に舞台芸術を材料としながら学ぶ。

【授業計画】

中国の伝統的世界観の基底というべき陰陽五行思想について、特に予知の思想との関わりを取り上げて考察する。また、それが前近代の日本人にどのような心理作用を及ぼしたかを具体的な事例に即して検討する。

1. ガイダンス
2. 『搜神記』に見られる予知の思想
3. 死者の復活と予知の思想
4. 前近代の中国人・日本人は「死体」をどう見たか？

授業形式は講義を基本と考えているが、受講者数によっては講読中心に変更する。

【評価方法】

- レポート
*講読の場合は平常点も加味する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

文化創造特論Ⅲ（国際映画論）

平野勇治

【授業の概要】

世界の映画文化を国際的な異文化交流の視点から捉え、それぞれの国の文化特性を比較しつつ、それが普遍的な映画表現を介して受容されていく現実と将来の可能性について考える。

【授業計画】

- 第1回～4回 映画は異文化をどのように映し出してきたか。（黎明期から現代までの歴史の検証）
第5回～8回 映画における異文化交流の具体的考察。（多国籍合作映画の検証）
第9回～12回 国際映画の現在（非ハリウッド映画の流通・受容のあり方の検証）

【評価方法】

出席状況、課題への対応を考慮しつつ、最終的には学期末レポートにより評価する。

レポートのテーマについては、授業内で提示する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業内で随時示す。

文化創造特論Ⅳ（メディア表現論）

川澄未来子

【授業の概要】

進展著しいコンピュータグラフィックス等の電子メディアを主な手がかりとして、メディア表現の具体的な技術や方法、芸術的特質や今後の可能性について、理論と実践の両面から多角的に学ぶ。

【授業計画】

画像・映像教材、電子的な教材などを利用しながら、次のトピックスについて考察を深める。

1. 表現体系におけるメディア表現の位置づけ
2. 視覚芸術の歴史
3. 映画の起源
4. アニメの起源
5. 産業におけるCG
6. 科学におけるCG
7. 芸術におけるCG
8. エンタテインメントにおけるCG
9. メディアアート・デジタルアート
10. ベットロボット
11. インタフェースデザイン
12. DTP・Webデザイン

【評価方法】

出席状況、受講態度、提出課題、試験の総合評価によって決める。

文化創造特論Ⅴ（情報学1）

影戸誠

【授業の概要】

情報機器の効果的な活用法、学習者とのインタラクティブ性を重視したホームページや掲示板、アンケート、授業評価のあり方を学ぶ。またネットワーク上の教材の扱いについてもふれ、英語例文検索システムの活用方法を習得する。

【授業計画】

- 第1回 インターネットの教育利用
第2回 英語例文検索システムの活用
第3回 デジタル教材の活用方法
第4回 文部科学省をはじめとするネットワーク上の教材評価
第5回 WWWサーバーとファイルのアップロード
第6回 WWWサーバーとFTP
第7回 htmlファイルと教材作成
第8回 オンラインアンケートとそのデザイン
第9回 ネットワーク活用と情報共有
第10回 動画教材の特性と作成（1）
第11回 動画教材の特性と作成（2）
第12回 教材の相互リンクと評価
第13回 作成教材に関するプレゼンテーション（1）
第14回 作成教材に関するプレゼンテーション（2）
第15回 作成教材に関するプレゼンテーション（3）

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出（インターネット利用）を通して評価する。学習事項についてもプレゼンテーションを行い、活用方法について評価を行う。

【テキスト】

魅せる先生（影戸誠ほか著 インプレス 4-8443-7009-X）

【参考文献・資料】

実習情報基礎（影戸誠他著 インプレス）
実践プレゼンテーション（影戸誠・渡辺浩行著 日本文教出版 ISBN 4-536-40099-0）
翼をもったインターネット（影戸誠著 日本文教出版）

【授業の概要】

ネットワークを活用した家庭、学校、地域社会間交流、教材の共有のあり方を明確にし、「総合的な学習の時間」の設計とネットワーク活用、コーディネータのあり方について学習する。

【授業計画】

- 第1回 高校・大学連携国際交流プロジェクト
- 第2回 海外のネットワーク事情と国際連携
- 第3回 国際交流と英語
- 第4回 日本国内のネットワーク上の教材評価
- 第5回 クラス内の活動などをどう見せるか？動画教材の分析
- 第6回 動画教材の作成
- 第7回 動画教材とアプリケーションの連携
- 第8回 「総合的な学習の時間」の実践事例
- 第9回 英語の活用・ネットワークと国際交流（1）
- 第10回 英語の活用・ネットワークと国際交流（2）
- 第11回 英語の活用・ネットワークと国際交流（3）
- 第12回 英語プレゼンテーションと話す力
- 第13回 作成教材に関するプレゼンテーション（1）
- 第14回 作成教材に関するプレゼンテーション（2）
- 第15回 作成教材に関するプレゼンテーション（3）

【評価方法】

出席状況、授業態度、課題提出（インターネット利用）を通して評価する。学習事項についてもプレゼンテーションを行い、学習事項の活用方法についても評価を行う。

【テキスト】

魅せる先生（影戸誠他著 インプレス 4-8443-7009-X）

【参考文献・資料】

- 実習情報基礎（影戸誠他著 インプレス）
- 実践プレゼンテーション（影戸誠・渡辺浩行著 日本文教出版 ISBN 4-536-40099-0）
- 翼をもったインターネット（影戸誠著 日本文教出版）

詩歌創作理論Ⅰ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論や、その表現技術を支える修辞学等の創作に関わる基礎的な理論を取り上げ、どのように創作理論が実際の韻文テキストを構築していくか、という問題を創作のプロセスと関連させながら考えていく。

【授業計画】

現代詩前期（明治・大正・昭和）の詩論を読む。

- ・漢詩、和歌、俳諧の詩学
- ・岩野泡鳴の詩論
- ・萩原朔太郎の詩論
- ・西脇順三郎の詩論
- ・小野十三郎の詩論
- ・伊藤信吉の詩人論
- ・武者小路実篤と詩語

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

日本文学史（小西甚一著 講談社学術文庫）
伊藤信吉著作集第4巻（沖積舎）
武者小路実篤詩集（角川文庫）
詩を読む人のために（三好達治著 岩波文庫）
詩とは何か（嶋岡辰著 新潮選書）

散文創作理論Ⅰ

三木卓

【授業の概要】

近代・現代の代表的な作家における小説作法や小説観等の創作に関わる理論的な発言を検討しながら、それらが実際の小説作品の上にどのような表現として反映されているか、という問題を解析的に考えていく。

【授業計画】

- 第1回 小説の創造について
- 第2～6回 近代小説の変遷
- 第7～11回 近代小説の諸理論
- 第12回 総括と議論

【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

開始時に指示する。

【参考文献・資料】

同上

詩歌創作理論Ⅱ

荒川洋治

【授業の概要】

韻文作品を成立させる方法論・技術論・修辞学に関する体系的理論のうち、主として現代詩に関する代表的なものを検討すると同時に、そうした創作理論と現代詩のテキストとの相互性を多角的に検証し、理論と実作の有機的な関係をとらえる。

【授業計画】

戦後の詩論を読む。

- ・小野十三郎の詩論
- ・田村隆一の詩論
- ・高見順「三人の詩について」
- ・粟津則雄の現代詩史

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩手帖（小野十三郎著 創元社）
高見順全集第16巻（勁草書房）

散文創作理論Ⅱ

三木卓

【授業の概要】

リアリズム理論をはじめとする、近代・現代の体系的な小説創作理論を検討し、創作主体の姿勢・素材の選択・主題による素材の再構成・プロットの構想・登場人物の設定等の小説を成立させる諸問題との関係を考えていく。

【授業計画】

- 第1回 現代小説の諸問題
- 第2～6回 リアリズムの手法ならびに理論
- 第3～11回 脱リアリズムの手法ならびに理論
- 第12回 総括と議論

【評価方法】

皆出席を原則とする。出席ならびに、受講態度、議論に臨む姿勢、レポート内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

開始時に指示する。

【参考文献・資料】

同上

映像創作理論 I

若松孝二

【授業の概要】

多くの創作表現ジャンルの中で、映画という動く映像表現の際立った特性を、その制作方法に関わる基礎的な理論および技術を通して考える。教材として、日本・外国映画の代表的な作品を用い、具体的な検討をしていく。

【授業計画】

映画製作のための作品分析と技法を学ぶ

1. 映画を作ることは？
2. 「寝盗られ宗介」鑑賞
3. 同作品の分析と技法の解明
4. 「エンドレスワルツ」鑑賞
5. 同作品の分析と技法の解明
6. 「キスより簡単」鑑賞
7. 同作品の分析と技法の解明
8. 「天使の恍惚」鑑賞
9. 同作品の分析と技法の解明
10. 「狂走情死考」
11. 同作品の分析と技法の解明
12. 映像の表現とカメラ位置について
13. シナリオの作成方法

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する

映像創作理論 II

若松孝二

【授業の概要】

映画の創作理論として、モニタージュ理論・リアリズム理論・フォトジェニー論等多くの歴史的成果が挙げられるが、これらをつぶさに検討しながら、現代映画が時代社会や、そこに生きる人間を映像化していく新たな理論の可能性について考えていく。

【授業計画】

映画とテレビの表現方法の相違、海外での製作、プロデューサーの役割について探究する。

1. テレビドラマ「ウェディング・ベル」の鑑賞と分析
2. 映画とテレビ製作との相違について
3. 「シンガポール・スリング」鑑賞
4. 海外での映画製作の実態について
5. 「愛のコリーダ」鑑賞
6. プロデューサーの役割について
7. 映画の予算の組み立て方
8. 俳優を指導する方法
9. シナリオの役割について

【評価方法】

作品を分析したレポートで評価する。

創造表現特別演習 I a (詩)

荒川洋治

【授業の概要】

現代詩の優れたテキストを読みこみ、実践的な創作方法や技術を踏まえながら、詩作品の創作演習を行っていく。同時に、創作作品に対する批評も行い、実作と批評の基礎的な知識と技能を学んでいく。

【授業計画】

現代詩（戦後）の作品をもとに、実作の基本を学ぶ。

- ・西脇順三郎「旅人かへらず」
- ・草野心平「原音」他、年次詩集
- ・山之口鏡と詩集
- ・蔵原伸二郎「定本 岩魚」
- ・田村隆一、黒田三郎の世界
- ・北村太郎、石原吉郎、石垣りの作品
- ・改行という思想
- ・飛躍とは何か
- ・構成と秩序
- ・ことばの化学

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

西脇順三郎詩集（岩波文庫）
草野心平詩集（岩波文庫）
山之口鏡詩文集（講談社文芸文庫）
現代詩文庫・田村隆一詩集（思潮社）他
戦後詩（寺山修司著 ちくま文庫）

創造表現特別演習 I b (詩)

荒川洋治

【授業の概要】

「創造表現特別演習 I a (詩)」に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。詩作品の創作演習とその批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を授業のねらいとする。

【授業計画】

1970年以降の作品を読みながら、現代詩の実作を試みる。

- ・飯島耕一「ゴヤのファースト・ネームは」
- ・永瀬清子「あけがたにくる人よ」
- ・鈴木志郎康「青草の上に」
- ・井坂洋子、福岡健二、松井啓子の作品
- ・北村太郎「ぼくの現代詩入門」
- ・意味、リズム、呼吸
- ・「あたりしさ」とは何か
- ・時代と時間

【評価方法】

出席状況とレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代詩文庫・井坂洋子詩集（思潮社）他
北村太郎の仕事第3巻（思潮社）
忘れられる過去（荒川洋治著 みすず書房）

創造表現特別演習Ⅱ a (短歌)

島田修三

【授業の概要】

主として前衛短歌から現代短歌にいたる多様な現代短歌のテキストを読みながら、短歌作品の創作演習を行っていく。また提出された作品には、必ず歌会形式の相互批評・鑑賞を行い、実作と批評・鑑賞の基本的な素養を学んでいく。

【授業計画】

- 第1回 授業プログラムの概説
- 第2回 戦後短歌の概説と討議 1
- 第3回 戦後短歌の概説と討議 2
- 第4回 前衛短歌の概説と討議 1
- 第5回 前衛短歌の概説と討議 2
- 第6回 前衛短歌の概説と討議 2
- 第7回 ポスト前衛短歌の概説と討議 1
- 第8回 ポスト前衛短歌の概説と討議 2
- 第9回 ポスト前衛短歌の概説と討議 3
- 第10回 課題創作演習 1
- 第11回 課題創作演習 2
- 第12回 課題創作演習 3
- 第13回～個人指導

【評価方法】

出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価
以上の3点を総合して評価する。

【テキスト】

現代の短歌—100人の名歌集 (篠弘 三省堂)

【参考文献・資料】

- ・現代短歌全集 第1巻～第17巻 (筑摩書房)
- ・現代歌人文庫 (国文社)
- ・現代短歌文庫 (砂子屋書房)

創造表現特別演習Ⅲ a (小説・評論)

清水良典

【授業の概要】

主に戦後から現代にいたる小説と評論を読みながら、現代文学の特質を検討しつつ、それを踏まえながら小説・評論の創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

【授業計画】

現代文学における三つの問題作をテキストとして購読しながら、作品に潜められた特質を各自のモチーフに反映させた創作 (10～20枚) を発表しあい、討議する。

- 第1・2回 『枯木灘』購読
- 第3・4回 創作討議
- 第5・6回 『レストレス・ドリーム』購読
- 第7・8回 創作討議
- 第9・10回 『くっすん大黒』購読
- 第11・12回 創作討議

なお、前期授業終了後の夏期休暇期間に30枚～50枚程度の創作を、後期に備えて執筆しなければならない。

【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

【テキスト】

- 枯木灘 (中上健次著 河出文庫)
- レストレス・ドリーム (笙野頼子著 河出文庫)
- くっすん大黒 (町田康著 文春文庫)
- 上記以外にも、各作家の作品をできる限り入手し、読むことが求められる。

【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見 1～18巻 (講談社文芸文庫)

創造表現特別演習Ⅱ b (短歌)

島田修三

【授業の概要】

「創造表現特別演習Ⅱ a (短歌)」に継続する授業であり、授業方法は基本的には変わらない。継続的に義務づけられる、短歌作品の創作演習とその批評・鑑賞によって、より高い水準を示す現代短歌の創作をはかる。

【授業計画】

- 第1回 授業プログラムの概説
- 第2回 現代短歌新作の読解と討議 1
- 第3回 現代短歌新作の読解と討議 2
- 第4回 自由創作演習 1
- 第5回 自由創作演習 2
- 第6回 現代短歌新作の読解と討議 3
- 第7回 現代短歌新作の読解と討議 4
- 第8回 自由創作演習 3
- 第9回 自由創作演習 4
- 第10回 現代短歌新作の読解と討議 5
- 第11回 自由創作演習 5
- 第12回 課題創作演習 6
- 第13回～個人指導

【評価方法】

出席状況・課題創作作品の評価・学期最終レポートの評価
以上の3点を総合して評価する。

【テキスト】

短歌入門 (島田修三 池田書店)

【参考文献・資料】

- ・現代の短歌—100人の名歌集 (篠弘 三省堂)
- ・現代歌人文庫 (国文社)
- ・現代短歌文庫 (砂子屋書房)
- ・月刊短歌総合誌「短歌」、「短歌研究」、「歌壇」、「短歌往来」

創造表現特別演習Ⅲ b (小説・評論)

清水良典

【授業の概要】

創造表現特別演習Ⅲ a に継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。小説・評論の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

授業に先立って、50枚程度の創作 (評論作品も含む) を提出する。また、第3回終了時、第6回終了時にも、それぞれ30枚程度の創作を提出する。

- 第1～3回 創作合評 1
- 第4～6回 創作合評 2
- 第7～9回 創作合評 3
- 第10～12回 討議

修了作品として100枚程度の創作を仕上げ、公募の新人文学賞に応募する。

【評価方法】

皆出席を原則とする。討議の態度と質、創作の質等を総合的に評価する。

【テキスト】

毎月の各文芸雑誌 (『新潮』『群像』『文学界』『すばる』『文芸』等) を購読する。
特に、各誌の新人賞受賞作品は必ず授業で取り上げ、討議する。

【参考文献・資料】

戦後短篇小説再発見 1～18巻 (講談社文芸文庫)

創造表現特別演習Ⅳ a (童話)

酒井晶代

【授業の概要】

近代から現代にかけての童話を批評的に読むことを通して、童話に対する問題意識を高めながら、創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

【授業計画】

演習Ⅳaでは、主として近代童話をとりあげる。「作者／読者」「子ども／大人」「文学／教育」等を着眼点としてテキストを精読し、童話・児童文学のジャンルの特質を考察したい。さらに、創作する(書く)立場からテキストに向き合うことを通して、歴史的評価の再検討や作品の読みかえを試みる事ができたら、と思っている。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
- 第2回 近代児童文学史をふりかえる(1):明治期
- 第3回 近代児童文学史をふりかえる(2):大正期
- 第4回 近代児童文学史をふりかえる(3):昭和戦前・戦中期

第5回～作品の講読とディスカッション(創作演習を含む)

授業は、レポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。テーマ設定によっては、小論文に代わって短編創作を課題とすることもありうる。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

- ・日本児童文学大系<全30巻>(ほるぷ出版)
 - ・児童文学名作全集<全5巻>(井上ひさし編 福武文庫)
 - ・日本児童文学名作集<上・下>(桑原三郎・千葉俊二編 岩波文庫)
- その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特別演習Ⅳ b (童話)

酒井晶代

【授業の概要】

創造表現特別演習Ⅳaに継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。童話の実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、文学作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

演習Ⅳbでは、主として現代児童文学をとりあげる。引き続き「作者／読者」「子ども／大人」「文学／教育」等を着眼点としながら、作品と評論を並行して精読し、現代児童文学の方法的到達点と課題を考察、創作の糧とすることを目指す。

- 第1回 授業の進め方、全体計画について
- 第2回 現代児童文学の起点をめぐって
- 第3回～作品と評論の講読、ディスカッション(創作演習を含む)

前期と同様、授業はレポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。テーマ設定によっては、小論文に代わって短編創作を課題とすることもありうる。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

- ・児童文学名作全集<全5巻>(井上ひさし編 福武文庫)
 - ・現代童話<全5巻>(今江祥智・山下明生編 福武文庫)
 - ・新潮現代童話館<全2巻>(今江祥智・灰谷健次郎編 新潮文庫)
 - ・戦後児童文学の50年(日本児童文学者協会編 文溪堂)
- その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特別演習Ⅴ a (映画)

若松孝二

【授業の概要】

世界の映画を参照しつつ、日本映画の歴史と技法を学びながら、現代的なニーズに応える映画の創作演習を行う。そのためにまずシナリオを書き、相互間で批評を交わしながら、演出のセンスを高めていく。

【授業計画】

前後期を通して4本の作品を、各自のシナリオをもとに映画製作する。

1. シナリオを各自作成する
2. シナリオの選評と映画製作のためのシナリオを選出する。
3. カメラ、照明器具の役割について
4. グループ別に映画製作に入る
- 5～10. 映画製作
11. 12. 編集作業
13. 音入れ
14. 製作作品の発表と合評

【評価方法】

シナリオ及び監督作品と製作過程における各自の活動で評価する。

創造表現特別演習Ⅴ b (映画)

若松孝二

【授業の概要】

創造表現特別演習Ⅴaに継続する演習授業であるが、シナリオ創作のうちに映画の制作演習を行う。撮影と編集の実践演習と相互間の批評の積み重ねを通して、映画作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

後期は、前期の方法論を受け継ぎ、さらに2本の作品を別監督で映画製作する。

1. シナリオを各自作成する
2. シナリオの選評と映画製作のためのシナリオを選出する。
3. グループ別に映画製作に入る
- 4～10. 映画製作
11. 12. 編集作業
13. 音入れ
14. 製作作品の発表と合評

【評価方法】

シナリオ及び監督作品と製作過程における各自の活動で評価する。

創造表現特別演習VIa (アニメ・コミック)

とりいかずよし

【授業の概要】

現代のアニメ・コミックの特質と技術を検討しつつ、それを踏まえながらアニメ・コミックの創作演習を行う。同時に相互間の真剣な批評を行い、それを通して批評眼と創作のセンスを高める。

【授業計画】

基本的アニメ・コミックの習得

- A 過去から現在に至るまでの進化と変化
- B 多様化における実態と検証
- C 国内と外国との比較論
- D 売りたいものと売れなくてもよいものとは何か？
(以上アニメ、コミックについてのことです)

【評価方法】

感性、考察、着眼点、説得力

【テキスト】

その都度、授業内容とテーマに合わせて作成

【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等
※入手可能な成否を精査し検討

創造表現特別演習VIb (アニメ・コミック)

とりいかずよし

【授業の概要】

創造表現特別演習VIaに継続する演習授業であり、基本的には上記と同じ方法で行う。アニメ・コミックの実践的創作演習と相互間の批評の積み重ねを通して、作品としての完成度を備えた作品の創造を目指す。

【授業計画】

実践的アニメ・コミックの創作

- A テーマのを見つけ方
- B シナリオ(ネーム)の作り方
- C 作品制作
 - (1) コマ割り
 - (2) 構成
 - (3) キャラ作り

【評価方法】

テーマの発想、感性、自己表現力、絵の巧拙

【テキスト】

その都度作成

【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等
※入手可能な成否を精査し検討

ライフ・ライティング実作演習(随筆・自分史)

清水良典

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、随筆あるいは自分史の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

講義内で文章を書きながら、そのつど相互批評をしていくが、第10回までに各自のモチーフに従った作品(10~20枚程度)を執筆提出する。

- 第1回 ライフ・ライティングとは何か
- 第2・3回 「記憶」を書く
- 第4回 相互批評
- 第5~7回 文体づくりの試み
- 第8・9回 相互批評
- 第10~11回 提出作品の相互批評
- 第12回 全体講評

【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

【テキスト】

自分づくりの文章術(清水良典著 ちくま新書)

【参考文献・資料】

新作文宣言(梅田卓夫著 ちくま学芸文庫)

フィクション実作演習I(短篇小说)

清水良典

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、短篇小说の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

第10回までに、短篇小说(20~30枚程度)を提出する。

- 第1回 短篇小说の特質
- 第2~6回 「描写」の練習
- 第7~9回 短篇小说の技術を読む
- 第10~12回 相互批評と講評

【評価方法】

集中講義形式なので、皆出席を原則とし、提出された作品の質によって評価する。

なお、優秀作品は、大学院ホームページ等で公開する。

【テキスト】

戦後短篇小说再発見10 表現の冒険(講談社文芸文庫)

【参考文献・資料】

戦後短篇小说再発見1~18(講談社文芸文庫)

フィクション実作演習Ⅱ(童話・ファンタジー)

酒井晶代

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、童話あるいはファンタジーの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する

【授業計画】

400字詰原稿用紙10～20枚程度の短編を完成させることを目標とする。構想から完成に至る一連の作業を通して、童話・児童文学の特質を体験的に学ぶ場としたい。また、合評会をはじめとする受講者間の共同作業と交流を通して、作品の推敲や批評の方法も身に付けていきたい。

第1回 授業の進め方、全体計画について

第2回～作品の構想・執筆・推敲

第12回 完成作品の合評会

執筆段階をいくつか区切って、課題を提出してもらう予定。授業は、各自の課題発表と相互批評を中心に進めていく。課題の執筆は自宅作業になる場合もあるので、注意すること。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

未定。授業時に適宜指示する。

現代詩実作演習

荒川洋治

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代詩の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

20編前後の「量的」詩作を試み、一冊の「詩集」を提示する。

- ・詩集の著者とは何か
- ・テーマについての考え方
- ・題名と配列
- ・割付と活字
- ・詩集の余白と美術
- ・詩集の形態と流通
- ・ことばはどこから、詩になるのか
- ・詩のつくり方と、こわし方
- ・発表と読者

【評価方法】

提出された作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

特になし。

現代短歌実作演習

篠弘

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、現代短歌の実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

定型詩としての短歌、その機能と魅力を理解するところから、表現の基本をつかむ。提出された短歌の添削と批評を実施し、現代短歌のレベルを目指した実作の指導をおこなう。

1. 定型のなりたち
2. 叙事と叙情
3. 心情の具象化
4. 写実の役割
5. 発想の単純化
6. 用語の選択
7. 比喩の活用
8. 個性の発見
9. 生活態度の反映
10. 連作の試み
11. 作品鑑賞の要点

【評価方法】

出席状況、授業内に提出された短歌、さらに題詠の成果等を総合的に評価する。

【テキスト】

生き方の表現（篠弘著 日本放送出版協会）

疾走する女性歌人（篠弘著 集英社新書）

シナリオ実作演習

海上宏美

【授業の概要】

3週間程度の限定された期間で、シナリオの実践的な創作を試み、ワークショップ作品として提出する。

【授業計画】

抽象的な思考と具体的な手法を往還する発想法を練習する。

1. 主題を考える
2. 物語の語り手は誰なのかを考える
3. 叙情なのか叙事なのか語り口を考える
4. 物語の場面構成を考える
5. ジェンダーを考える
6. 台詞の役割と分量を考える
7. 始まりと終わりを考える

【評価方法】

出席状況と提出作品で評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜授業内で指示する。

創造表現特講Ⅰ（現代詩）

宮崎真素美

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な詩や詩論を主な手がかりとして、現代詩の変遷を検証するとともに、創作理論・主題・様式・修辞といった方法を多角的に検討し、詩は時代の問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

「荒地」派の詩と詩論をめぐる以下のような観点から、日本の戦後詩について考察する。

1. 「荒地」派とは何か（1）
2. 「荒地」派とは何か（2）
3. 黒田三郎の詩と詩論（1）
4. 黒田三郎の詩と詩論（2）
5. 鮎川信夫の詩と詩論（1）
6. 鮎川信夫の詩と詩論（2）
7. 鮎川信夫の詩と詩論（3）
8. 「荒地」派の周辺
9. 「荒地」派の影響
10. 「荒地」派をめぐる評価

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布。

創造表現特講Ⅲ（現代小説）

清水良典

【授業の概要】

戦後から現在までの代表的な創作や評論を主な手がかりとして、現代小説の変遷を検討するとともに、文学理論・主題・モチーフ・人物造型・文体といった方法を多角的に検討し、小説は時代の病理や問題をどのように作品化し得るか、あるいはどのように時代を超え得るかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

テキスト購読と講義を主としつつ、相互の討議と調査・報告を課す。

- 第1回 現代文学概論
- 第2～4回 村上春樹を解説する
- 第5～7回 高橋源一郎を解説する
- 第8～10回 村上龍を解説する
- 第11～12回 総括と討議

なお、指定テキスト以外にも、現代文学関係の書籍を大量に読む必要がある。

【評価方法】

出席は皆出席を前提とする。受講態度ならびに討議の積極性、調査・報告の質等を総合的に考慮して評価する。

【テキスト】

- 羊をめぐる冒険（村上春樹著 講談社文庫）
さようなら、ギャングたち（高橋源一郎著 講談社文芸文庫）
トパーズ（村上龍著 角川文庫）
上記以外は、指示する。

【参考文献・資料】

文学がどうした!?（清水良典著 毎日新聞社）

創造表現特講Ⅱ（現代短歌）

篠弘

【授業の概要】

戦後短歌から前衛短歌にいたる戦後短歌史を踏まえながら、主として1980年代以降の代表的歌人の作品を題材に、その創作理論・主題・修辞といった方法を多角的に検討し、現代をどのように作品化していくかという創作方法について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 近代短歌から現代へ
- 第2回 戦後短歌の運動
- 第3回 第二芸術論議
- 第4回 民衆詩としての短歌
- 第5回 前衛短歌の時代
- 第6回 女性歌人の興隆
- 第7回 リアリズムの変質
- 第8回 主題の獲得
- 第9回 喩的表現の拡大
- 第10回 美意識の深化
- 第11回 文体の確立
- 第12回 口語的発想
- 第13回 アイロニカルトーン
- 第14回 アニミズムの浸透
- 第15回 自然観の変容

【評価方法】

出席状況、授業内の数回の小レポート、学期末の課題レポート等を総合的に評価する。

【テキスト】

現代の短歌—100人の名歌集（篠弘編著 三省堂）

創造表現特講Ⅳ（童話）

酒井晶代

【授業の概要】

近現代の代表的な創作や児童文学論を主な手がかりとして、日本児童文学史を検証するとともに、主題・モチーフ・文体等の方法のみならず、広く社会史や文化史の視点から子ども観の変容を検討し、「子どもの文学」の創作方法とその独自性について学ぶ。

【授業計画】

近年刊行された児童文学関係の理論書から一冊を選び、演習形式で講読していく。児童文学研究は、作家・作品論のほか、読者論やメディア論といった社会・文化史的なアプローチなど、さまざまな文学理論の影響下でその幅を広げつつある。一方で、研究の深まりや多様化とともに、従来の「文学」の枠組みを解体する、より大きな視座の必要性も指摘されるようになってきた。理論書の講読を通して、児童文学をめぐる言説の最前線と現代的課題を考える場としたい。

第1回 授業の進め方、全体計画について

第2回 児童文学研究の現在

第3回～理論書の講読

授業は、レポーターが調査・分析したことをレジュメにより報告し、受講者全員で討議する演習形式で進めていく。報告のまとめとして小論文の提出を求めることがある。

【評価方法】

出席状況、発表内容や質疑応答の様子、課題などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定。授業時に指示する。

【参考文献・資料】

・研究=日本の児童文学<全5巻>（日本児童文学学会編 東京書籍）
その他の参考文献は、授業時に適宜指示する。

創造表現特講V (アニメ・コミック)

とりいかずよし

【授業の概要】

手塚治虫作品とその影響下にある戦後漫画・コミックおよび宮崎駿などのアニメーション作品を主な題材として、広く社会史や文化史の視点も導入しながら、表象文化としてのアニメ・コミックの芸術的特質や機能を考察し、その可能性を生かした創作方法について学ぶ。

【授業計画】

実践的アニメ・コミックの習作

- A アニメ化するコミックとそうでないコミックとは？
- B 読者のピンポイント化するコミック界の現況

【評価方法】

感性、表現、創作、将来性等の巧拙

【テキスト】

その都度対応して作成

【参考文献・資料】

広範なコミック雑誌、単行本、アニメビデオ等
※入手可能な成否を精査し検討

創造表現各論I (詩学)

宮崎真素美

【授業の概要】

近現代の詩作品を主な手がかりとして、「ことば」をめぐる哲学や現代思想の変遷も念頭に置きながら、詩の本質や詩的言語の規則・方法に関する批評的解説の方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

明治初期の詩作品に見られる伝統的古典詩歌に対する意識の錯綜を通して、その連続と切断のありよう、および詩学の確立への模索について、以下の観点から考察する。

1. 『新体詩抄』の詩と思想 (1)
2. 『新体詩抄』の詩と思想 (2)
3. 『新体詩抄』の詩と思想 (3)
4. 近代詩と伝統歌謡 (1)
5. 近代詩と伝統歌謡 (2)
6. 近代詩と伝統歌謡 (3)
7. 『新体詩歌』の詩と思想 (1)
8. 『新体詩歌』の詩と思想 (2)
9. 『新体詩歌』の詩と思想 (3)
10. 鷗外の役割

【評価方法】

講義における発言内容、および学期末に課すレポートの双方によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント配布

創造表現各論II (シナリオ論)

海上宏美

【授業の概要】

近現代の代表的なシナリオ作品を主な手がかりとして、放送史をはじめとするメディアの変遷も念頭に置きながら、主題・ストーリー・人物造型・台詞・場面構成などの方法を多角的に検討し、シナリオ表現の特質や創作に関する諸方法について学ぶ。

【授業計画】

言葉であるシナリオに基づいて表現された作品構造全体において、その基盤となるシナリオの言葉がどのような機能を担っているのかを、構造(主義)・語法・技術(史)などの面から探っていく。

1. メディアの変遷
2. 観客の変遷
3. テキスト(シナリオ)の位置
4. 語法と人称性の問題
5. 大きな物語と小さな物語の違い
6. 台詞における口語的表現と文語的表現の違い
7. 描く対象(主題)の選択が意味するもの
8. 表象されるジェンダーについて
9. 物語と無意識

【評価方法】

出席状況とレポート提出で評価する。

【テキスト】

授業内で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

創造表現各論III (舞台芸術論)

角田達朗

【授業の概要】

演劇の重要な構成要素である「舞台」の歴史的展開を主な手がかりとして、照明・音響・映像による舞台効果にも目配りしながら、演劇空間あるいは場面転換装置としての舞台の機能や特質とその解説方法について多角的かつ理論的に学ぶ。

【授業計画】

舞台芸術は生(ライブ)の芸術であり、生の上演に接することなしに舞台芸術への理解を深めることは不可能である。よって、この授業では鑑賞課題を2本設定し、鑑賞ノートの提出を課すものとする。課題を鑑賞するまでは、舞台芸術の歴史について、芸能や演劇がいかんして誕生したか、上演において舞台が果たす役割はどのようなものかを概説する。鑑賞ノート提出以降は、レポートを編集したプリントをテキストとして使用し、上演への理解を深めて行く。

【評価方法】

鑑賞ノート・劇評

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

国際交流研究 I (基礎)

榎田勝利

【授業の概要】

「非軍事的なあらゆる手段で途上国の人々を支援する試み」と定義されている国際協力の基礎的な理念、仕組みを検証するとともに、国際協力の新しいアプローチを作り出している背景要因を学ぶ。

【授業計画】

1. 講義のねらいと評価の方法
2. 国際協力の概念
3. 国際協力の新しい潮流
4. 国際協力のアクター I (国連、国際機関)
5. 国際協力のアクター II (政府援助機関-JICA・OECD, USAID, AFD, CIDA, GTZ, DFID)
6. 国際協力のアクター III (NGO, 欧米の NGO と日本の NGO)
7. 国際協力の方法 I (政府開発援助-ODA)
8. 国際協力の方法 II (地方自治体)
9. 国際協力の方法 III (NGO, ボランティア)
10. 開発課題と国際協力 (貧困、人口、食料、教育、保健、難民、ジェンダー、児童労働、少数民族、環境、都市スラム、開発と保存)
11. 国際協力事業の評価
12. 国際協力の果たす役割

【評価方法】

平常の出席・遅刻状況、毎回の講義の際の貢献度、最終課題レポートにて評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

国際協力 (下村・辻・稲田・深川著 有斐閣選書)
国際協力 (功刀達郎編著 サイマル出版会)
国際連合の基礎知識 (国際連合広報局 世界の動き社)
政府開発援助 (ODA) 白書 (2001年版外務省・経済協力局発行)
UNDP・人間開発報告書 (2002年版 国連開発計画編 国際協力出版会)
国際協力用語集第2版 (国際開発ジャーナル社)
ボランティア学のすすめ (内海成治編著 昭和堂)

国際文化研究 A I (言語系基礎)

中野弘三

【授業の概要】

英語学の研究対象や研究分野を概観し、新言語学に基づく英語学研究的現状と言語を科学的に分析する視点を学ぶ。

【授業計画】

<言語の構造>

1. 文の統語構造
2. 文の意味構造
3. 語の構造
4. 語の音声構造
5. 語の意味構造

<言語の機能>

6. 文の発話の機能
7. 文の構成要素の機能
8. 文の意味解釈
9. 文と談話
10. 談話標識の機能

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

英語学セミナー (高橋勝忠・福田稔 松柏社)

【参考文献・資料】

Linguistics: An Introduction to Language and Communication (4th Edition 1995 A. Akmajian, R.A. Demers, A.K. Farmer, and R.M. Harnish / The MIT Press)
Syntactic Theory and the Structure of English: A Minimalist Approach (1997 A. Radford / Cambridge University Press)
Morphology (1993 F. Katamba / Macmillan Press)
An Introduction to Functional Grammar (2nd Edition 1994 M.A.K. Halliday / Arnold)
Semantics (2000 K. Kearns / Macmillan Press)
Pragmatics (1996 G. Yule / Oxford University Press)

国際交流研究 II (発展)

皆川修吾

【授業の概要】

「国際秩序の統治」と定義されているグローバル・ガバナンスの概念の国際関係における有効性と限界について研究し、国際秩序が制度化されていくプロセスを経験的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 国際システムの構造とプロセス
- 第2講 バランス・オブ・パワーの教訓
- 第3講 集団安全保障の挫折
- 第4講 冷戦
- 第5講 権力と国際法
- 第6講 国際連合の役割
- 第7講 相互依存の管理体制の必要性
- 第8講 1) 開発政策
- 第9講 2) 世界経済
- 第10講 3) 国際協力
- 第11講 グローバル・ガバナンスの構造
- 第12講 国際秩序制度化の今後の課題
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)
グローバル・ガバナンス: 政府無き秩序の模索 (渡辺昭夫編著 東大出版)
グローバル化とは何か (デヴィット・ヘルド編著 法律文化社)
現代国際関係学 (新藤栄一著 有斐閣)
国際紛争 (ジョセフ・ナイ著 有斐閣)
地球政治の構想 (猪口孝著 NTT出版)
グローバル・ポリティクス (小林誠・遠藤誠治編著 有信堂)

国際文化研究 A II (言語系発展)

大野清幸

【授業の概要】

英語や日本語などにおける特定の研究対象を選択し、新言語学における特定の理論に基づき、言語を科学的に分析する実際の学び。

【授業計画】

- 第1講 PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること!
- 第2講 PC実践教室において、認知言語学など関連分野の本物情報を検索・探索する。
- 第3講 1) 学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
授業においては、基本的に、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート: 現代英語に関する研究題材を選び、

- (1) 先行研究を調査し、
- (2) 仮説をたて、
- (3) データを採集・整理し、
- (4) 理論の枠組みで分析し
- (5) 論文としてまとめ、提出する。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

【参考文献・資料】

認知文法論 (1995 山梨正明 ひつじ書房)
認知言語学原理 (2000 山梨正明 ころしお出版)
認知言語学論考 No.1 (2001 山梨正明編著 ひつじ書房)
認知言語学論考 No.2 (2002 山梨正明編著 ひつじ書房)
現代言語学の潮流 (2003 山梨正明編著 勁草書房)
認知意味論: 英語動詞の多義と構造 (1990 田中茂範 三友社出版)
認知意味論 (1993 George Lakoff著 池上嘉彦・河上誓作他訳 紀伊國屋書店)
認知意味論の原理 (1994 中右実 大修館書店)
認知意味論の方法: 経験と動機の言語学 (1995 吉村公宏 人文書院)
認知言語学の基礎 (1996 河上誓作編著 研究社出版)
認知言語学の発展 (2000 坂原茂編 ひつじ書房)
認知言語学 (2000 定延利之 大修館書店)
認知意味論の展開: 語源学から語用論まで (2000 Eve E. Sweetser著 澤田治美訳 研究社出版)
ことばの認知科学事典 (2001 辻幸夫編 大修館書店)
認知意味論のしくみ (2002 杉山洋介 研究社)

国際文化研究 B I (文化系基礎)

平林美都子

【授業の概要】

20世紀に入って顕著になってきた異文化接触のコロナリズムやポストコロナリズムなどの諸問題を、様々な文化批評理論から系統的に学ぶ。

【授業計画】

Frantz Fanon, Homi Bhabha, Edward Said, Stuart Hallらの主要論文を読み、コロナリズム、ポスト・コロナリズム理論を理解する。

1. Frantz Fanon とコロナリズム
2. Homi Bhabha
3. Edward Said とオリエンタリズム
4. ポスト・コロナリズム

なお、英文原書の講読が中心のため、英語力が必要である。

【評価方法】

出席およびレポートによる。

【テキスト】

Patrick Williams and Laura Chrisman eds. *Colonial Discourse and Post-Colonial Theory* (Columbia University Press)

国際文化研究 B II (文化系発展)

杉本一直

【授業の概要】

ロシア亡命者の文学作品や芸術作品を講読・鑑賞し、「国文学」「伝統文化」という概念とは対極のないわば「脱領域」的な表現様式、あるいはグローバルな普遍性を獲得しようとした亡命者たちの創作意識を考察する。

【授業計画】

英文による原典講読を中心とし、あわせて文学研究の方法論を学ぶ。原典講読のテキストとして、国外からアメリカへ移住した作家のなかでもっともアメリカの読者やアメリカ人作家に愛読された作家のひとり、ウラジーミル・ナボコフの代表作『ロリータ』を使用し、ヨーロッパ文化とアメリカ文化との相克を作品のなかに読み取っていく。また、サブテキストとして、ナボコフを含めた亡命作家たちの文学について論じた研究書や、20世紀アメリカ文学におけるコスモポリタニズムについて論じた研究書等を用い、現代アメリカ文学の根底に流れる形而上の本質、つまり脱領域的(extraterritorial)本質についての理解を促す。

第1回 概説

第2回～第4回 原典講読

第5回 サブテキスト解説

第6回～第8回 原典講読

第9回 サブテキスト解説

第10回～第13回 原典講読

第14回 サブテキスト解説

第15回 総論

【評価方法】

学期末レポートと平常点により評価する。

【テキスト】

Vladimir Nabokov "The Annotated Lolita" Random House Inc.

【参考文献・資料】

徹夜の魂／亡命文学論 (沼野充義著 作品社)
言語の都市 (トニー・タナー著 白水社)
脱領域の知性 (ジョージ・スタイナー著 河出書房新社)

国際交流特別演習 I a (ODA・NGO)

榎田勝利

【授業の概要】

政府開発援助 (ODA) の基本理念、国際協力スキームの検証と現状、および非政府組織 (NGO) の基本理念と特長、実態を学ぶとともに、ODAとNGOとの連携を検討する。

【授業計画】

授業では、我が国の政府開発援助 (ODA) の中でも、「顔の見える国際協力」といわれる技術協りに焦点をあて、その実践事例を視聴覚教材を用いて ODA を考察する。具体的には、技術協力実施機関である独立行政法人「国際協力機構」(JICA) の国際協力スキーム (技術協力、無償資金協力、国際緊急援助、評価、プロジェクト・マネジメント) を検証するとともに JICA が派遣する専門家、青年海外協力隊、シニアボランティア等の活動事例も紹介する。また、授業では、非政府組織 (NGO) の基本理念と特徴、現状における課題・問題点等について、NGO の活動事例を視聴覚教材を用いて考察する。さらに、ODA と地方自治体、ODA と NGO との望ましい連携のあり方についても実践事例をもとに考察する・授業は、講義、調査、発表、討論という形式で受講者全員の参加を基本にしてすすめる。

【評価方法】

試験は行わない。出席・遅刻状況、毎回の演習での貢献度、発表・討議の内容を、総合的に評価して採点する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

国際協力の基礎知識 (国際協力事業団監修 国際開発ジャーナル社発行)
政府開発援助 (ODA) 白書 (2002年版 外務省・経済協力局発行)
ODA 大綱の政治経済学 (下村・中川・斉藤著 有斐閣)
ODA の正しい見方 (草野厚著 筑摩書房)
日本の ODA をどうする (渡辺利夫・草野厚著 NHK ブックス)
NGO とは何か (伊勢崎賢治著 藤原書房)
NGO ダイレクトリー2002 (国際協力 NGO センター JANIC 編集・発行)
NGO データブック2002 (国際協力 NGO センター JANIC 編集・発行)

国際交流特別演習 I b (ODA・NGO)

榎田勝利

【授業の概要】

国際交流特別演習 I a (ODA・NGO) に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。とくに、ODA と NGO との連携の現状を学び、理論と実践の整合性を検討する。

【授業計画】

授業は、国際交流特別演習 I a (ODA・NGO) を基礎にして、より実践的な ODA、NGO の方法論について学ぶ。具体的には、情報収集・調査・分析、協力事業の企画立案、海外における危機管理、フィールドワークの基礎を学ぶとともに、NGO のマネジメント (リクルートメント、リサーチ、企画立案・運営、ファンドレイジング、広報、会計、ボランティア・マネジメント等) についても学ぶ。授業は、講義、調査、発表、討論という形式で受講者全員の参加を基本にしてすすめる。受講者には、国際協力現場でのフィールドワーク、インターンシップ、ボランティア参加をすすめる。

【評価方法】

試験は行わない。出席・遅刻状況、毎回の演習での貢献度、発表・討議の内容を、総合的に評価して採点する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

NGO 運営の基礎知識 (A SEED JAPAN/POWER 共編 アルク)
国際プログラム・オフィサー (GAP (国際公益活動研究会) 著 アルク)
フィールドワークの新技法 (中村尚司・広岡博之著 日本評論社)

国際交流特別演習Ⅱ a（環境と開発）

高島忠義

【授業の概要】

「持続可能な開発」（環境に配慮した開発）の概念が形成された背景には発展途上国に対する従来の開発協力が発展途上国の環境を大きく破壊したという事情があり、その現状を学習する。

【授業計画】

それぞれ別個に発達してきた開発と環境の領域が次第に統合されていくプロセスを辿り、その後は両者を統合した「持続可能な開発」概念の内容を精査していくことにする。

1. 発展途上国の開発理論
2. 環境を無視した開発
3. 世界銀行の開発援助に対する批判
4. 先進国からの公害の輸出：ボパール事件（インド）
5. 地球環境問題の登場
6. 持続可能な開発（1）環境に配慮した開発
7. 持続可能な開発（2）将来世代への配慮
8. 持続可能な開発（3）グッド・ガバナンス（民主主義）
9. 今後の課題

【評価方法】

出席状況と学生自身による報告の評価による

【テキスト】

最初の授業で指示する

国際交流特別演習Ⅱ b（環境と開発）

高島忠義

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅱ a（環境と開発）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。「持続可能な開発」（環境に配慮した開発）の概念の具体化の努力を検証し、開発協力のあり方を学習する。

【授業計画】

1. 開発援助における環境問題
2. 世界銀行の開発援助
3. 世界銀行の開発援助における環境への配慮問題
4. 日本のODAにおける環境問題
5. 日本のODAにおける環境への配慮
6. まとめ

【評価方法】

出席状況と各自の報告に対する評価

【テキスト】

最初の授業で指示します。

国際交流特別演習Ⅲ a（非営利組織）

ブイチトルン

【授業の概要】

非営利組織（NPO）の台頭の背景、定義、役割等の基本的概念を検証するとともに、非営利組織のマネジメント（支援者、マーケティング、財源、広報、事業評価、人材育成等）の実務を検討する。

【授業計画】

本演習は国際開発協力活動を行う国内の非営利組織のマネジメントにおける様々な現況や課題を取り上げ、実務的組織発展のために内部要因、外部要因及び社会環境等を分析・検討する。

各組織の年度報告書はじめ資料収集を行い、また可能であればそれぞれの団体より担当者を招き、説明や議論に参加させる。

ワークショップ形式やプレゼンテーション手法を多く活用することによって参加・協力型学習を通して非営利組織運営の可能性を追求する。

院生には修論課題に関連させ議論等を進める。

【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】

随時参考文献やプリントを配布する。

国際交流特別演習Ⅲ b（非営利組織）

ブイチトルン

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅲ a（非営利組織）に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。

非営利組織のマネジメントの実態と問題点を学習する。

【授業計画】

基本的には国際交流特別演習Ⅲ aと同様な授業計画を行う。内容は国際交流特別演習Ⅲ aが国内NGOを取り上げるのに対して、この演習は海外の主なNGOを対象とするものである。英文資料等を基に演習を行う。国際比較により広範的な組織マネジメントを学習できる。

院生には修論課題に関連させ議論等を進める。

【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。

国際交流特別演習Ⅳ a (グローバル政治)

皆川修吾

【授業の概要】

冷戦崩壊後の分権化・民営化・民主化のグローバルな動きを検討し、グローバル化の負の側面に対する国際公共政策「人間の安全保障」の実態を検討する。

【授業計画】

講義「国際交流研究Ⅱ(発展)」に併せて、下記のテキストごとに課題を設定し、ディスカッション形式で理解を深める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・討議内容、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

国際紛争(ジョセフ・ナイ著 有斐閣)
国際政治とは何か(中西寛著 中公新書)

【参考文献・資料】

グローバル・ガバナンス:政府無き秩序の模索
(渡辺昭夫編著 東大出版)
グローバル化とは何か(デヴィット・ヘルド編著 法律文化社)
国際社会論(ヘドリー・ブル著 岩波書店)
現代国際関係学(新藤栄一著 有斐閣)
比較政治学(ジョヴァンニ・サルトーリ著 早稲田大学出版部)
参照専門誌:
外交フォーラム(外務省編 都市出版社)
国際政治(国際政治学会編 有斐閣)
政治学(日本政治学会編 岩波書店)

国際交流特別演習Ⅴ a (グローバル経済)

家本博一

【授業の概要】

市場経済化、民営化、規制緩和を通じ活性化するグローバル経済の動きと、脱物質社会の価値観を尊重する動きが併存できる21世紀型経済の可能性について検討する。

【授業計画】

本演習では、「開放経済化」、「市場経済化」、「経済と金融のグローバル化」の並行を固有の特徴とする現代経済世界の基本動向を学ぶ一環として、1990年代初め以降顕著な進展を示している東西欧州間での統合過程(欧州連合EUの東方拡大)に焦点を当てた上で、ポーランド、ハンガリー、チェコなど中欧各国が、社会主義時代の遺産をどのように克服し、新たな政治経済システムを構築しつつあるのか(「体制移行」過程)を具体的に学ぶこととする。その際、本演習では、キリスト教社会教説に基づく社会倫理学の視点に基づいて、体制移行過程における「共同善」、「補完性」、「連帯性」の実現への動きについても、併せて学ぶこととする。

<演習の学ぶ事柄>

1. テキスト、ビデオ・DVD教材、年表などを用いて、中欧各国における体制移行の現実を現代経済世界における基本動向の具体事例の一つとして学ぶ。その際、中欧各国での体制移行の進展を促しつつある各種の国際協力プログラムの概要とその具体例についても並行して学ぶこととする。
2. 欧米先進国、ロシア、中国、韓国の企業による対中欧進出の実態を学びつつ、経済と金融のグローバル化の実態について、その一端を学ぶこととする。
3. 現代経済世界の基本動向に関するキリスト教社会教説の「提言」を学びつつ、それが目指す世界像と現代経済世界との「乖離」についても学ぶこととする。
4. 旧東欧各国の具体事例に見られる国際交流の基本方向について、暫定的な仮説を立てた上で、仮説を変更し得る様々な環境条件について検討する。

【評価方法】

・出席状況、課題レポート、討論の三点によって評価する。

【テキスト】

中欧の体制移行とEU加盟(上)ーチェコとスロヴァキア(桑原進著 三恵社 2003年)
中欧の体制移行とEU加盟(下)ーポーランド(家本博一著 三恵社 2003年)

【参考文献・資料】

・国際機関と国内政府機関の公開した資料を順次紹介し、利用する。
・インターネット情報を活用する。

国際交流特別演習Ⅳ b (グローバル政治)

皆川修吾

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅳ a (グローバル政治)に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。国際公共政策「人間の安全保障」の現状とその政治過程を学び、問題点を学習する。

【授業計画】

講義「国際交流研究Ⅱ(発展)」に併せて、下記のテキストごとに課題を設定し、ディスカッション形式で理解を深める。

【評価方法】

分担部分の発表内容・討議内容、および課題に対するレポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

現代が受けている挑戦(A.J.トインビー著 新潮文庫)
文明の衝突と21世紀の日本
(S.ハンチントン著 集英社新書)
暴走する世界(A.ギデンス ダイアモンド社)

【参考文献・資料】

外交フォーラム(外務省編 都市出版社)
国際政治(国際政治学会編 有斐閣)
政治学(日本政治学会編 岩波書店)

国際交流特別演習Ⅴ b (グローバル経済)

家本博一

【授業の概要】

国際交流特別演習Ⅴ a (グローバル経済)に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。グローバル経済の実態と問題点について学習する。

【授業計画】

本演習では、演習Ⅴ a「グローバル経済」において学んだ成果を基礎として、演習履修者による各国ごとの個別研究を指導する。履修者は、旧東欧・旧ソ連邦諸国から1ヶ国を選択した上で、欧・米・日・韓企業(製造業、金融業、サービス業など)による経済進出の現実を調査し、現代経済世界におけるグローバル化の実態とその特徴について学ぶこととする。その際、履修者は、国内刊行書籍による情報、国際機関による公開情報の活用に加えて、インターネット情報の活用も求められることとなる。

なお、履修者の中から希望者を募った上で、科目担当者が引率・指導して、旧東欧における欧米企業進出に関する実態調査を行うことを検討している。

【評価方法】

・出席状況、課題レポート、討論の三点によって評価する。

【テキスト】

・選択した国別の資料は、順次紹介していく。

【参考文献・資料】

・インターネット情報を利用し、国際機関、国内政府機関の公開資料を利用する。

国際交流特別演習VI a (グローバル社会)

中西久枝

【授業の概要】

グローバル社会での共生的な市民社会の構築に必要な社会的公正・格差是正、民族間の対話などの価値観を、事例としてイスラーム世界を通じて検討する。

【授業計画】

グローバル化の進展する国際社会のなかで、イスラーム世界を構成している地政学的、経済的、文化的な一体性と多様性を理解し、世界秩序との共存の問題を多面的に把握する。

1. イスラームにおける共同体概念
2. イスラーム世界のアイデンティティ
3. イスラーム的人権論
4. イスラーム世界の市民社会論
5. イスラーム銀行による開発理論と実践
6. 文明の衝突と対話
7. 民族問題と資源争奪
8. パレスチナ問題
9. クルド民族問題

【評価方法】

プレゼンテーション30%、学期末試験40%、レポート30%

【テキスト】

イスラームとモダニティ
(中西久枝著 風媒社 2002年)

【参考文献・資料】

- ・国際関係論のパラダイム
(初瀬龍平・月村太郎・定形衛編 有信堂 2001年)
- ・地球的平和の公共哲学
(公共哲学ネットワーク編 東京大学出版会 2003年)
- ・ポスト・ウェストファリア体制の行方
(吉川元・加藤普章編 ナカニシヤ出版 2003年予定)
- その他、授業中に適宜提示する。

国際文化特別演習 I a (言語)

中野弘三

【授業の概要】

英語の文や節、発話などの意味構造を、意味論と語用論を中心に明らかにし、また文法をはじめとするさまざまな意味機能を分析し、発話と場面の関係を検討する。

【授業計画】

1. 発話の場における文の意味の概観
2. 文の発話の意味構造
3. 発話行為
4. 命題態度
5. 命題の種類
6. 命題の種類と補文の関係
7. 文の意味構造と統語構造

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

- Semantics* (2000 K. Kearns / Macmillan Press)
- Semantics* (2nd Edition 1997 J.I.Saeed / Blackwell Publishing)
- Doing Pragmatics* (1995 P.Grundy / Edward Arnold)
- Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics* (2000 A. Cruse / Oxford University Press)
- The Theory of Functional Grammar Part 1* (2nd Edition 1997 S. Dik / Mouton de Gruyter)

国際交流特別演習VI b (グローバル社会)

中西久枝

【授業の概要】

国際交流特別演習VI a (グローバル社会) に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。グローバル市民社会の構築過程における多文化社会間の共生的なあり方について学習する

【授業計画】

現在進展するグローバル社会が共生・共存していくためには、普遍原理と考えられている主要概念がどのようにイスラーム世界に適用可能かが鍵となる。本演習ではそのなかで特に、民主主義(あるいは民主化)、市民社会の構築、フェミニズム(あるいはジェンダー)の概念のイスラーム世界での受容と変容について考察する。以下は、本演習で取り上げるテーマである。

1. ヨーロッパのムスリム移民と人権
2. 米国の中東・中央アジア政策と民主主義の輸出問題
3. イスラーム過激派のテロと米国のムスリム移民の市民権
4. イスラーム世界の民主化政策の動向
5. 欧米のフェミニズムとイスラームのフェミニズム
6. アフガニスタン戦後復興における国際ドナーの貢献
7. イラク復興問題における民主国家建設の課題
8. 中央アジアへの日本の法整備支援—現状と課題
9. 大量破壊兵器の拡散問題
10. グローバル社会と環境保全

【評価方法】

毎週のプレゼンテーション50%、レポート50%で評価する。

【テキスト】

使用せず、各回の演習に関連した教材を適宜プリント資料として配布する。

【参考文献・資料】

- ・イスラームとモダニティ (中西久枝著 風媒社 2002年)
- ・地球的平和の公共哲学 (公共哲学ネットワーク編 東京大学出版会 2003年)
- ・ポスト・ウェストファリア体制の行方
(吉川元・加藤普章編 ナカニシヤ出版 2003年予定)

国際文化特別演習 I b (言語)

中野弘三

【授業の概要】

国際文化特別演習 I a (言語) に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。英語の意味構造を理解し、さまざまな意味機能分析の問題点を学習する。

【授業計画】

1. 法表現の分析
2. 時制の分析
3. 否定文の分析
4. 疑問文の分析
5. 接続詞の分析
6. 副詞表現の分析
7. 動詞の意味とその補文の関係

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

- Semantics* (2000 K. Kearns / Macmillan Press)
- Semantics* (2nd Edition 1997 J.I.Saeed / Blackwell Publishing)
- Doing Pragmatics* (1995 P. Grundy / Edward Arnold)
- Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics* (2000 A. Cruse / Oxford University Press)
- The Theory of Functional Grammar Part 1* (2nd Edition 1997 S. Dik / Mouton de Gruyter)

国際文化特別演習Ⅱ a (異文化コミュニケーション)

大野清幸

【授業の概要】

言語、文化、メディアなどの問題を扱い、異文化コミュニケーションの本質を検討する。異文化間のコミュニケーションで生じる問題を、主として言語特性の相違分析を通して検討する。

【授業計画】

- 第1講 PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 PC実践教室において、関連分野の本物情報を検索・探索する。
- 第3講 学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
基本的には、学術論文を精読し、議論する。

学期末レポート：現代英語に関する研究題材を選び、

- (1) 先行研究を調査し、
- (2) 仮説をたて、
- (3) データを採集・整理し、
- (4) 理論の枠組みで分析し、
- (5) 論文としてまとめ、提出する。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。演習を中心に行う。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

国際文化特別演習Ⅱ b (異文化コミュニケーション)

大野清幸

【授業の概要】

国際文化特別演習Ⅱ a (異文化コミュニケーション) に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。異文化コミュニケーションの本質を理解し、異文化間コミュニケーションで生じる問題点を学習する。

【授業計画】

- 第1講 PC実践教室において、授業計画指示など。必ず出席すること！
- 第2講 PC実践教室において、関連分野の本物情報を検索・探索する。
- 第3講 学術論文などを利用して、演習を行う。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
基本的には、学術論文を精読し、議論する。

【テキスト】

学術論文。ただし、未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。

国際文化特別演習Ⅲ a (比較文化)

平林美都子

【授業の概要】

文学の表象のあり方、それに視覚イメージから構成される絵画や映画も対象に、われわれの文化に対する思考形式などを批判的に検討する。

【授業計画】

「女性と英語文学」

フェミニズム文学批評は英語文学の重要な分析方法である。本年はMargaret Atwoodの*Lady Oracle*を読みながら、フェミニズム分析に有効な文学理論を合わせて学び、応用していく。

- 1 イントロダクション
- 2 LA Chapter 1 - Chapter 4
- 3-5 LA Chapter 5 - Chapter 11
母性論
- 6-7 LA Chapter 12 - Chapter 18
精神分析批評
- 8-10 LA Chapter 19 - Chapter 29
ジェンダーとジャンル (ゴシック論)
- 11-12 LA Chapter 30 - Chapter 37

【評価方法】

出席とレポートによる。

【テキスト】

Margaret Atwood, *Lady Oracle* (Bantam)
批評関連のテキストは、最初の授業で指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

国際文化特別演習Ⅲ b (比較文化)

平林美都子

【授業の概要】

国際文化特別演習Ⅲ a (比較文化) に継続する演習授業であり、基本的には上記授業と同じ方法で行う。文化に対する思考形式などを比較検討し、体系的に学習する。

【授業計画】

「女性と英語文学」

フェミニズム文学批評は英語文学の重要な分析方法である。本年はMargaret Atwoodの*Bodily Harm*を読みながら、フェミニズム分析に有効な文学理論を合わせて学び、応用していく。

- 1 イントロダクション
- 2 BH Chapter 1
- 3-4 BH Chapter 2
Psychoanalysis
- 5-6 BH Chapter 3
Structuralism
- 7-8 BH Chapter 4
Poststructuralism
- 9-10 BH Chapter 5
Postmodernism
- 11-12 BH Chapter 6

【評価方法】

出席とレポートによる。

【テキスト】

Margaret Atwood, *Bodily Harm* (Bantam)
批評論文は、最初の授業時に指示する。

【参考文献・資料】

適宜、授業中に指示する。

国際交流実践演習Ⅰ

ブイ トルン

【授業の概要】

国際交流基金などの政府機関、国際助成財団、国内外のNGO、自治体国際化協会などでのインターンシップを通し、対外折衝能力、問題発見・解決能力、組織マネジメント能力を育成する。

【授業計画】

- A. 国内対象コース：
1. 数人で担当チームを作り、協議した上で国内の国際交流・協力機関の活動調査し発表する
 2. インターンシップ内容・目標・計画等をプレゼンテーション
 3. インターンシップ計画書作成、受け入れ交渉
 4. インターン後に報告書や成果報告会を通して単位取得
- B. 海外対象コース：
1. ベトナム、インド等アジア各国の国際協力現場を調査・学習する
 2. 可能な限り現地視察・調査も行う
 3. テーマ、視察先等事前研修・計画づくり及び実施については国内インターンシップ事業に準じる
 4. 現地視察後に報告書や成果報告会を通して単位を取得する
- C. 演習主旨：
1. 開発協力内容の学習よりも協働の仕組み・事業運営・組織運営に重点を置く
 2. 院生の立案・企画・組織運営能力を高めて育成する

【評価方法】

演習における参加姿勢、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

開講時に参加者全員で協議して決める。

【参考文献・資料】

随時参考資料、文献やプリントを配布する。
・履修希望者は、後日掲示の指示に従って、説明会に参加し、別途申込をする。
※履修を認められた者の履修登録は授業が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。

国際交流実践演習Ⅲ

大野清幸

【授業の概要】

ネットワークでの事前研究・交流をベースにして現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを通して問題解決能力・自己判断能力・コミュニケーション能力を習得する。

【授業計画】

- 事前研修
- 第1講 事前指導 1=PC実践教室において、授業計画指示など、必ず出席すること!
 - 第2講 事前指導 2=PC実践教室において、関連分野の本物情報を検索・探索する。
- 現地プログラム (期間は、夏期休暇中、または春期休暇中で、集中授業形式)
- 第3講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(訪問国の、教育関係機関を訪問する。)
 - 第4講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(訪問国の、教育関係機関を訪問する。)
 - 第5講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(公立学校先進校を訪問する。)
 - 第6講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(公立学校先進校を訪問する。)
 - 第7講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(公立学校困難校を訪問する。)
 - 第8講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(公立学校困難校を訪問する。)
 - 第9講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(私立学校先進校を訪問する。)
 - 第10講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(私立学校先進校を訪問する。)
 - 第11講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(私立学校困難校を訪問する。)
 - 第12講 現地訪問を行い、英語教育のフィールドワークを実施する。(私立学校困難校を訪問する。)
- 事後研修
- 第13講 事後指導 1=受講生は、パワーポイントで報告書を作成し、プレゼンテーションを行う。
 - 第14講 事後指導 2=受講生は、パワーポイントで報告書を作成し、プレゼンテーションを行う。
 - 第15講 事後指導 3=受講生は、プレゼンテーション時のコメントを参考に、最終報告書を作成し、提出する。

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などによる。
現地での評価(受け入れ団体など)を考慮し、全体評価を行う。

受講生は、パワーポイントで報告書を作成し、プレゼンテーションを行う。
受講生は、プレゼンテーション時のコメントを参考に、最終報告書を作成し、提出する。

学期末レポート：研究主題を狭く限定して選び、
(1) 先行研究を調査し、
(2) 仮説を立て、
(3) データを採集・整理し、
(4) 分析し、
(5) 報告書としてまとめ、提出する。

【テキスト】

未定。

※授業・課題などにおいて電子メールなどインターネットを利用しますので、インターネット利用を日常化しておいて下さい。
理想的には、自宅においてインターネット環境を実現しておいて下さい。
・履修希望者は、後日掲示の指示に従って、説明会に参加し、別途申込をする。
※履修を認められた者の履修登録は授業が行うので各自で登録は不要。原則、取消不可。

本年度は開講せず

国際交流実践演習Ⅱ

若松孝司

【授業の概要】

国際機関へインターンシップを申請し、認められた大学院生は夏期及び春期休暇中のインターンシップを通して異文化間共生能力、危機管理能力、コミュニケーション能力を身につける。

【授業計画】

- 第1講 事前指導Ⅰ
ガイダンス (必要に応じて国際機関へのインターンシップ申請のための情報提供等)
- 第2～3講 事前指導Ⅱ
国際機関でのインターンシップの活動計画作成指導
- 第4～13講 インターンシップ
受け入れ機関におけるインターンシップ実習
- 第14～15講 事後指導
インターンシップ活動報告書の作成とプレゼンテーション

【評価方法】

事前指導、事後指導における出席状況とインターンシップ活動報告書、プレゼンテーションならびにそれについてのディスカッションの状況を総合的に評価する。

必要に応じて、受け入れ先国際機関からの報告を受け、それを成績評価の材料とする。

【テキスト】

不要。

【参考文献・資料】

不要。

国際交流特講Ⅰ

榎田勝利

【授業の概要】

国際協力の主要なアクターである国連・国際開発機関、政府開発援助(ODA)、非政府組織(NGO)の存在意義・役割・活動を研究するとともに、非営利組織の実践的なマネジメントを学ぶ。

【授業計画】

- 1 国際協力とは
- 2 国際協力の基本的な仕組み
- 3 国際協力活動の変遷 (1) 1980年代まで～
・国連開発の十年
・新国際経済秩序
・ベーシック・ヒューマン・ニーズ (BHN)
・持続可能な開発の思想
- 4 国際協力の変遷 (2) 1990年代～
・人間の安全保障
・21世紀の新開発戦略
・包括的開発フレームワーク
- 5 開発課題への取組み (1)
・人間の安全保障と貧困問題への取組み
- 6 開発課題への取組み (2)
・持続可能な開発と地球環境問題への取組み
- 7 国際協力のあり方
・オーナーシップとガバナンス
- 8 日本の援助政策 (ODA)
- 9 欧米主要国の援助政策 (ODA)
・米国、イギリス、ドイツ、フランス
- 10 国連とNGO
- 11 日本のNGOと欧米のNGO
- 12 政府 (ODA) とNGOとのパートナーシップ

【評価方法】

出席状況と最終の課題レポートにて評価する。

【テキスト】

使用しない。毎回プリントを配付する。

【参考文献・資料】

世界銀行・開発金融と環境・人権問題 (鷲見一夫著 有斐閣)
ODA大綱の政治経済学-運用と援助理念 (下村・中川・斎藤著 有斐閣)
社会開発-経済成長から人間中心型発展へ (西川潤編 有斐閣選書)
日本のODAをどうするか (渡辺利夫・草野厚著 日本放送出版会)
人間開発戦略-共生への挑戦 (マブール・ハク著 日本評論社)
草の根環境会議-アメリカの新しい萌芽 (マークダウイ著 戸田清訳 日本経済評論社)
地球環境対策 (堀内行蔵編 有斐閣)
ハンドブックNGO (馬橋憲男・斎藤千広著 明石書店)
NGOとは何か (伊勢崎賢治著 藤原書店)、他

本年度は開講せず

国際交流特講II

皆川修吾

【授業の概要】

現代社会の諸現象が相互に影響しあい、これまでの国際秩序に質的・量的変化が起っており、人類が共生できる国際秩序形成プロセスとその限界を実践的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1講 国際システムの構造とプロセス
- 第2講 第1次世界大戦：バランス・オブ・パワーの教訓
- 第3講 第2次世界大戦：集団安全保障の挫折
- 第4講 冷戦
- 第5講 国際法
- 第6講 国際組織
- 第7講 相互依存の国際システム
- 第8講 テロ・地域紛争時代の国際秩序
- 第9講 地域機構の存在意義Ⅰ：欧州（EU）
- 第10講 地域機構の存在意義Ⅱ：アジア・太平洋地域（ASEAN, APEC）
- 第11講 国際機構の存在意義Ⅰ：国連
- 第12講 国際機構の存在意義Ⅱ：IMF, WTO など
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

- 国際社会論（ヘドリー・ブル著 岩波書店）
- 現代国際関係学（新藤栄一著 有斐閣）
- 国際紛争 ジョセフ・ナイ著 有斐閣

コーパス言語学特講

柳 朋宏

【授業の概要】

インターネット、CD-ROMなどで利用可能なコーパス（大規模言語データベース）の分析方法を実践的に学び、使用頻度・用例・語法などの研究を行う。

【授業計画】

この授業ではコーパスを使った効果的なデータ収集法とそのデータに基づいた分析法の習得を目指す。

以下の内容について授業を行ない、受講生にはコーパスから得られたデータに基づいた研究発表と学期末にレポートの提出をしてもらう。

- 1. コーパスの定義とその種類（概要）
- 2. コーパス言語学とは何か
- 3. 検索ツールと正規表現
- 4. 共時的コーパスの利用と分析
- 5. 通時的コーパスの利用と分析
- 6. 学習者コーパスの利用と分析
- 7. パラレルコーパスの利用と分析
- 8. スクリプト言語（awk, Perl）を使った検索法

※第1回目に授業の説明をするので必ず出席すること。毎時間コーパスや検索ソフトの操作などを行なうので、欠席するといけなくなるので注意すること。

【評価方法】

研究発表とレポート、及び授業への貢献度等により総合的に評価する。

【テキスト】

（テキスト未定）
適宜ハンドアウトを配付

【参考文献・資料】

- 英語コーパス言語学（齊藤俊雄他編 研究社出版）
- 実践コーパス言語学（鷹家秀史・須賀廣著 桐原ユニ）
- コーパス言語学の技法Ⅰ（中尾浩他著 夏目書房）
- English Corpus Linguistics. (Meyer, C.F. / CUP.)

本年度は開講せず

国際交流特講III

中野弘三

【授業の概要】

英語を主な対象に、言語学や文学およびコミュニケーションなどのさまざまな角度から多角的かつ実践的にとらえ、言語や文化に対する新たな視点や思考を提供する。

【授業計画】

- <言語と社会>
 - 1. コミュニケーションの場の分析
 - 2. Politeness
 - 3. 日英語の丁寧表現の比較
 - 4. 英語における性差別語の問題
 - 5. 標準語と方言
- <言語の表現力・言語と文化>
 - 6. Metaphor
 - 7. Metonymy
 - 8. Hedge
 - 9. 言語表現と視点（point of view）
 - 10. 言語相対性（linguistic relativity）

【評価方法】

出席状況・平常点・課題などにより評価する。

【テキスト】

関係論文のコピーを使用。

【参考文献・資料】

- Pragmatics (1996 G. Yule / Oxford University Press)
- Women, Men and Politeness (1995 J. Holmes / Longman)
- Minimum Essential Politeness: A Guide to the Japanese Honorific Language (1991 A.M. Niyekawa / Kodansha International)
- Language and Culture (1998 C. Kramsch / Oxford University Press)
- Cognitive Linguistics: An Introduction (2001 L. David / Oxford University Press)

国際公共政策特講

皆川修吾

【授業の概要】

グローバル化の負の側面に対する「人間の安全保障」政策の主体、政策目的、形成過程、政策の実施と評価など国際公共政策の政治過程を体系的に研究する。

【授業計画】

- 第1講 国際公共政策とは何か
- 第2講 国際公益、地球公共財の概念
- 第3講 国際公共政策の研究課題と方法
- 第4講 グローバル化の中の政策転換1：環境、エネルギー
- 第5講 グローバル化の中の政策転換2：科学技術・情報
- 第6講 グローバル化の中の産業経済政策2：中小企業、農業、労働
- 第8講 グローバル化の中の市民社会活性化政策1：都市、福祉
- 第9講 グローバル化の中の市民社会活性化政策2：教育、自治体
- 第10講 グローバル化の中の対外政策1：外交、安全保障
- 第11講 グローバル化の中の対外政策2：開発援助、平和協力
- 第12講 国際公共政策の評価と今後の課題
- 第13講 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による。

【参考文献・資料】

- 公共政策学（足立幸男・森脇俊雅編著 ミネルヴァ書房）
- 国際行政学（福田耕治著 有斐閣ブックス）
- 国際公共政策（進藤栄一著 国際公共政策叢書2 日本経済評論社）

国際協力特講

ブイ チトルン

【授業の概要】

国際協力の新しいアプローチの理念、政策、実施体制を学ぶとともに、グローバル・イシューへの新しいアクターとして、非政府組織（NGO）や地方自治体の動きを発展的に検証する。

【授業計画】

- A. 総論：
1. 国際協力の潮流：欧米・アジア・日本
 2. New Approach：人間の安全保障と世界平和の構築
- B. 各論：
1. 国際協力活動の現状：
 - * 政府・中央省庁・外務省・JICA（ODA関係）
 - * 地方自治体の国際協力、CLAIRとモデル事業
 - * NGO：創設期＞成熟期＞発展期
 2. 組織運営論：
 - * 個別活動：組織運営・会員獲得
 - ・活動基礎構築のために：内部要因としての理念・目標・運営形態
 - ・活動展開のために：環境整備
 - ・協力者・協力体制の構築
 - * 協働活動：
 - ・地方自治体とNGO
 - ・ジャパン・プラットフォーム等の事例検討
 - ・協働の可能性・現状と今後の課題
 3. その他：毎週一つのNGO活動を紹介、組織運営等について議論を行う

【評価方法】

授業への参加状況と期末レポート提出による。

【テキスト】

プリント配布及び授業時に指示する。

【参考文献・資料】

開講時に指示する。

国際経済特講

宮川泰夫

【授業の概要】

国際経済の体系的な発展を学び、グローバル経済の有効性と問題点を検証し、今後のあり方を学習する。

【授業計画】

- 国際経済論序説 — 国際経済とは—
- 第1回 国民経済と国内市場（貿易の意味）
 - 第2回 国際経済と国際市場（関税の意義）
 - 第3回 世界経済と世界市場（資本の原理）
 - 第4回 地球経済と地球市場（社会の原則）
- 国際地域経済論 — 自由貿易の限界—
- 第5回 欧州共同体の拡充と分化（EUの限界）
 - 第6回 北米自由貿易地域の拡大と世界市場の限界（NAFTAの本質）
 - 第7回 拡大アセアンの形成と開発途上国経済の変質（ASEANの矛盾）
 - 第8回 極東経済の運動と日本経済の革新（日中の両輪）
- 国際経済特講 — 貢献と構造—
- 第9回 地域公害と地球環境（環境の保全）
 - 第10回 経済難民の派生と外国人労働力（人権の保護）
 - 第11回 ODAの制度と国際協力の体制（協力の意義）
 - 第12回 世界経済の変質と厚・環産業の興隆（貢献の意味）
- 国際経済総論 — 革命と維新—
- 第13回 近代産業革命と情報産業革命（英国と米国）
 - 第14回 現代産業革命と地球文明の創成（文化と技術）
 - 第15回 単位の認定と理解の深化（総括と結論）
- 教科書に沿って、わかりやすく、現実的問題を共に考え、解決する力を養うように授業はすすめる。

【評価方法】

出席状況（10点）授業態度（10点）課題レポート（40点）認定試験（40点）レポートは受験資格

【テキスト】

平和の海嶺と地球の再生（宮川泰夫 大明堂）
地域の変革と文明の変質（宮川泰夫 大明堂）

【参考文献・資料】

国際工業配置論（宮川泰夫 大明堂）
地域の創成と文明の開化（宮川泰夫 大明堂）

国際秩序特講

家本博一

【授業の概要】

国際秩序の今後の方向性を経験的に示唆するために、歴史の視野とリアリズムに加えて、これまでの理論を発展的に捉え直し、とくに国際経済諸現象を分析する視点を学ぶ。

【授業計画】

本授業では、国際秩序の発展動向の一つとして注目されている20世紀における欧州国際政治経済秩序の構築過程について、歴史的な視座と国家間関係という視座をタテ軸とヨコ軸として現実の展開過程での様々な出来事を整理した上で、その固有の特徴と問題点を明らかにする。その際、本授業では、第一次世界大戦前から欧州連合「第5次拡大」（2004年5月）に至る歴史過程を射程とする。また、本授業では、欧州国際秩序の展開過程への「開放経済化」、「市場経済化」、そして「経済・金融のグローバル化」の影響についても、「現代社会主義」の自己崩壊及びその後の体制移行過程と併せて論じることとする。

<授業の進め方>

1. 「第一次世界大戦」前における欧州の「五大帝国体制」
2. 「第一次世界大戦」と「ロシア革命」
3. 「ロシア革命」とその後—「ベルサイユ体制」の欧州とソ連邦
4. 「第二次世界大戦」前の「スターリン時代」と欧州—
5. 「第二次世界大戦」中の「スターリン時代」と欧州—
6. 「第二次世界大戦」後の「スターリン時代」と欧州—
7. スターリン後における東西欧州の変動—1950年代中頃～後半
8. 東西欧州関係の「確立」と「変貌」—1960年代
9. 東西欧州関係の「新たな展開」—1970年代
10. 東西欧州関係の「地殻変動」—1980年代
11. 欧州統合・拡大への歩み（1）—1990年代前半
12. 欧州統合・拡大への歩み（2）—1990年代後半
13. 欧州統合・拡大への歩み（3）—21世紀初め
14. 欧州国際秩序の現在—更なる欧州拡大へ
15. 欧州国際秩序の今後の基本方向

本授業では、受講生の理解を深めるため、適宜、インターネット上の各種情報、ビデオ・DVD教材、地図、年表なども利用する。

【評価方法】

・出席状況、課題レポート、討論という三つの点を総合的に評価する。

【テキスト】

ポスト社会主義の体制移行・ショックから療法へ
（グジェゴシュ・コウトコ著 家本博一・田口雅弘・吉井昌彦共訳 多賀出版 2003年）
ポーランド「脱社会主義」への道—体制内改革から体制転換へ
（家本博一著 名古屋大学出版会 1994年）

【参考文献・資料】

中欧の体制移行とEU加盟（上）—チェコとスロヴァキア（桑原進著 三恵社 2003年）
中欧の体制移行とEU加盟（下）—ポーランド（家本博一著 三恵社 2003年）
関連年表と講義概要は、授業の際に配布する。
なお、インターネット情報も活用するので、授業の中でPCを利用することを勧める。

ロシア語特講Ⅰ

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目標として、演習形式で学ぶ。

【授業計画】

基本テキストとして『ロシアの日本人〜中・上級者用ロシア語（会話編）』を使用し、円滑なコミュニケーション能力の獲得を目指す。また、サブテキストとして時事ニュース等のプリントを随時使用し、正確な読解能力の獲得を目指す。

基本テキストは、ロシアに住む日本人が友人のロシア人とさまざまな会話をするという形式で書かれていて、学習者がロシアでの生活を疑似体験できるように構成されている。また、日本の文化を外国人に詳しく紹介する際に必要な知識（教養）や語彙についても具体的に学ぶことができる。

半期間で、基本テキストの第1課から第30課までを学習する予定。

【評価方法】

授業での予習状況や学期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

ロシアの日本人〜中・上級者用ロシア語（A. シューキン・実藤正義 会話編 ナウカ）

【参考文献・資料】

サブテキストとして、時事ニュースやエッセイなどを授業中に随時配布する。

ロシア語特講Ⅱ

杉本一直

【授業の概要】

より高度なロシア語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標として、ロシア語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

ロシア語特講Ⅰに引きつづき、『ロシアの日本人～中・上級者用ロシア語(会話編)』を基本テキストとして使用し、円滑なコミュニケーション能力の獲得を目指す。また、サブテキストとして『ロシア語作文の基礎』を使用し、より正確な意思伝達の能力の獲得を目指す。

半期間で、基本テキストの第31課から第60課までを学習する予定。また、サブテキストの第1課から第15課までを学習する予定。

【評価方法】

授業での予習状況や学期末試験の結果を総合的に判断し、評価する。

【テキスト】

ロシアの日本人～中・上級者用ロシア語(A.シューキン・実藤正義 会話編 ナウカ)

ロシア語作文の基礎(佐藤靖彦 ナウカ)

【参考文献・資料】

時事ニュース等のプリントを授業時に随時配布する。

韓国語特講Ⅱ

曹述燮

【授業の概要】

より高度な韓国語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標として、韓国語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

- 公文書を書く
 - 知人に手紙を出す。
 - 履歴書を書く。
 - 自己推薦状を書く。
- 韓国語で紹介する
 - 日本の伝統文化を紹介する。
 - 自社商品を紹介する。
 - 一日の過ごし方を紹介する。
- 論文を書く
 - 文学論を題材に
 - 歴史を題材に
 - 文化論を題材に
- コミュニケーションの能力を高める
 - 慣用語句を身につける。
 - 間違いを正す。
 - 状況を説明し要請を断る。
- 総合

【評価方法】

出席状況、講義前後の準備度、授業内ならびに学期末テストの成果を総合して評価する。

【テキスト】

実践が中心。テキストは特になく、必要に応じてプリントなどで対応する。

【参考文献・資料】

韓国の風雅
韓国文化史
韓国美の探求
韓国の伝統思想と文学など(成甲書房 韓国文化選書シリーズ)

韓国語特講Ⅰ

曹述燮

【授業の概要】

韓国語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 韓国語で読むニュース。
 - 国内政界・財界の動向
 - 国際社会の動向とその理解
 - 韓国伝統文化の紹介
 - 外国文化の理解
- 韓国語で聴くニュース
 - 天気予報を聴く。
 - 街頭遊説を聴く。
 - 広告放送を聞く。
 - ラジオのドラマを聴く。
- 論文を読む
 - 韓国文学論について
 - 世界史論について
 - 韓国文化論について
 - 国際文化論について
- 有用な韓国語表現

【評価方法】

出席状況、講義前後の準備度、授業内ならびに学期末テストの成果を総合して評価する。

【テキスト】

新聞の社説、ラジオの放送、学術論文などを用いる。

【参考文献・資料】

韓国の風雅
韓国文化史
韓国美の探求
韓国の伝統思想と文学など(成甲書房 韓国文化選書シリーズ)

中国語特講Ⅰ

周国龍

【授業の概要】

中国語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

中国語の文法と構文を日本語の文法と構文を比較しながら、中国語の特質についての理解を深めつつ、中国語の会話能力、文章の読解力を養っていく。

- 第一講 自己紹介等
- 第二講 名詞を用いて会話練習
- 第三講 名詞を用いて作文練習
- 第四講 動詞を用いて会話練習
- 第五講 動詞を用いて作文練習
- 第六講 形容詞を用いて会話練習
- 第七講 形容詞を用いて作文練習
- 第八講 存在の「有」を用いて会話練習
- 第九講 存在の「有」を用いて作文練習
- 第十講 存在の「在」を用いて会話練習
- 第十一講 存在の「在」を用いて作文練習
- 第十二講 総合練習

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

後日指定

【参考文献・資料】

後日指定

中国語特講Ⅱ

周国龍

【授業の概要】

より高度な中国語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標にして、中国語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

- 第一講 所有の「有」を用いて会話練習
- 第二講 所有の「有」を用いて作文練習
- 第三講 「副詞」を用いて自由会話及び作文
- 第四講 「連詞」を用いて自由会話および作文
- 第五講 「介詞」を用いて自由会話及び作文
- 第六講 短文読解の練習及び作文練習
- 第七講 中国政治に関する文章の読解及び作文練習
- 第八講 中国経済に関する文章の読解及び作文練習
- 第九講 中国の風俗習慣に関する文章の読解及び感想発表
- 第十講 中国の地域紹介に関する文章の読解及び感想発表
- 第十一講 ニュースに出た中国関連記事の翻訳練習と会話
- 第十二講 ニュースに出た中国関連記事の翻訳練習と作文

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

後日指定

【参考文献・資料】

後日指定

フランス語特講Ⅱ

清水ベアトリックス

【授業の概要】

より高度なフランス語の論文や報道文などを理解し、作文力を高めることを目標にして、フランス語コミュニケーション能力をさらに高める。

【授業計画】

フランス語特講Ⅰに引きつづき、文法の基礎を深めつつ、コミュニケーション能力と文章の読解力を養っていく。

- 1) 詩を読む、詩について話す：Jacques Prévert
- 2) 詩を読む、詩について話す
- 3) 詩を訳す、詩を書く
- 4) 現代文学を読む、現代文学について話す：André Camus
- 5) 現代文学を読む、現代文学について話す
- 6) 現代文学を読む、現代文学について話す
- 7) フリー・ライティング
- 8) 芝居の台本を読む
- 9) 演劇
- 10) 新聞を読む
- 11) 新聞を読む
- 12) 映画鑑賞
- 13) 映画鑑賞
- 14) 映画の感想を書く
- 15) フリー・ライティング

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

後日指定

フランス語特講Ⅰ

清水ベアトリックス

【授業の概要】

フランス語の文法や構文などについての基礎的知識をすでに習得しているものを対象として、より円滑なコミュニケーション能力の育成と、報道文や論文などを正確に読み取る力の育成を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

教科書を基にして、フランス語の文法の基礎を学ぶ（または復習する）。文法のポイントを深めるため、「読む」、「書く」、「話す」練習をする。

- －発音のルール；動詞 avoir と être；人称代名詞；基本文型
- －名詞、冠詞、形容詞
- －動詞：規則動詞の活用
- －否定文、疑問文、疑問詞
- －所有形容詞、指示形容詞
- －動詞：不規則動詞の活用
- －動詞：動詞 pouvoir, savoir, devoir, aller, venir の用法
- －過去形（1）
- －過去形（2）
- －目的語人称代名詞
- －代名動詞、比較級
- －関係代名詞を使った文
- －直接法、受動態
- －条件法
- －接続法

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末テストを総合的に評価する。

【テキスト】

ゼフィール、フランス語文法の基礎（E.E.F.L.E.U.K. 早美出版社）

【参考文献・資料】

後日指定

通訳特講Ⅰ

中村幸子

【授業の概要】

日英語間の通訳に必要な基礎知識と技能を習得するとともに、通訳の準備作業として不可欠な情報収集の具体的方法を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

Authenticな教材を使用。通訳者養成のために一般的に採用されている各種通訳訓練法を行い、即解力、即応力、口頭表現力、語彙力を飛躍的に高めながら通訳スキルの向上を目指す。通訳に必要な背景知識を得るため様々な分野の資料の訳出を含めた分析を行い、知的ベースの充実も目指す。

- 第1回 通訳概要
- 第2回 英日逐次通訳の基礎 1
- 第3回 英日逐次通訳の基礎 2
- 第4回 英日逐次通訳の基礎 3
- 第5回 資料分析 1
- 第6回 日英逐次通訳の基礎 1
- 第7回 日英逐次通訳の基礎 2
- 第8回 日英逐次通訳の基礎 3
- 第9回 資料分析 2
- 第10回 英日・日英逐次通訳の実践 1
- 第11回 英日・日英逐次通訳の実践 2
- 第12回 英日・日英逐次通訳の実践 3
- 第13回 資料分析 3
- 第14回 単位認定試験 1（英日逐次通訳パフォーマンステスト、英日筆記テスト）
- 第15回 単位認定試験 2（日英逐次通訳パフォーマンステスト、日英筆記テスト）

【評価方法】

出席（非常に大切）、授業内でのパフォーマンス、リサーチ課題、および単位認定試験の結果などにより評価。

【テキスト】

オリジナルテキストを授業開始時に配布、およびオンライン配信。

【参考文献・資料】

Cecilia Wadensjö 1998 *Interpreting as Interaction* Longman
英語通訳への道（日本通訳協会編 大修館書店）
グローバル時代の通訳（水野真木子他 三修社）
トレンド日米表現辞典（小学館）
他

通訳特講 II

中村幸子

【授業の概要】

日英語間の通訳の際に起こる異文化コミュニケーションの問題についても考えながら、通訳技能のさらなる向上を目指して演習形式で学ぶ。

【授業計画】

逐次通訳の技術およびスタイルを確立するとともに同時通訳の技術について学ぶ。さらに内外の通訳研究の文献を講読し「通訳」という行為についても考察していく。最終的には国際会議形式で現代社会の諸問題についてのプレゼンテーションとその通訳を行う。

- 第1回 通訳概要
- 第2回 英日逐次通訳1
- 第3回 英日逐次通訳2
- 第4回 通訳理論1
- 第5回 日英逐次通訳1
- 第6回 日英逐次通訳2
- 第7回 通訳理論2
- 第8回 英日同時通訳1
- 第9回 英日同時通訳2
- 第10回 通訳理論3
- 第11回 日英同時通訳1
- 第12回 日英同時通訳2
- 第13回 通訳理論4
- 第14回 国際会議形式によるプレゼンテーションとパネルディスカッション逐次通訳
- 第15回 国際会議形式によるプレゼンテーションとパネルディスカッション同時通訳

【評価方法】

出席（非常に大切）、授業内でのパフォーマンス、課題、およびプレゼンテーション取り組み（録音または録画）により評価。

【テキスト】

オリジナルテキストを授業開始時に配布、およびオンライン配信。

【参考文献・資料】

Interpreter and Translator Training (Daniel Gile 1995 Benjamins Translation Library 他)

翻訳特講 I

難波豊子

【授業の概要】

日英語間の時事翻訳・産業翻訳・文芸翻訳など、さまざまな分野の翻訳実践を通して翻訳技能を高めることを目標として演習形式で学ぶ。

【授業計画】

英語から日本語に翻訳をする場合、型にはまったような直訳になり易い。その癖を打破する為に、

1. 短文レベルで基本的な翻訳練習を行い、英文と日本文の特徴を確認する。
 - 1) 主語の扱い
 - 2) 代名詞
 - 3) 無生物主語
 - 4) 関係代名詞
 - 5) 受身
 - 6) 比較
 - 7) 仮定法
 - 8) 強調構文
 - 9) WillとSome
 - 10) Until (Till)とBefore
2. 纏まったパラグラフを訳す。

上記の2つのプログラムを毎回平行させて、基本姿勢が獲得出来ているかどうかを確認する。また、毎回宿題を提出してもらい、次回の講義でディスカッション形式で各自の訳出を比較検討する。

また、日本文から英文に訳す事も意識して、英文から日本文に訳す練習で英語表現力を強化する。

取り扱う内容は、時事、文芸他、日常の生活等。

【評価方法】

出席状況、授業態度、宿題への取り組み、単位認定試験等を総合的に評価する。

【テキスト】

毎回ドリル及び課題のプリントを配布。

翻訳特講 II

難波豊子

【授業の概要】

翻訳技能のさらなる向上を目標として、英語と日本語の構造的な相違、話法・時制・句読法などについての言語学的知識を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

基本的な講義の進め方は前期の翻訳特講と同じ。各自がこなしてきた課題をクラス内で比較検討する。

1. 前期に学習した基礎項目を復習しつつ、更に以下の短文での基礎的な練習を加える。
 - 1) 品詞別訳し方
名詞、形容詞、副詞、動詞、その他
 - 2) 省略した訳し方
 - 3) 補足した訳し方
2. パラグラフ訳出練習。
特に時制、話法等に注意

改めて、分かり易く、読み易い訳文とはどういうものかを、各自に認識して頂くのが目的。

実際の翻訳業務においては、訳文を読む対象者や、顧客の依頼により、訳し方が変わって来る。全文を必ず訳す必要は無く、要点を箇条書きにする、という依頼がある場合もある。11回目の講義以降は、実践に即した長めの翻訳に挑戦してもらう。

内容は、時事、産業翻訳等。

【評価方法】

出席状況、授業態度、宿題への取り組み、単位認定試験等を総合的に評価する。

【テキスト】

毎回ドリル及び課題用プリントを配布。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の管理運営組織
 - (1) 生徒の利用時間の設定
 - (2) 生徒への図書等の貸し出し方法
 - (3) 長期休業期間中の開館状況
2. 魅力ある学校図書館について
 - (1) 生徒が親しみやすい雰囲気のある学校図書館
 - (2) 学校図書館の図書・資料等の整備拡充
 - (3) 生徒が利用しやすい学校図書館経営
3. 学校図書館と生徒会活動の連携
 - (1) 生徒会図書委員会の組織と活動
 - (2) 読書週間、読書コンクール、図書館だより
 - (3) 学校図書館の利用PR活動
4. 学校図書館の充実
 - (1) PTA組織を活用した寄贈図書等
 - (2) 地域社会への呼びかけによる寄贈図書等
 - (3) 関係機関への呼びかけによる寄贈図書等

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学習指導と学校図書館

加納篤憲

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材（付資料）

【参考文献・資料】

特になし

学校図書館メディアの構成

中村和夫

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディア構成の実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒の学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養中心から教科学習に必要な資料の収集へ
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目の教材
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) CD-ROM、マイクロフィルム等の活字メディアに代わるもの
 - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよこごび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用する資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG)との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人・児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し全体評価を行う。

ASU TOEIC I F

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ(I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習(60分×7日×13回)とリスニング演習(60分×7日×13回)(それぞれ91時間相当)が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説(15分)
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説(15分)
- ・演習(文法問題・Reading・リスニング)(30分)
- ・問題解説(25分)

第15回 模擬テスト

- *宿題 読解演習・文法問題(60分×7日)＝毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回＝91時間)
- リスニング演習(60分×7日)＝毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回＝91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示(外国語教育センターの掲示版)を参照のこと。

ASU TOEIC I E

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ(I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習(60分×7日×13回)とリスニング演習(60分×7日×13回)(それぞれ91時間相当)が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説(15分)
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説(15分)
- ・演習(文法問題・Reading・リスニング)(30分)
- ・問題解説(25分)

第15回 模擬テスト

- *宿題 読解演習・文法問題(60分×7日)＝毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回＝91時間)
- リスニング演習(60分×7日)＝毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回＝91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示(外国語教育センターの掲示版)を参照のこと。

ASU TOEIC II E

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ(I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習(60分×7日×13回)とリスニング演習(60分×7日×13回)(それぞれ91時間相当)が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説(15分)
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説(15分)
- ・演習(リスニング・Reading)(30分)
- ・問題解説(25分)

第15回 模擬テスト

- *宿題 読解演習・文法問題(60分×7日)＝毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回＝91時間)
- リスニング演習(60分×7日)＝毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回＝91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示(外国語教育センターの掲示版)を参照のこと。

ASU TOEIC II F

STEPHENSON, Brett DUNKLEY, Daniel

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2004A

CURRAN, Beverley

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

【Schedule】

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生（木曜日1限）、CURRAN, Beverley先生（金曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004A

WRINGER, Paul

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

First semester (AESa)
Personal information
Travel & vacations
Strange phenomena
Entertainment
Crime & capital punishment
Controversy

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生（木曜日1限）、CURRAN, Beverley先生（金曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004B

WRINGER, Paul

【Course Content】

週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。（1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。）

【Schedule】

Topics will be covered over a two to three week period and will include a variety of interesting and motivating themes selected mostly by the teacher.

Second semester (AESb)
The past
Current events in the news
Relationships
Food & Health
Fashion
The world of work

【Assessment】

Assessment will be continual and based on the following criteria:

ATTENDANCE
CLASS PARTICIPATION / EFFORT
HOMEWORK AND ASSIGNMENTS
END OF SEMESTER REPORTS
TOEIC SCORES

【Textbooks】

To be announced.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生（木曜日1限）、CURRAN, Beverley先生（金曜日5限）の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004B

CURRAN, Beverley

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

【Schedule】

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

【Assessment】

Assessment will be based on participation and effort.

【Textbooks】

No text required.

「上級英語セミナー2004B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WRINGER, Paul先生(木曜日1限)、CURRAN, Beverley先生(金曜日5限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004C

LONG, Jonathan E.B.

【Course Content】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

【Schedule】

Not yet determined.

【Assessment】

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

【Textbooks】

To be announced.

【Reference】

To be announced.

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004C

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

- 第一回
通訳一般概論 Sight translation
- 第二～十回
The Student Timesからの記事使用(テープ)
Shadowing Sight translation メモ取り
逐次通訳演習
同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004D

横山綾子

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

【授業計画】

- 第一回
通訳一般概論 Sight translation
- 第二～十回
The Student Timesからの記事使用(テープ)
Shadowing Sight translation メモ取り
逐次通訳演習
同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004D

LONG, Jonathan E.B.

[Course Content]

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

In this course the students will use all four language skills to explore the similarities and differences between Japanese and North American cultures. The class activities will include some TOEFL test preparation.

[Schedule]

Not yet determined.

[Assessment]

This will be a combination of attendance, class participation and homework.

[Textbooks]

To be announced.

[Reference]

To be announced.

「上級英語セミナー2004D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(水曜日3限)、Long, Jonathan E.B.先生(木曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004E

横山綾子

[授業の概要]

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか...等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献をして欲しいと希望します。

[授業計画]

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Times からの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

[評価方法]

出席状況 平常の実技評価 Translation test

[テキスト]

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004E

WOODMAN, Jo-Anne

[Course Content]

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .

c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

[Schedule]

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

[Assessment]

Assessment will include the following components:

1) Vocabulary tests - 3 types

2) Preparation for (and participation in) class discussions

3) Listening comprehension activities

4) Attendance

「上級英語セミナー2004E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

上級英語セミナー 2004F

WOODMAN, Jo-Anne

[Course Content]

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

Good translation / interpretation / communication requires, among other things, an extensive knowledge of vocabulary, so this course will require students to demonstrate a vast improvement in their vocabulary - in both written and spoken forms.

Vocabulary lists / tests will be generated from:

a) teacher presented materials - (ie. CNN and BBC news broadcasts, as well as a wide gamut of newspaper articles)

b) student research - (students will be required to prepare one newspaper article for class discussion each week - this will include preparing an extensive vocabulary list as well as brief background and contextual information about the article) .

c) TOEIC vocabulary text / materials

The course will deal with contemporary issues throughout the world, so emphasis will be placed on encouraging the students to improve their general knowledge of world affairs.

Inherent in this course will be the need for the students to "think on their feet", that is to say they will have to glean as much information as they can from class presentations and then ask questions and participate in discussions.

[Schedule]

The aim of this course is to discuss up-to-date issues, so the schedule will be determined by the current events of the week. However, students should expect to address social, economic, political, religious, environmental, medical and other such issues.

[Assessment]

Assessment will include the following components:

1) Vocabulary tests - 3 types

2) Preparation for (and participation in) class discussions

3) Listening comprehension activities

4) Attendance

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)、横山先生(火曜日3限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【授業の概要】

週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。総合的な評価を行う。

4年間続けて履修できる。(1年生・編入生は1年目の前期は受講できない。)

習得した英語を使い、さらに通訳になるための訓練に進むと、今までの学習内容とは異なったものも要求される事に気がつくでしょう。それは言語の知識、訳出技術に加え論理的思考や外国人と心のcommunicationをしたいと思うか、未知の事柄や社会の問題を知りたいと思う好奇心があるか…等です。

さらに人に頼らず判断し、自分の考えを表現する自主性も大切です。このクラスではニュース記事とテープを使い、時事英語の知識と通訳に欠かせぬFIFO(First in First out)の技術を体得します。さらに自然で美しい日本語への訳し方、学習した時事問題を分かりやすい英語で話す練習もします。

Memoを取りspeedyな訳出も出来るようになって欲しいと思います。最終的には国際的な場面で社会の問題を話し合える知識と技術を身に付ける、そして国際交流に貢献して欲しいと希望します。

【授業計画】

第一回

通訳一般概論 Sight translation

第二～十回

The Student Timesからの記事使用(テープ)

Shadowing Sight translation メモ取り

逐次通訳演習

同時通訳入門

【評価方法】

出席状況 平常の実技評価 Translation test

【テキスト】

The Student Times その他

「上級英語セミナー2004F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。横山先生(火曜日3限)、WOODMAN, Jo-Anne先生(水曜日4限)の両方の授業に出席し、それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントン D.C.にある Civil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントン D.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米の NPO、ボランティア団体等の現状学習・日本の NPO、ボランティア団体へフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる宿舎オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション宿舎・基本的に月曜から金曜までの 5 日間のインターン・1 日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ (事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価 (受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書) を考慮し全体評価を行う。

ASU TOEIC I F

鈴木久子

【授業の概要】

TOEIC スコア 470 点以上の学習者を対象とする全学向けの TOEIC 対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に 2 コマ (I、II の両科目を受講した場合)、4 年間続けて履修できる。週 1 回に 2 単位とする。学期末の TOEIC 受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ 91 時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーションおよび模擬演習

第 2 回～第 14 回 演習・解説、Vocabulary テスト

- ・1 週間の宿題の範囲から Vocabulary の小テスト・採点・解説 (15分)
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
- ・演習 (文法問題・Reading・リスニング) (30分)
- ・問題解説 (25分)

第 15 回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回 7 時間相当分

(合計 7 時間×13回=91 時間)

リスニング演習 (60分×7日) = 毎回 7 時間相当分

(合計 7 時間×13回=91 時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

ASU TOEIC II F

PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEIC スコア 470 点以上の学習者を対象とする全学向けの TOEIC 対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に 2 コマ (I、II の両科目を受講した場合)、4 年間続けて履修できる。週 1 回に 2 単位とする。学期末の TOEIC 受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ 91 時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第 1 回 オリエンテーションおよび模擬演習

第 2 回～第 14 回 演習・解説、Vocabulary テスト

- ・1 週間の宿題の範囲から Vocabulary の小テスト・採点・解説 (15分)
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
- ・演習 (リスニング・Reading) (30分)
- ・問題解説 (25分)

第 15 回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回 7 時間相当分

(合計 7 時間×13回=91 時間)

リスニング演習 (60分×7日) = 毎回 7 時間相当分

(合計 7 時間×13回=91 時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

上級英語セミナー 2004B

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2 人の担当教員による週 2 日の授業で 1 セット (4 単位) を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEIC スコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末の TOEIC 受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4 年間続けて履修できる。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1 回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。

(CURRAN, Beverley 助教授) 受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

(難波豊子兼任講師) スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日 5 限 (担当教員: 難波豊子)、木曜日 5 限 (担当教員: CURRAN, Beverley) の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。